

Tracing **50** years
of
Sophia Golf Club

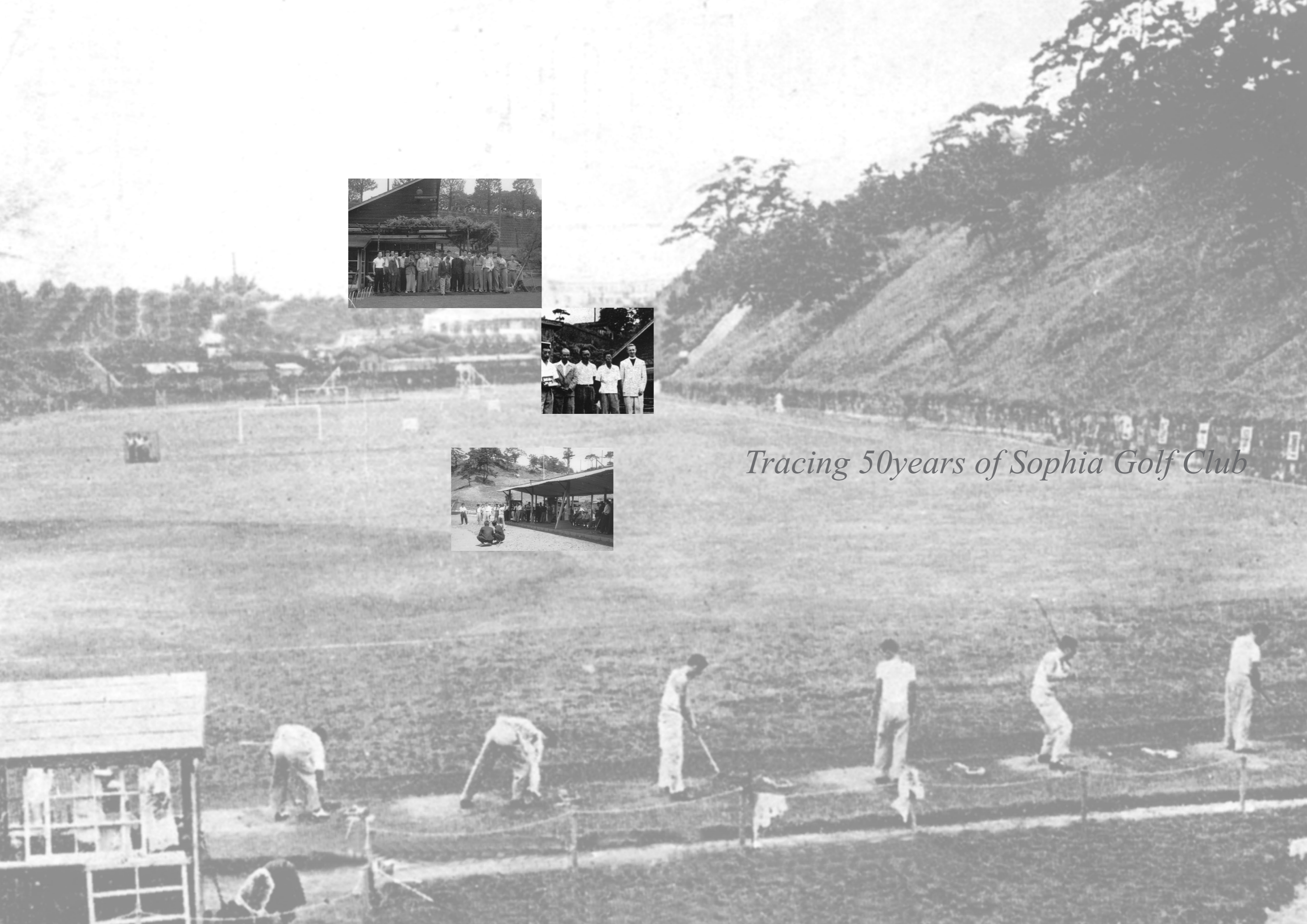


Tracing **50** years
of
Sophia Golf Club

上智大学体育会ゴルフ部 50周年記念誌



Tracing 50 years of Sophia Golf Club



Tracing 50years of Sophia Golf Club



Tracing *50* years of Sophia Golf Club

上智大学体育会ゴルフ部 50周年記念誌

ご挨拶 2p

ゴルフ部初代部長
山室宗忠先生の「贈る言葉」 4p

上智大学体育会ゴルフ部創立事情 6p

アンケートでたどる、ゴルフ部50年のあゆみ ... 18p

ゴルフ部からうまれたカップル 74p

エッセイで綴る、ゴルフ部の50年史 76p

細川護熙・佳代子夫妻に聞く
「ゴルフ部時代とその後、そして今」..... 98p

上智大学体育会ゴルフ部OB会のあゆみ 104p

編集室より ~編集をおえて~

上智大学体育会ゴルフ部 50周年記念誌

Tracing 50years of Sophia Golf Club

発行日： 2003年11月9日

発行者： 上智大学体育会ゴルフ部 50周年記念誌
編集委員会

発行所： 上智大学体育会ゴルフ部 OB 会事務局
サンウッド内 TEL：03-3288-2727

ご挨拶

我が上智大学体育会ゴルフ部は、本年めでたく創部50周年を迎え、卒業生の数も500名を超えるまでに成長することができました。

1953年、村田栄・清田光俊・牧野喜美男・松浦史郎の四氏でスタートして以来、一貫して学生ゴルフとしての本分をわきまえ、各界に幾多の人材を輩出してまいりましたことは、我々の誇りであると同時に大きな喜びであります。

これも、先輩諸氏ならびに歴代ゴルフ部員の並々ならぬご努力の賜物と深く敬意を表する次第であります。また、創部以来ご指導いただきました大学当局、ご支援いただきました日本ゴルフ協会・関東学生ゴルフ連盟、そしてご親交をいただいております各大学ゴルフ部の皆様に心より感謝するものであります。

さて、この度創部50周年の記念誌を刊行することになりました。過去にも「The 19th Hole」という名の記念誌を発行したことはありましたが、今回の50周年記念誌は、今までの集大成として編集いたしました。過去50年間の活動の軌跡を部史として記録することにより、輝かしき歴史と伝統を後輩に引き継いでいくことが我々の責務であると考えた次第であります。記念誌編集にあたり、資料の収集やご寄付などで多大なご協力をいただいた方々に心より御礼申し上げます。

今後は、上智大学体育会ゴルフ部の益々の発展を期して、OB・現役共々一層の努力をする所存であります。関係各位のご指導ご鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます。



上智大学体育会ゴルフ部OB会
会長 益野力一
(昭和42年卒)

歴代会長挨拶

上智大学体育会ゴルフ部創部50周年おめでとうございます。私もそれだけの年月をゴルフと共に過ごして来たのかと振り返って感無量のものがあります。遊び半分でクラブを握ってから50年も過ぎ2001年にはOBの皆様から古稀の記念品を頂戴(その節は誠に有難うございました)するまでゴルフをし続けて来られました。「人生は、それがどんなものであるのか知らないうちに半分過ぎ去ってしまう」と申しますが、私の人生の半分以上はゴルフとの付き合いでした。40歳台の頃には何とか70歳位迄はゴルフが出来るかな?と遠い先の様に思っていたものでした。早やそれも過ぎましたが、気持だけは若い人に負けまいと頑張っています。ゴルフ部に籍を置いたればこそ同期生ばかりでなく卒業後は若い方々との集いの機会も多く、恵まれた人生であったし、またこれからもそうありたいと願っています。

ゴルフ部員として最初の卒業生という事で初代のOB会会長を引き受けてまいりましたが、吉田氏の会長就任以来、しっかりとした組織のOB会が運営される様になりました。勿論サポートをして下さった皆様の尽力があったればこそです。50周年を迎えるにあたり記念行事が行われますが、役員皆様方の大変な努力のお陰と感謝申し上げ、ゴルフ部OB会の益々の発展をお祈り致します。



昭和31年卒 村田 栄

本年、上智大学ゴルフ部が創立50周年になると聞き及んで我身のお粗末な成果の長命に虚しさすら感じております。何せ自分はお恥ずかしい技量のゴルフしか持合わせがなかったので誇れるような実績はありませんし、一時期当部のOB会会長を拝命したものの、OB会の皆様にはご迷惑ばかり掛けておりましたので、人前に出るのも躊躇している次第です。

そんな自分でも、未だに細々ながらもゴルフプレーを自分なりに楽しんでおりますのも、自分に挑戦する自己表現として誠に面白く、且つ同伴プレーヤーの器量を勉強するのに解り易い、正に人生の生き方、歩み方の参考になるものだと感じているからです。

大学入学直後に、校庭の土手の上からゴルフボールを打っている人々を見て、また学生にはボールを安く打たせてくれることもあって、ゴルフを始めてみたら、相手や環境に文句が言えない、全てに対して自分の責任で処理するスポーツと解り、興味深く感じました。緑豊かな自然の中で、今日の自分のゴルフはこうありたいと挑戦のスタートをするのですが、いつもほとんど自分が惨敗、挑戦と惨敗のくり返しの45年、飽きもせずその道の上を自己表現しながら歩んで来ました。皆様の御指導を得て、さらに長く歩き続けることを期待しております。

最後になりましたが、上智大学ゴルフ部のますますの御隆盛と、会員皆様の御健勝をお祈り申し上げます。



昭和36年卒 坂口弘征

わが人生を顧みて、最大なる喜びと教訓を与えてくれたのはゴルフである。最近に於ける日本のゴルフ界を見ると、この偉大なるゲームを単なる娯楽としての地位に甘んじ、ゴルフの歴史、文化、伝統を正しく真剣に学ぶ気風に完全に欠けているとしか思われぬ。よって大学の後輩達に以下の文章を贈ることにより、日本のゴルフ界を再建する礎になってもらいたい。

- ゴルフは静謐を旨とする。大声蛮語は無教養の証し、ゴルフに相応しからず。
- いかなる局面に遭遇しようとも、己れの有利に振る舞うな。試練こそゴルフの本質と知れ。
- 相手に気を配れ。自分が楽しめたかたらず相手を楽しませよ。自分本位の言動こそ天下の恥なり。
- 何があってもくさってはならぬ。わがままなる態度は友を失う。
- 言い訳をしてはならぬ。紳士たるもの詭弁を弄して己れの利を企るべからず。常に沈黙して微笑せよ。
- マナーはゴルフに限らず、人の基本的な道なり。

以上は100年前のオックスフォード大学ゴルフ同好会の訓示である。



昭和32年卒 吉田 勉

山室宗忠略歴

明治41年4月20日

東京府本郷金助町にて山室宗文長男として誕生

大正2年

私立成蹊小学校入学

大正6年

渡米

ニューヨーク市ブロンクス小学校入学

大正11年

ブロンクス中学卒業

同年渡英 ロンドン市 ダウレッジ パブリックスクール入学

大正14年

ケンブリッジ大学トリニティ・ホール・カレッジ入学

ラザフォード教授(ノーベル物理学賞受賞)に師事

昭和4年

同大卒業 帰国

東京帝国大学航空研究所入所

昭和10年

有田萬里子と結婚

三菱重工業株式会社名古屋発動機製作所入社

航空機エンジンの振動について研究

昭和21年

東京機器株式会社大船製作所入社

昭和27年

上智大学一般教養物理学教授となる

同時に国際部にて物理、数学の教鞭をとる

昭和36年

理工学部物理学教授となる

昭和48年

65歳にて定年退職 名誉教授となる

70歳まで囑託として教鞭をとる

昭和57年

勲4等旭日小綬章叙勲

平成4年7月21日

死去(享年84歳)

■ 二十周年にあたって ■

ゴルフ部の創立以来二十年の間を振り返ってみると楽しい思い出がたくさんある。なかでも、村田氏を中心とした創立当時の出来事と昭和四十年にCブロックからBブロックに昇格したことなどが特に深い印象として残る。しかしこれらの事は、他の執筆者に譲り、今回は多少上智のゴルフ部のありかたについて述べたい。

大学で行なうゴルフはあくまでも試合中心であるからその試合に勝つのが本来の目的であろう。しかしいくら勝とうと思っても相手あってのことであるから、相手が当方よりも強ければ勝つことはできない。従って、いかなる相手よりも強くなることをめざすわけである。しかしこれにはいくつかの条件が伴う。まず十分に練習する時間があることと自分がいつでもプレイできるホームコースを持っていることである。これらの条件を十分に満足できない状況においては、ゴルフの上達には限度がある。従って与えられた範囲内において最上の力を発揮できる技術と精神力を養うことが大切である。これは上智大学ゴルフ部の部員に課せられた最小条件である。これを守った上での試合に勝つとか負けるとかは問題ではない。つまり勝負だけに拘泥してはいけないということである。

次に、ゴルフは紳士のゲームである。ここでいう紳士とは着飾ったダンディを意味するのではない。ゴルフは自分自身が審判であるゲームである。従ってルールを良く知ることが必要である。そしてそのルールを忠実に守ることが紳士の条件である。ゴルファーは定められたルールをアクセプトしたうえで試合に臨むのであることは他のスポーツと変わりはないが、プレーヤー自身が審判であるゴルフにおいてはこの点を各人が良く理解することが重要である。ゴルフをやる以上、定められたルールをあくまでも守らなければならない。それを知っていてできないなら紳士ではなくゴルフをやめるべきである。

最後に、ゴルフは相手と共にプレイするゲームであるから相手を不愉快にするような行為は避けなければならない。ルールブックに書いてあるエチケットを守れば相手を不愉快にすることはあまりないが、それは最低条件である。人間同士のゲームであるから人間関係の友情そして寛大さをもってゲームに臨むべきである。いずれにしても共に楽しくプレイすべきである。これは大きな試合においても同じである。負けた相手に対していばることなく、こちらがより良いゴルフをしたから勝ったのであることを快く認めさせるべきである。またこちらが負けた場合、つまらない言いわけなどしないことである。これほど相手やまわりの人を不愉快にすることは少ない。ただ自分のベストを尽くして負けたのだと認め、まだまだ勉強が足りなかったのだと自覚し発憤すべきである。これこそゴルフを楽しくプレイする秘訣である。他の事はともかくこの点については私は五十年の経験から自信をもって述べるのである。

二十年の歴史も去ったが、これからの上智のゴルフ部も今までのように他の大学の持っていないものを持つ良いゴルフ部であることを望む。これこそ創立当時の諸氏が作ったゴルフ部の二十年間に発展した姿であるべきだと私は信ずる。

(昭和48年発行/ザ・ナインティーンズ・ホール第3号より)

■ 十五周年にあたって ■

上智大学ゴルフ部の十五周年を迎えたことによって、創立以来の懐古談をするのが当時から部長であった私にとって当然の義務であると思うが、筆の立たない私がそんな大それたことをするよりも、先輩の方々にお任せした方が良いと思うので、ここではとりとめのないことを書くことにした。しかし一言、当時の創立者である村田先輩を始め、吉田、田中、伍堂、古知、林諸先輩が今もなお、上智のゴルフ部に深い関心を持ち、創立者としての誇りと責任を持って物心両面の援助を惜しまないことには深く感謝する次第である。

私がゴルフを始めたのは、今から四十五年前である。ロンドンの郊外の或るゴルフ場で父と一緒にまわったのが最初である。もちろんウッドもアイアンもシャフトはヒッコリーであった。中、高等学校時代はラグビー、大学時代はラグビーとボートの選手だったのでゴルフはほとんどやらなかったが、昭和五年に帰国すると同時に、当時チャンピオンコースだった武蔵野ゴルフクラブに入会してから週に一回位やるようになった。そして夏は軽井沢でおおいにやった。当時の軽井沢のメンバーには鍋島(日本アマ優勝三回)、細川(細川先輩のお父さん)、原田(故人、日本アマ優勝一回)、小寺(JGAのおえら方)諸氏、ゴルフ界の錚々たる方々がおられた。当時私のハンディは10であったが、ほとんどシングルばかりの人達に交じって、一度だけ(昭和九年?)新軽井沢のクラブ選手権にクオリファイして(当時八人)一回戦で細川氏に善戦?の後、敗れ去った。このことは、その前にいくつか(あまり沢山ではないが)クラブのコンペティションで優勝したことよりも、私のゴルフ生活の内ももっとも誇りとしていることである。

ゴルフ部が十五歳になると同時に私は六十歳になった。そしてゴルフ部が十五周年記念を柏カントリーで迎えた時、OB、現役の方々が私の還暦をも祝って下さった。一日楽しいゴルフをさせていただいた上、数々の記念品をいただき大きな大きなバースデーケーキのローソクを吹いて消す時、私の胸は感激と感謝でいっぱいであった。私はほんとにあの日のために六十年前に生まれたのではないだろうか。

終りに、縦横のつながりの強い上智のゴルフ部(男子女子共)の将来の発展を祈ると同時にほんとに微力ながら今後も部長としてできるだけのことをしたいと思う。

(昭和43年発行/ザ・ナインティーンズ・ホール創刊号より)

ゴルフ部初代部長 山室宗忠先生の

「贈る言葉」

故・山室宗忠先生は、ゴルフ部の初代部長として、つねに学生と一緒に在ってくださった方。

先生は、ゴルフを通してルール・エチケット・マナーの大切さを教えてくださいました。学生時代にたまたまこまれたルール・エチケット・マナーの重要性が、皆さんの人生のいろいろな局面で役立ってきたのではないのでしょうか。15周年記念誌と20周年記念誌に記されたことばをもって、山室先生のメッセージを再確認し、上智大学ゴルフ部のあるべき姿勢を守り伝えたいと思います。



上智大学体育会ゴルフ部創立事情



上智大学体育会ゴルフ部が誕生したのはいまから50年前の昭和27年。生まれていたOBの数は多くはありません。戦後10年もたたない当時、ゴルフはどういうスポーツだったのか、またどうしてゴルフ部をつくらうということになったのか。ゴルフ部創立者ともいえる村田栄氏をはじめとする6人の先輩にお話をうかがいました。

Column コラム

GOLF MONTHLY 1951年10月号 / 1952年12月号より

四谷ソフィアゴルフ場開く



四谷ソフィアゴルフクラブ祝別式に於ける中央はミヘル神父、トレッシー氏(上智大学運動部長)右と(左)佐野直次郎氏(四谷ソフィアゴルフクラブ代表者)。

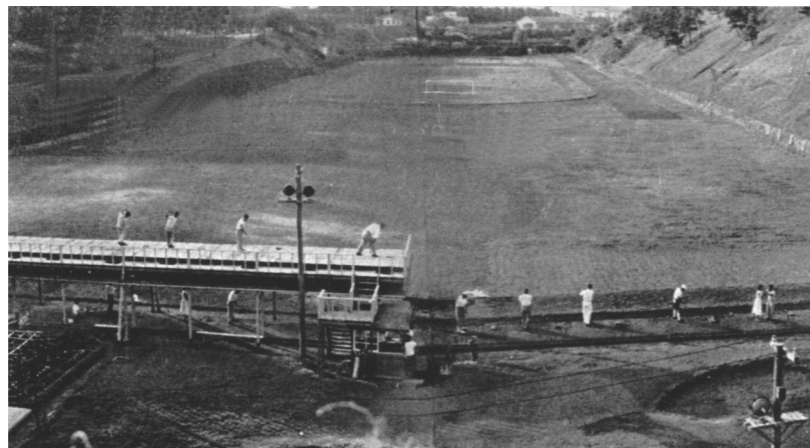
下は始球式に於ける元運輸次官平山孝氏。



四谷ソフィアゴルフクラブ開場

昨年来より急激にゴルフ熱が昂まり都内に適当なる練習所の設立が要望されていたものであるが、これに応えるものとして日本ゴルフ釣具株式会社では予てより各界名士ゴルフ並に上智大学の後援により四谷駅横の上智大学運動場に設立すべく準備を進めていたがこの程一切の設備が完了し去る8月1日同所に於て盛大なる開場式を行った。この練習所の規模はティーショット250ヤードで次のような設備があり、特に照明設備の完備により夜間ゴルフを楽しめる唯一の練習所である。

- 1 クラブハウス 16坪
- 2 ティーランド
- 3 アイアンショットランド(芝生)
- 4 アプローチランド(芝生)
- 5 パッティンググリーン(芝生)
- 6 バンカー
- 7 インドアー式ランド
- 8 夜間照明設備(投光器使用)
- 9 朝8時～夜9時
- 10 同時50人プレー
- 11 ボール2打 会員80円
 ビジター140円



出席者

昭和31年卒 村田 栄 / 清田光俊

昭和32年卒 吉田 勉 / 古知朝彦 / 田中哲哉 / 伍堂光雄

ゴルフ部の誕生秘話

現在、上智大学のゴルフ練習場がある真田堀運動場は、大学が昭和24年に東京都と契約をして以来今日まで、都から借り受け、学生の授業や課外活動に使用している土地である。昭和26年、日本ゴルフ釣具株式会社から上智大学に対して、真田堀運動場を都民のゴルフ練習場として使用したい旨の建設許可願が提出された。当時は学生数が800人不足で、草刈りなどの管理が思うにまかせない状況にあった大学側は、学生の運動に支障のない範囲でという条件でこれを許可。昭和26年8月1日に、日本ゴルフ釣具株式会社の運営、上智大学の施設管理のもと、大規模なゴルフ練習場「四谷ソフィアゴルフクラブ」がオープンしたのであった。

村田 私がはじめてソフィアゴルフクラブでクラブを握ったのは、1年生のときだから昭和27年。入学してすぐテニス部に入り、テニス部の夏の合宿が終わったころ、ひとりでソフィアゴルフクラブ場へあそびに



いったんです。そしたら上原正一プロとか山口春雄プロがこうして打つんだと教えてくれてね。朴葉(下駄)をはいて行ったので、そのまま打ったよ。当たらなかったけど、なかなかおもしろいなと思った。その幾日かあとに、大学構内に大きなスピーカー音で「ゴルフの同好の士をつのるの



四谷ソフィアゴルフクラブ」クラブハウスの前で

で、志のある学生はソフィアゴルフクラブに集合するように」というジョンストン神父の放送が流れたんだね。その放送を聞いて、そろそろ30人あまり集まった。でも金がかかりそうだったのでやめちゃった人も多くて、結局最後にのこったのは数人だったんだけど、翌年になって募集したら、同じ経済学部清田さんやら、1年生の吉田、田中、古知、伍堂らが入ってきたわけです。

吉田 ぼくは大学まで2時間以上かかる遠距離通学で、通学路が同じだった村田先輩に誘われたのが、我がゴルフ人生の始まりですよ。



清田 私が入って、ボール2ダース一籠50円を、学生は30円になるように交渉した。また、上智のゴルフ部の学生は、カードを見せれば再入場するときに入場料をとられないようにしてもらったりもしたんだよ。

村田 ほかにもクラブハウスによく来るヤツは何人かいたけど、練習はしなかったね。もっぱらクラブハウスのティーショップでミルクに砂糖を入れては掻きまわしていた(笑)。そこにいる女性がめあてなんだから。松浦(史郎)くんはマネージャーの仕事をやってもらってたけど、牧野(喜美男)くんはひたすら……。結局、彼は受付にいた田中さんといっしょになった。結婚の通知が来た時は驚きましたよ。

清田 あのところは経済学部と神学部くらいしかないし、女子学生はもちろんなくて、学校で女の人といえば図書館にしかいないんだもん(笑)。女子が入ったのはわれわれが卒業したあと、昭和33年からじゃないかな。



村田 とにかく、硬派は私だけ(笑)。

学生ゴルフは大正11年創部の慶応、昭和5年創部の明治、昭和9年創部の早稲田を中心に戦前から大学対抗定期戦、関東学生ウィンタートーナメント、招待競技といった競技がおこなわれていたが、全国の大学を統括した選手権競技の開催や学生ゴルフの指針を打ち出す本格的な活動は、関東学生ゴルフ連盟が昭和10年2月に設立されてからである。だが、昭和12年、日中戦争が勃発して日本は



戦時態勢に入り、舶来色の強かったスポーツはことごとく排除される中、学生ゴルフ連盟は昭和15年、政府から解散命令が出されて活動が制限された。

復興に向けて動き出したのは、世の中が安定し始めた昭和20年代の中盤以降であった。昭和26年頃、関西では京都ゴルフコースで戦前の名手、成宮喜兵衛氏(昭和7年の日本アマチャンピオン)が中心になって愛好者が集まり競技会を開くようになり、7月には連盟結成に漕ぎつけた。一方、関東でも、早稲田の金田武明氏を中心にした同好会が誕生し、不自由な環境のもとで競技会を開きながら、自分たちの手で規約を作り、学生の関東連盟を結成させよう、と話し合いが再三開かれた。金田氏を囲んで、慶応の永田竜太郎氏、嘉納忠夫氏、橋上靖一氏らが時のメンバーだった。

この動きに賛同し、支援の手を差し伸べたのはアマチュアスポーツの振興に熱を入れていた朝日新聞社だった。戦前からのゴルファーで元運動部長だった植村陸男氏の計らいで同社企画部が中心になって連盟設立を支えた。実務面の指導に当たったのは企画部嘱託の二宮順氏。アメリカ育ちで英語とゴルフをよく理解していた。至上命令を受けた二宮氏は組織化にすぐ対応した。

昭和28年7月1日、東京・有楽町にあった朝日新聞社東京本社で関東学生ゴルフ連盟の発会式を挙行政した。参加したのは慶応、早稲田、明治、上智(昭和27年創部)、学習院(昭和28年創部)、立教(昭和28年創部)の6大学。初代会長に、慶応義塾の塾長、潮田江次先生を推戴し、『技術の向上、真のスポーツマンシップを学び、学生生活をより豊かにすること。ホームコースを持たない人、技

関東学生選手権朝日杯の招待合宿



S32年7/29～8/2山中湖富士ゴルフ場にて藤岡(35卒)(前列左端)、大木(36卒)(前列右端)後列中央はお世話になった朝日新聞の二宮氏

術の未熟な人々に十分な練習の機会が得られるよう勤め、立派な学生ゴルファーを出すこと』というスローガンを掲げた。

こうして関東、関西の連盟の地固めができたところで両連盟共催の形で全日本学生ゴルフ連盟の試合開催が決まり、その年の11月17・18日、朝日新聞社の後援で全日本学生ゴルフ選手権が廣野ゴルフ倶楽部で開催された。2日間72ホールストロークプレーで優勝が争われた結果、松本富夫氏(慶応。現全日本学生ゴルフ連盟会長)が優勝した。昭和15年以来13年ぶりの復活となった学生ゴルフ選手権には東西の予選を勝ち抜いた30人が出場した。上智からは、村田栄、田中哲哉の両氏が参加、田中氏は通算414打でまわり23位、村田氏は460打で29位の成績を残した。この大会が今日おこなわれている日本学生ゴルフ選手権(日本ゴルフ協会主催)のルーツである。

一方、同じ年度にもう一つの日本学生ゴルフ競技が東京ゴルフ倶楽部で開催された。こちらは読売新聞社が企画した招待競技で、松本昭男氏(慶応。松本富夫氏の実弟)が優勝している。上智の田中哲哉氏も参加したが、この大会はたった一回の開催に終わった。

昭和30年、植村陸男氏の発案で、朝日新聞社は朝日杯争奪全日本学生ゴルフ選手権と信夫(しのぶ)杯争奪全日本大学競技を創始した。朝日杯は個人戦、信夫杯は団体戦。信夫杯の信夫は、当時朝日新聞社の専務取締役だった信夫韓一郎氏の名を戴いたものである。ゴルフ好きの信夫氏は『この大会の根底を流れる理念は、大学スポーツの原点はチームプレーにある、というアメリカの大学スポーツの精神を取り入れた。母校愛に燃えて応援することは人間形成に役立つし、母校愛の精神の涵養に役立つ』と力説して学生ゴルフに熱いエールを送った。その後、女子競技(朝日、信夫杯とも)が加えられた。

しかし朝日新聞社も自社主催の競技とあわせて二つの支援は負担が大きくなり、『学生選手権は立派に育ちました。これから先は日本ゴルフ協会で成長させてもらいたい』と日本ゴルフ協会に学生選手権の主催を申し入れた。これを受けた日本ゴルフ協会では一部で反対の声もあったが、昭和34年霞ヶ関CCで開催された日本学生ゴルフ選手権から、日本ゴルフ協会主催としてスタートし今日に至っている。

当時、関東地区の学生ゴルファーにとっては、日本学生選手権、関東学生選手権、東西対抗が主要競技で、これに出場でき、好成績を収めることが大きな目標だった。

吉田 朝日新聞社の講堂で開かれた関東学生ゴルフ連盟の発会式には1年のほくも行きましたよ。

村田 連盟に入るのなら部長が必要だろうというので山室先生にお願いしに行ったんです。山室先生はよくゴルフの練習に来ていらしたから。

清田 山室先生は物理の先生だったけど、文武両道で、ゴルフに陸上競技にラグビーもよくされた。

村田 先生はあそこ45歳位だったと思うけど、陸上競技の現役と一緒に走って遜色なかったよ。すごかった。その年に廣野ゴルフ倶楽部で第1回のコンペがあって、私と田中が出た。

田中 ほくは1年生だったけど、あそこコースをまわったことのある人がほとんどいなかった。ほくはどういうわけか2回くらいまわっていたから出たんです。そのコンペの前に読売新聞社主催の全日本学生ゴルフ選手権大会に出たらしくて、ほくはよく覚えてないんだけど、そのときのスコア表が出て来たんですよ。慶応から7人、早稲田2人、学習院2人、立教1人、関西の甲南から5人、関学(関西学院大学)から5人出場しています。この大会会長をつとめた安田庄司さんという方が、おそらく読売の社長で上智の出身だったんです。



吉田 関東では慶応のグリーンクラブがだんとうだった。金はあるし、人数も多かったから。学習院はまだ正式なゴルフ部になってなくて、安田財閥の御曹子の安田弘さんらが個人的に出場してました。当時は出場選手の数は決まなくて、ひとりでも何人でもよかったから。関西は甲南と関学。この3校が圧倒的に強くて、早稲田と上智はせつてた。

村田 当時の試合は朝日新聞社主催で、朝日がプレーフィーとか全部もってくれるんだから、キャディ付きでした。企画部の二宮さんも食事に誘ってくれたり、個人的に面倒をみてくれた。二宮さんは自分はゴルフはしないのに学生ゴルフに熱心で、個人競技だけでなく団体競技をつくらうということで、信夫氏が役員だったころにくどいて、大学対抗の信夫杯ができたんです。

吉田 昭和30年にほくと村田さんと、1年下の内田(隆三)とが日本学生ゴルフ選手権に選抜されて、京都の上賀茂カントリークラブへ3人で行ったでしょ。夜行列車代や宿泊代があるんだけど、家からもらったお金と学校の部費のほかに、朝日新聞社の補助金が出たからね。それで気をよくして、試合の前夜、祝杯をあげに祇園へ乗り込んだものだから、翌日の試合はさんざんだった(笑)。

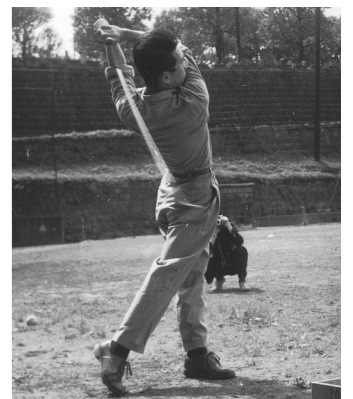
古知 あのととき内田は予選の霞ヶ関西コースで早稲田の杉田とプレーオフをしたんですよ。あたりが暗くなったので車のヘッドライトをつけてグリーンを照らしたのでよく覚えている。そこで内田が先にホールインして勝って、そのまま夜行に乗って京都へ行ったんです。



村田 その前日に東西対抗戦があるんだけど、東西対抗戦にはメンバーから外れているといわれたので、吉田と二人ゆっくり昼頃行ったら、早稲田の連中が「村田さん何やってんの、来ないから牛込が出て負けちゃったよ」ってこともあったなあ。話はもどるけど、昭和28年の年度はじめに部として予算をとろうと思って、清田、松浦と3人で交渉に行ったら、予算の審議委員はだれもゴルフのことなんか知らないから、ゴルフの競技方法やら精神やらを一から説明しなくてはならなくて、たいへん時間がかかった。

古知 旧軽で夏の合宿をしていたときに、学校から体育会に昇格して予算がおりたという連絡があったので、1年のほくと松浦が山をおりて予算をもらいに行きました。

吉田 だから村田さんを発起人的な形にした同好会に、われわれ1年生が入って、はじめて組織的にゴルフをやるだけの人数が集まった。それで部にしようということで昭和28年に上智大学体育会ゴルフ部ができた。それから、みんな一生懸命練習するようになったんですよ。



吉田勉さんのスイング



清田 ぼくらは村田くんを頂点として2、3人でやったけど、花を開かせてくれたのは伍堂くん、吉田くん、古知くん、田中くん、亡くなった林(リン)くんたちなんだ。

S60年3月台湾ゴルフツアー



左から林、田中、村田、吉田

大物やプロといっしょに練習

「四谷ソフィアゴルフクラブ」は、現在のゴルフ練習場と弓道部の練習場のあたりに、クラブハウス、ティーグラウンド、芝生のアイアンショットグラウンド・アプローチグラウンド・パッティンググリーン、さらにはバンカーの練習場も付設された本格的なもので、四谷駅方向へ250ヤード飛ばせるティーグラウンドが何よりの売りであった。夜間照明も完備で、朝8時から夜9時まで営業していた。ただし、野球部の練習や授業でグラウンドを使用している間は、数ヤード先にネットが張られた。ちなみに昭和25年当時、東京都内にあった一般のゴルフ練習場はわずか10か所ほどで、それも銀座ゴルフや美津濃といったショップ兼用の施設をふくめての数である。ソフィアゴルフクラブのような「打ち放し」のできる練習場はきわめてめずらしく、当然、人の集まる人気の練習場となっていたのである。

古知 松浦マネージャーは野球部のマネージャーを買収して、といっても昼飯をごちそうするくらいだけど、なんとか練習の開始時間をおくらしてくれと頼んでくれました。ネットが張られてしまうと、飛ばせなくてつまらないからね。

清田 四谷駅側にあるテニスコートに打ち込むのが目標だったな。スライスするとボールが土手にぶつかって落ち

て来た。

伍堂 ゴルフ場で、毎年六大学のゴルフ部の選手を集めて「関東学生ドライビングコンテスト」をしたね。下の写真もそのときのものだけど、学長もいますよ。はじめに練習用にボールを2個わたして、本番は3球打って最長距離を競う。1年下の内田隆三が300ヤード飛ばして優勝したこともあった。もっとも自慢のパイロン・ネルソンのクラブのおかげかもしれないけどね。



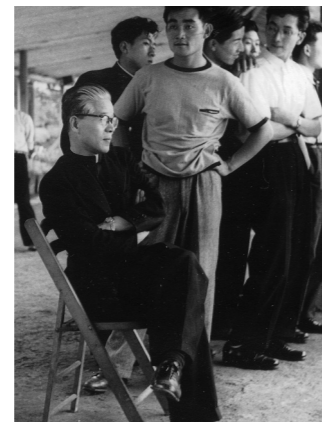
伍堂光雄さんのスイング

田中 ときにはボール拾いも手伝いました。練習中でも、車輪付きのネットガードを動かしながら、網でボールを拾っていくんだけど、打つ方はそのネットをねらって打つんですよ。打者がいないときは、ピッチングエッジで打席のほうまで打ち返したりね。

古知 当時のソフィアゴルフクラブには大物が大勢来て

四谷ソフィアゴルフクラブで

S31年5月11日関東学生ドライビングコンテスト風景



(上) 内田隆三さんのスイング
(左) ドライビングコンテストを見学する大泉学長

いました。吉田茂内閣で自民党幹事長をしていた佐藤栄作が、造船疑獄で起訴されて冷や飯をくってたから、暇を持って余してしょっちゅうゴルフの練習に来てた。上原正一プロが先生でね。ベン・ホーガンの『パワーゴルフ』を訳した作家の水谷準も毎日来てた。いつもベレー帽かぶってね。ネットを張っちゃうと、水谷先生が塀のうえにのぼって球をおいて、何打で練習グリーンホールに入れられるとか、いろんなことをやるので、いろんな打ち方を覚えてしまった。

村田 バンカーの砂の中にボールを足で埋め込んで、何打で出せるかとかね。みんな、われわれが授業を抜け出して来るのを待ってるんだから。こっちも待ってると思うから、授業受けてても気が気じゃないんだよ(笑)。上原正一プロ、山口春雄プロ、若いアシスタントプロの渡辺さん、水谷準、そしてわれわれ、いつもいっしょでした。

吉田 劇作家の川口松太郎、ジャイアンツのピッチャー藤本英雄、川上哲治も常連だった。藤本さんなんか、フォルクスワーゲンに乗って門のところまでぼくを待っていてね、「おい。学校に行かずに乗れ」って言って、そのまま千葉カントリーに行っちゃった。佐藤栄作夫人にもかわいがられたね。

村田 三菱自動車販売の荒井さんという常連が、個人レッスンのコーチに中村寅吉をソフィアゴルフクラブに呼ぶから、その時に行くと、寅さんがただで教えてくれた。そのついで寅さんの所属している東雲ゴルフクラブに行くと、寅さんがいない場合でも、石井朝夫(ともお)プロとかがただでラウンドレッスンしてくれた。渡辺さんも、私と気が合ったので、東雲に行くときにはついて来てくれた。東雲はいま有明テニスの森公園(江東区)になってる所だけど、四谷から東京駅まで国電で行って、そこからバスで晴海埠頭まで行って、そこで電話をかけて手漕ぎの船で東京湾を渡ると、船着場にジープが迎えに来てるんだ。コースは前にも後ろにもプレーしてる人がいないんだから、すぐにまわれちゃう。バスの道も空いてるし。授業をさぼってずっと行ってラウンドして来て、午後からしらばっくって授業に出たこともあった。でも、しょっちゅう行っていると、授業日数が足りなくなってくるから、冬休みあけからはずっと授業。だから、ゴルフ部としてやるのは練習場での練習で、コースへ行ったりは個人的にしていましたね。プレー代はたしかノーキャディーで200円だったと思う。初任

給が8000円くらいの時代ですよ。

吉田 ラーメンが一杯30円だった。いま500円か600円とすると、約20倍だから、4000円くらいになるかな。でもあの当時の感覚からはもっと安い感じがした。

古知 東雲ゴルフクラブは昭和27年にオープンしたゴルフ場で、設計は井上誠一。岸信介さんたち政治家が国会の合間によくゴルフをした。

吉田 といっても、フェアウェイは土と芝が半々で、貝殻が敷き詰めてあるところもある。グリーンはでこぼこだし、砂の入ってないバンカーもあったり。それでも東雲での学連の月例会の前日は、寝られないほどうれしかったね。第1回の月例会でぼくが優勝して、その記事が新聞に出たんですよ。そしたらマッケクニー神父がそれを発表して、上智大学の名前が新聞に載った、これはめでたいから今日は学校を半休にしよう、ということになった。

清田 のんびりした時代だった。

古知 朝日新聞のオーナーが東雲の理事長をしていたので、学生に理解があったんです。

吉田 いまとちがって、朝日新聞社をはじめ、新聞各社が学生ゴルフに非常に協力的だったからね。ところが、こんなこともあった。昭和31年に我孫子カントリーで早稲田とフレンドリーマッチをしたときに、毎日新聞社が取材に来るといので、大ハッスルして当時のベストを出した



左二人目より吉田、伍堂、一人おいて古知、松浦



んだけど、カラー写真入りでその記事を掲載した「週刊毎日」を読んでびっくりしたよ。このご時勢に学生の方でゴルフを楽しむとは何か、って書いてあるんだから。もちろん、早稲田のキャプテン平川君と毎日新聞社に抗議に行ったけど、結果はどうなったかなあ。

古 知 東雲で寅さんと賭けて、村田先輩が勝っちゃったことありましたね。

村 田 寅さんと私がピンをはさんで反対にオンした。私のほうが長かったから先に打って入れちゃった。そしたら寅さんが外しちゃって、ワンアップ返した。ああいう人でも入らないことあるんだなと思ったことは、いまでも覚えてますけどね。寅さんはほんとにいい人でした。

古 知 世田谷の砦のゴルフ場は9ホールのパブリックコースで、東宝の撮影所の近くにあったから、黒沢明監督やら「七人の侍」の俳優たちが、撮影の合間にいつもあそびに来てた。砦のショートホールは各企業が賞品を出していて、たとえば東芝が電球を何個とかね(笑)。ほくはそれをとったことがあるんですよ。

村 田 お茶の水にホームレスがたくさんいた時代だからね。昭和24年に読売が主催した日本プロの第1回で優勝した林由郎の優勝賞金が50万円だったもの。

吉 田 砦ゴルフ場は昭和30年に閉鎖しちゃって、砦緑地公園になった。あと、昭和32年に六郷河原(大田区)に六郷ゴルフ倶楽部ができてからは、そこも関東学生ゴルフ連盟の試合に使うようになりました。

村 田 結局、打ち放し場があってプロがいたというのが、われわれにとっていちばん有利でありがたいことでしたね。最初は四谷の土手の上からグラウンドを見たら、白い点々がいっぱいあって、あれは何かなと思ってたくらいだから。

学生ゴルファーの苦勞

一部の特権階級の間では、ゴルフが流行していたといっても、まだ敗戦後十年もたたない昭和28年から30年頃にかけての日本社会の現状は、いまのわれわれから想像しがたいものがある。ちなみに、日米安保条約が締結されて

マッカーサー以下進駐軍が日本を去ったのが昭和25年。昭和28年にやっとNHKテレビの本放送が始まった。そのテレビ画面はプロレスの力道山とシャープ兄弟が独占していた。そんな時代の学生ゴルファーの実態はどんなものだったのか。学生の方でキャディバッグを持つことが恥ずかしかったので、唐草模様のふろしぎに包んでいた、という時代の話である。

清 田 はじめてゴルフ部として合宿をしたのは軽井沢。その合宿の交渉をしたのはぼくなんだよ。軽井沢へ日帰りで行って、旧軽のマネージャーにあって、関東学生ゴルフ連盟の加盟校として、夏の合宿をしたいんだけど、面倒をみてくれないかと頼んだら、安いねだんで請け負ってくれた。

吉 田 旧軽とわれわれがいてるのは、いまの軽井沢ゴルフ倶楽部の前身。軽井沢にはじめてゴルフ場ができて、それが物足りなくなって移ったのが、軽井沢ゴルフ倶楽部。

清 田 昭和30年以前だから、合宿に行っても御飯が食べられないわけですよ。それも心配して、桶川に住んでいる村田くんのトラックに、米とか芋とか積んで運び込んだ。

村 田 まず部員に毛布を集めておいてもらって、桶川から四谷までトラックでとりに来て、それを積んでうちへ戻り、米を一俵積んで砂利道を走って清田とふたりで先に軽井沢へ行った。宿泊施設がないので、十何人でバンガローをいくつか借りて。

清 田 そしてまかないのおばさんを頼んだ。



S29年夏の合宿、旧軽井沢の帰り



春の合宿中。左から中島、田中、清田

村 田 そのおばさんにこれで五日間の食事を作ってよとお金をわたしたら、その金で初日に肉ばかり買っちゃった。あの当時は冷蔵庫なんてないから、「みんな飯は食わずに肉だけ食べる」って(笑)。翌日から弁当のおかずもなくなって、梅干しと奈良漬けとをおかずにした日の丸弁当をクラブハウスに持って行って、練習した。それを見た松井さんという旧軽の理事長の方に、学生はこうでなくちゃだめだとほめられちゃった。そういう思い出があります。

田 中 バンガローだったって、すごいんだから。ねずみがちょろちょろしている。それでバンガローはよくないというので、翌年から富士屋旅館に変わった。お金ないのによく面倒みてくれましたね。

吉 田 夏の合宿は富士屋旅館に泊まって旧軽で、春は伊豆・伊東の一碧湖畔にある伊東観光ゴルフ場の一碧湖コースで。その2か所だけでした。

田 中 四谷の練習場のアシスタントプロの渡辺さんも軽井沢の合宿に来てくれましたね。



旧軽の富士屋旅館で
左から古知、一人おいて田中、伍堂、林、吉田



S31年3月15日～ 春の合宿 伊東GC一碧湖コース
後列左から古知、吉田、林マネージャー、田中主将、秋杖、小西
前列左から小出、広瀬、岩田

村 田 合宿に行っても、自分のクラブを持ってる部員は半分くらいだった。私は渡辺さんからわけてもらって持っていたけど。

清 田 われわれのゴルフの道具は先輩や、練習場のプロのおさがりが多かったね。

吉 田 そのプロたちはみんな、進駐軍が各地のキャンプに併設したゴルフ場に勤めていた。相模しかり、霞しかり、太田しかり。だから、進駐軍が帰るときに彼らのクラブやウェアのおさがりをもらったり買ったりして、われわれのような学生に売ったわけ。

村 田 乱暴な話、渡辺プロから靴までもらったんだけど、私のほうが背が高くて足が大きい。だから小さい靴に足を合わせていくんですよ。クラブでも何でも、こっちが合わせなくてはならなかった。

古 知 でも、村田先輩はスパイクのびょうがちびるといっているので、練習は裸足でしていたでしょ。

吉 田 ゴルフコースに行っても、靴がぬれちゃたときとか、裸足でやったよ。芝の上はすべるから、足の指がしっかりと土をつかんで、いいですよ。いまでも坂田信弘プロは、子供たちに裸足でやらせていますよ。

古 知 慶応と試合をすると、むこうは金持ちが多いから、ぴかぴかの靴を履いてる。村田先輩がくやしがつて、脱いだものを持っていっちゃうから、「山賊」と呼ばれていた(笑)。

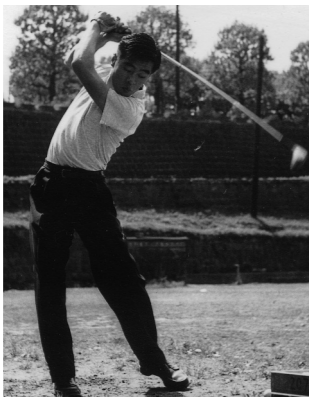


村田 いまみたいなゴルフウェアなんて売ってないから、ワイシャツと学生ズボンで、夏は長そでを腕まくり。でも裾が折り返しのズボンだから、芝がはいて困った。

田中 何よりボールが高かった。プレー代が200円のとときに、新しいボールが1個300円。だからロストボール専門だけど、昔のはすぐ割れちゃった。ソフィアゴルフクラブで使ってるボールでさえパンクするんですから。

吉田 富士屋旅館の近くの薬屋に、旧軽のキャディがロストボールを拾い集めて売りにくる。それを薬屋がきれいに洗って売るんだけど、それが1個30円。それを10個300円とかで仕入れたり、あとは進駐軍からもらった。進駐軍通の古知くんが、いたからね。

古知 当時、進駐軍施設のバイトはバイト代が高いし、めずらしい物資も手に入るから狭き門だったんだけど、たまたま僕の小学校の大先輩が丸の内の八重洲ホテルという進駐軍の将校待遇のシビリアンのホテルに勤めていた関係で、上智に入る前の予備校時代から週末にフロントデスクでバイトをしてたんです。そこでドクターゲルシングという法医学の権威と知り合って、将校をたくさん紹介してもらった。カトリックのゲルシングの薦めもあって上智に入学してゴルフ部に入り、彼らを吉田くんや伍堂くん、松浦くんを紹介したんです。だから、彼らからボールやらクラブやら、ゴルフウェアももらって、比較的いいのを着てたよ(笑)。八重洲ホテルのフロント仲間の一人に古庄くんといって進駐軍から買ったビュイックを乗り回してガールハントしている二枚目の遊び人がいて、彼が最初に成増のグラントハイッのドライビングレンジに連れて行ってきて、そこにいた西川というレッスンプロにも手ほどきを受けました。



古知朝彦さんのスイング

吉田 そういう縁で、朝霞のキャンプ・ドレイクの東京ゴルフ倶楽部で無料でやらせてもらったことがあります。あそこはアリソンの設計で、進駐軍の将校とかシビリアンがプレーしてた米軍専用のゴルフ場。だからあそこでゴル

第1回上智南山合同合宿



皆さんご存知の現在も続いている上南戦。南山大学ゴルフ部との初合宿はS33年3月湯河原カントリークラブにて行われた。

フをやった日本人はそう何人もいないはずなんです。あのととき写真を撮っておいたらと残念で仕方がない。いまは広野ゴルフコースがナンバーワンになってるけど、もし朝霞の東京ゴルフ倶楽部が残っていたら、間違いなくナンバーワンですよ。

古知 そういう形でいま残っているのは、座間だね。伍堂くんがその何番ホールかで信じられないティーショットをしたことがある。ものすごいティーショットを打って、さがしてもさがしてもボールがない。あきらめて進んだら280ヤード先のバンカーの中にあった。彼の生涯でいちばんジャストミートしたんじゃないかな。とにかくゲルシング博士が帰国するまでの4年間は、会話の勉強はもとより、吉田くんや伍堂くんと一緒に将校クラブのディナーに呼ばれたり、ほんとうに楽しい思い出ばかりですよ。

ゴルフの新世紀始まる

日本でゴルフブームがおこったきっかけは、昭和32年に埼玉の霞ヶ関カントリークラブで開かれた第五回カナダカップで、中村寅吉と小野光一が優勝し、中村寅吉が個人戦タイトルも獲得した“事件”である。このカナダカップこそ、昨年伊沢利光と丸山茂樹のペアが逆転優勝して45年ぶりに日本に栄冠をもたらしたワールドカップの前身だ。「ゴルフ界のオリンピック」をめざし、各国代表チーム2名がフォアボールとフォアサム方式で闘う大会が1953

年に「カナダカップ」としてスタート、67年から「ワールドカップ」に名前が変わったのである。前年に58か所だった国内のゴルフ場数が、昭和33年には74にふえ、上智大学ゴルフ部の入部者も33年は50人を越した。この人数のわりにボールの数が少なく、素振り練習ばかり。ボールを打ててもすぐに球拾いという状況だった。そのカナダカップの模様を日本テレビが生中継で放映した。これは日本における初めてのゴルフ放映であり、卒業したばかりの田中哲哉氏が関わった。

田中 ぼくが日本テレビに入ったのが32年の4月で、カナダカップがその年の11月。夏ごろだったか、営業部のぼくのところに編成局長から電話があって「水谷さんから聞いたんだが、君もゴルフをするそうだね。これからカナダカップの打ち合わせをするから来てくれ」といわれた。その打ち合わせというのに出てびっくり、社長以下エライ人がずらっとならんでいるんです。日本テレビは当時から「スポーツの日テレ」といわれてたけれど、ゴルフ中継は初めてだし、わからないことだらけなわけです。端っこに座ってじっとしてたら、「田中くん、何かいいアイデアはないかね」と聞かれたので「ゴルフのわかる人が少ないのなら、ゴルフのできる学生をアシスタントによんで手伝わせたらいかがでしょう」と言ったら、「それはいい。手配は君にまかせよう」ということになり、六大学から二十人くらいの学生を集めて手伝ってもらった。もちろん上智の学生を多くしましたけどね。

吉田 水谷準さんと、早稲田の金田武明さんがその試合の解説をしたんだ。ところが中継をするアナウンサーがゴルフを知らないものだから、今考えるとずいぶん変なことを言ってたね。

田中 当時は全部生中継ですからね。チップインのことを「ノーズロ(ノーズロースの意)」と言っても、訂正できない。

吉田 カメラが大きくて移動させられないから、1番と18番ホールに固定して。

村田 霞ヶ関の東のインの最後の三ホール、ショート、ミドル、ミドルの放送がおもだった。サム・スニードがそのショートで7つ叩いたんだ。

古知 そのときに南アフリカの有名な選手の補欠で出場したのが19歳のゲーリー・プレーヤーですよ。まったく無名のプレーヤーが、スニードと個人2位になった。5年後にはマスターズで外国人として初優勝しますが。

吉田 そのカナダカップの記事はたくさんあって、ほくも持っているけど、その記事に「現場でただひとりゴルフの経験があるのは某であった」と書かれている。その某が哲っちゃんのことなんだよね。

田中 学生に手伝ってもらったのは、日本テレビにとっても学生にとっても良かったと思う。なにしろあのサム・スニードを生で見ることができたわけですから。ゴルフ後進国の日本がアメリカやヨーロッパに勝ったことは、中継を見たたくさんの人に感動を与えたと思います。上智をはじめ、手伝ってくれた各校のゴルフ部の諸君にあらためてお礼をいいたいですね。

ゴルフ部に女性が入部

カナダカップの翌年、昭和33年は、上智大学が女子学生を受け入れるようになった年でもある。ゴルフ部に女性が入って来た当初のようすを、37年卒の西丸(志村)なおみさんと、38年卒の桜井(日比)慶子さん、40年卒の細川(上田)佳代子さんと藤井(小穴)桂子さんに後日、うかがった。

西丸 私は白百合短期大学の仏文科から上智大学の3年に編入したので、ゴルフをしていたのは3年と4年の時です。父がゴルフをやっており、マクレガーのレディスクラブを使っていたので、最初はそれを持って「ソフィアゴルフクラブ」に行きました。4年生がみんな親切に教えてくださって、野村征二さん(36年卒)に言われてアメ横にク



西丸(志村)なおみさん



ラブを買いに行ったり。練習場に行くといつも山室先生が紺のブレザーを着てニコニコしながらいらしたのが印象に残っています。男子の太田ゴルフ場の合宿にも一緒に行き、4年の大内田康さんが私のクラブを、4本くらいでしたが、持ってラウンドしてくださったり、遠足気分みんなで遊んでいたという感じでした。楽しい思い出です。



左から大内田、西丸、野村

桜井 私も父がゴルフをしていたのでゴルフ道具を持っており、現在のような勧誘などはなかったけれど、自ら練習場へ行って入部したいと言いました。練習場には、3年生の坂口弘征さん(36年卒)たちがいらして、たいへん歓迎してくださいました。ほかに同じ頃に入部した女子が二人いましたが、一人は早いうちにやめてしまい、もう一人の岡村さんは3年まで在籍されました。柳田(現・野口)佳子さん、小倉(蔵本)紀子さん(昭和52年に逝去)、上岡悦子さん(卒業後渡米)とともに卒業まで、ほとんどゴルフ漬けの毎日を送りました。

最初はすべて男子におんぶして、のんびりムードで練習していました。後輩が入ってくるので、いちおう私がキャプテンになり、練習や試合の交渉なども女子は女子できるようにりましたが、3年の秋に、高校時代に陸上短距離の国体選手で、女子の中では唯一の運動部経験者だった上岡さんにかわってからは、練習も本格的になりました。たいへんだったけれど、意気に燃え、気持ちを一つにがんばりました。とはいえ、ゴルフ部はわりあいのんびりムードで、山室先生がいつも合宿に来てくださいました。



桜井(日比)慶子さん



S38年卒女性
左から野口、蔵本、桜井、上岡

当時の女性のゴルフ事情はどうだったのか。日本女子アマチュア選手権が開かれたのが昭和28年、関東女子ゴルフ選手権は昭和30年から開かれている。女子の学生ゴルフの状況はというと、第1回東京中日杯争奪第1回関東女子学生ゴルフ競技(正式名称)が昭和34年3月31日、関東学生ゴルフ連盟主催、中日新聞社後援でおこなわれ19名が参加。名称を選手権としなかった理由は、女子のレベルは選手権を開ける域に無い、ということだったそう。昭和36年9月には第1回関東女子大学対抗戦が開催され上智大学も大いに活躍した。ちなみに、樋口久子ら女子プロテストの一期生41名が誕生し、第1回女子プロ選手権が開催されたのは、昭和42年のことであった。

桜井 月例杯は浮間で開催、毎月出ていました。はじめての試合は、青山学院大学との対抗戦で、当時は伍堂先輩(32年卒)の妹さんが青学の女子のキャプテンでした。また、リーグ戦もあり、たしか3年生の時、女子団体戦で4位になってBブロックになったと思う。スコア的には100は切っていなかったと思いますけど。そのとき、女子の活躍が認められ、体育会から表彰されたり、OBの方々にもほめていただいたのが、私たちのいちばんの手柄話です。[これは昭和36年9月の第1回関東女子大学対抗戦。大根根CCで開催され、慶応(小川、増永、松本、竹下)が成城大を25打引き離して初優勝しており、上智は日比・柳田・上岡の上位3名で421、4位タイにはいった。]

私の次の学年に鈴木さんという女子部員がいて、試合にも出ていましたが、昭和36年に入部したのが、元気いっぱい5人。上田(現・細川)佳代子、伊藤(曾田)園子、田中(高橋)豊子、岡本(堤)智佐子、小穴(藤井)桂子さんです。



S37年体育祭部対抗リレー4位
左から藤井、鈴木、高橋、曾田、桜井

細川 われわれが2年生の時の女子部の練習は、男子にたよっていて、なまぬるい感じだったので、新入部員が入る前に改革しようということになり、時期をまたずして私が2年の終わりにキャプテンになりました。そして3年になって本格的に男子から独立し、女子部員は団結を約束し、八千代カントリークラブでの合宿を機に、団体戦での上位進出を目標にかかげて、早朝トレーニング、ランニング、体力強化のための運動など、男子もびっくりの積極的な練習をはじめました。

藤井 私は高校時代から運動をしていたので、入学早々ゴルフ部に入りました。でも1年2年のころは全然意欲がなくて、学連の月例杯で、ショートで13連打したり、とてもゴルフ部員とはいえない状況でした。でも3年になって、パーブ(上田さん)と一緒に部の建て直しをはかってからは心を入れ替えて練習するようになり、ゴルフを楽しむ余裕も出てきました。待望の女子団体戦はその年の秋に千葉ゴルフ場で開かれましたが、Bブロックの上位に食い込む夢はあえなく破れ、8校中5位という結果でした。でも、個人で6位に入賞できたことは、学生時代を通じていちばんうれしかった思い出です。

細川 ところが半年後、2年生の4人がそろって退部すると言い出したのです。みんな練習の改善を望んでいた人たちだったので驚きましたが、ゴルフに熱中するあまり時間的な問題、技術的な問題に悩み、ついてこれなくなったようでした。そのため、次の代に女性がいないのは残念なことですね。

でもこの出来事は、私にとってもいい経験になりました。人数の少ない上智のような体育会では、強くあることを目標にするのはむずかしい。それからは適当に手綱をゆるめ

ながら、楽しいクラブ活動をもめざすようになりましたね。この方針は、以降代々のキャプテンに受け継がれたように思います。

ちなみに昭和37年に入部した50人のうち10人は女性であったという。その盛況にこたえるためか、四谷駅寄りテニスコートの隅に6-7メートルくらいの鉄製ネット、3打席ほどの練習場がつくられ、38年卒の高橋坦氏と細川護熙氏が始球式をしている。当時、「四谷ソフィアゴルフクラブ」は、グラウンドの打ち放しのほか、ホテルニューオータニ方向に約10メートルの飛距離で10打席くらいの金網の練習場があり、こちらは時間制限なしに使われていた。ゴルフ部員は、先輩からの寄付のボールを使用して練習をしていたが、一般の利用がさほど進まなかったために、しだいに使用球などの区別はあいまいになったようだ。

しかし、この「四谷ソフィアゴルフクラブ」は、ゴルフ場の使用時間が漸増し、学生や都民から不満の声が強まったために、大学は昭和43年3月をもって日本ゴルフ釣具株式会社との契約更新を見合わせ、一般のゴルフ場としての使用は中止された。これ以降、上智大学体育会ゴルフ部はクラブハウスの建物を受け継ぎながら、さらに自主的な練習とクラブ活動をつづけたのである。



Tracing 50 years

アンケートでたどる、ゴルフ部50年のあゆみ

Sophia Golf Club

アンケートの質問事項

● 部員の名前と役職、女子は(役職/ニックネーム/現姓)

【男子女子別記】

- 3年4年時の所属ブロック
※ 1971～90年の男子のブロックと順位については学連の資料と照合済みです。
- 新人合宿および合宿に使用させてもらったゴルフ場名と思い出
- 合同練習(=全員でおこなう練習)の回数や内容、義務練習(空き時間に個人的におこなうべき打撃練習)の回数、朝練習、連帯責任と罰則、思い出
- キャディのバイト先、ゴルフ部としてのバイト
- 部室の場所、部員のたまり場
- 当時流行のゴルフウェア、上智のユニフォーム
- 心に残る先輩後輩とエピソード
- 他校のゴルフ部とのつきあい

【男子女子共通】

- 当時主流だったゴルフクラブ、ボール
- 当時活躍していた男子プロ・女子プロ
- 乗っていた車の車種
- コンペやコンパ(新入生歓迎コンパ、追い出しコンパなど)に使用した場所
- 当時の上智大学のようす
- 付記したい思い出

【凡例】

- アンケート記入者は代表者、複数人、などいろいろな場合がありますが、記入者名は記載しませんでした。個人的なコメントの場合は文末に()で名前を付しました。
- 回答文中に出てくる女子の名前は、ニックネームあるいは旧姓で記してあります。男子の同期と後輩の名前は「君」づけに統一させていただきました。
- ゴルフ場名のCC、GCなどは省略したものもあります。大学名も簡略にしました。
- スペースの関係上、いただいたすべての回答を列挙しきれなかったことをお詫びいたします。

50年前、真田堀グラウンドにあった

「ソフィアゴルフクラブ」という私営の打ち放し練習場に、ゴルフに興味をもった上智大生が集まったことから始まったゴルフ部。

まだゴルフクラブもウェアも手に入らなかった当時から、ゴルフブームを経て、ゴルフ場閉鎖が相次ぐ今年まで、ゴルフのありようも、わが大学やゴルフ練習場のありようも大きく変わってきました。

学年ごとのアンケート回答を編んでみると、半世紀の変遷が如実にみえてきます。

1956 昭和31年

(一般)

- * 神武景気(経済白書「もはや戦後ではない」)
- * 日本国連復帰加盟
- * スエズ戦争(イスラエルとエジプト)

(ゴルフ)

- 日本ゴルフ場数58、ゴルファー20万人
- 全英オープンでP・トムソン3連勝、石井迪夫36位
- 全日本学生ゴルフ連盟発足、会長に石井光次郎が就任



S31年7月15日 夏の合宿(旧軽井沢ゴルフ場)

<男子>

村田栄(主将)・松浦史郎(主務)・清田光俊(渉外)・牧野喜美男

1957 昭和32年

(一般)

- * 南極観測昭和基地建設
- * ソ連人工衛星スプートニク打上げ成功
- * 東海村原子炉第1号50KW

(ゴルフ)

- 第5回カナダカップ(霞ヶ関・東コース)で中村寅吉・小野光一団体優勝、中村個人優勝、日本テレビが初めてゴルフの試合を生中継
- プロゴルフ協会創立(PGA)

1957(昭和32)年卒

男子

1. ブロック制はなく、9大学(慶応、早稲田、立教、学習院、中



S31年3月15日～ 春の合宿(伊東GC-碧湖コース)

<男子>

田中哲哉(3年時主将)・古知朝彦(3年時主務)・吉田勉(4年時主将)・伍堂光雄(4年時主務)・松浦一夫(渉外)・林北辰(平成5年逝去)

央、明治、武蔵、東大、上智)の対抗戦。上智は4年間通じ慶応・早稲田に次いで3位を維持していた。

学生の試合は主に、予選は東雲(しのめ)または新川崎、本戦は東京、我孫子、霞ヶ関で開催。

2. 新人合宿はなし。春は伊東GC-碧湖コース(現:伊東パーク)、夏は旧軽井沢で合宿。

4年生の夏合宿で新軽井沢のクラブハウスの食堂で学生4人で食事をしていたら、白洲理事長が来られ、「君ら学生の方で食堂で飯を食うのか。キャディマスター室で食べなさい」といわれ、すぐ食堂から消えた。

3. 民間経営の「ソフィアゴルフクラブ」の練習場がいつでも使えた。打込みが主。前庭にアプローチとバッティング練習場もあった。ランニングなどは特になし。

4. バイトはなし。

5. 部室はとくになく、「ソフィアゴルフクラブ」に集まった。たまり場は、しんみち通りの「スナック越路」や、ビリヤード場。

6. ブランドはまだなし。

7. ・村田先輩が美人の奥さんと結婚され、「美女と野獣」と各大学のゴルフ仲間の間でも評判になった。

・3年の夏の軽井沢合宿最終日の夜、古知君が1年生の台君を得意の柔道技でしめ落とし、背負って帰る途中、背中に小便をお返しにかけられ、帰京に際してのシャツとズボンが無くなり大騒ぎ。

・部長の山室先生に、フェアプレーの精神やゴルフは自分との戦いであること等数多くのことをご教授いただいた。

・朝日新聞社が学生ゴルフに理解を示し、関東学生ゴルフ連盟を設立して、全日本、関東学生選手権、当時の朝日の役員であった信夫氏の名を冠した学校対抗の信夫杯を設立、今でも続いている。朝日の企画部嘱託の二宮順氏には大変お世話になった。

8. 学習院・立教・武蔵・上智で4大学トーナメントをしていたが、特に、立教、学習院と仲がよく、フレンドリーマッチを続けた。早稲田とは千葉CCの学生会員として我孫子GCにてフレンドリーマッチ。
9. 進駐軍が帰国に際して払い下げた中古クラブを購入していた。伍堂氏の祖父が使用していたヒッコリーシャフトの中古を部に数本寄贈された。ブランドとしては、マクレガー、ウィルソン、スポルディング、スラゼンジャー等が評判だった。
10. 中村寅吉、小野光一。サム・スニード、ジミー・ディマレー、ベン・ホーガン、ジーン・サラゼン。中村寅吉には東雲GCにて指導を受け、共にキャディーレスでプレーし、ベットで煙草をとられながらよくラウンドした。
11. 電車とバス。
12. プライベートコンペはほとんど無かったが、非常に驚いて印象に残っているのは関東学生選抜と極東米軍との対抗戦が富士GCで行なわれ、一等賞品にニュークラブ1セット等豪華賞品が米軍から用意されたこと。
13. マケックニー神父は、上智の選手が予選を通過すると、その名前が出た新聞を授業に持って来て読み上げ、「Congratulation Mr ××、今日は休講にします」といわれ、皆によろこばれた。部長の山室宗忠先生をはじめ、ポッシュ神父、大泉学長などゴルフ部に協力的な教授も多かった。
逆に、授業の出席カード採り係の通称「浜作」はゴルフ部を目の敵にしていたので、卒業時に部員全員出席できなかった。



<男子>
中野弘敏(主将)・内田隆三(渉外)・黒澤博・滝星美

- 泊3食付き終日プレーで一日1000円のOKを頂いた。
3. 新入生は毎朝、ラグビー場の白線に沿って生えていた雑草をニブリックで刈り取る訓練を試みたが、2メートルも進むとグリップがしびれて疲れた。次は土手に向かって上ったり下ったりのくり返しをした。4年の時、講堂で部員募集のスピーチをしたところ、100人近く応募してきたので、グリップの習得を練習のメインにおき、校舎の間でクラブを貸して素振りをやらせた。ルールとエチケットの勉強もさせ、ラウンドは卒業後に各自でしてもらうという方針で部活動を実施した。
 4. 日立の鑄造工場で夜勤の現場仕事に部員そろって行った。1日500円程度のバイトだったが、帰りの屋台のラーメン35円がうまかった。
 5. 部室はなし。「ソフィアゴルフクラブ」で30円のコーヒーを飲んでしゃべっていた。テレビ(もちろん白黒)があって、神宮球場で立教大学の長島が8号ホームランを打った試合の中継をみたのを覚えている。
 6. ブランドのウエアはまだなく、早稲田や中央との対抗試合には、よれよれのワイシャツにセーターやナイロンジャンパーをはおっていた。
 7. 旧軽井沢の最初の合宿に際しては、経済学部の除野教授に御自身のロッジを開放するなど便宜をはかっていただいた。また村田主将もみずからハンドルを握って合宿の荷物を運んでくださった。伍堂先輩には学連マネージャーとしていろいろ予選会場を教えていただいたが、練習場のボールに破けたのがあると、打たずに残されたことが思い出される。
 9. クラブはマクレガー「ターニー」、スポルディング、トップフライト、ウィルソン、スタッフ、トミーアーマーなど。
 10. 中村寅吉、小野光一、林由郎、陳清水、栗原甲子男。
中村寅吉プロには、彼が進駐軍の箱根仙石原から都営の東雲に寄留していた頃、よく教えてもらった。彼の個性的なスイングやパットの巧さを身近に見ることができ、非常に参考になった。ゴルフは個性をしっかりとのばすことだと思う。また、村田主将率いる上智大勢の月例会で、たばこ「光」(30円)を賭けてのべ

- ストボールマッチを4、5人組で挑戦し、毎度6、7箱献上していた。彼がカナダカップで優勝する3年前のことである。
11. 国電、西武鉄道、バス。割り勘タクシーは日産ブルーバード、トヨタクラウンで、日野のリヤエンジン車ルノーは狭くてパスした。
 14. 昭和32年のカナダカップにおいては、カメラマンについて選手名、国名を教える仕事をした。サム・スニード、ゲーリー・プレーヤー、ピーター・トムソン、ジミー・ディマレーらのスーパーショットにショックの連続だった。サム・スニードについては水谷準氏が「弾道の美しさが日本のギャラリーを唖然とさせ、1番アイアンに至っては芸術的美しさに感動させられた」と新聞に書いたが、彼がデビューした1920年頃、プロになるのを諦めた人が大勢いたというほど、彼の弾道はすごかった。トップしたかに見える地面スレスレで飛び出した球は、100ヤードを過ぎたあたりからジェット機のようにまっすぐ上昇してはるか彼方に消えて行く。あのような弾道の球を40代で打っていたのだから、生涯の師と崇めて、時折ビデオを出してはながめている。
(内田)



S32年2月 卒業生歓送コンペ(相模原GC)
<男子>
中島敏夫(主将)・松下正(渉外)・阿部満・小出茂夫

- が、バイト代は個人のフトコロには入らなかった。ゲーリー・プレーヤーの丸太のような腕が印象的だった。
5. 部室はなし。たまり場はソフィアゴルフクラブ。喫茶店は「ルノアール」、アルサロ(アルバイトサロン)に「越路」というのがあった。
 6. ゴルフウエアなんて洒落たものはなく、ふだんのズボンとシャツだった。
 7. 田中先輩の豪快なショット、吉田先輩の細身からくりだされる繊細なボール、大柄な古知先輩のプレー、亡くなられた林(リン)さんが持っていたケニスミスの軽いクラブは憧れの的だった。2年後輩の野村君の野球式グリップ、坂口君のこやかな笑顔も思い出に残っている。
 8. 立教、早稲田、学習院などとよく一緒にプレーした。
 9. アメ横で中古クラブを買っていた。
 10. 中村寅吉、小野光一、石井迪夫。サム・スニード、ゲーリー・プレーヤー。
 11. ほとんど電車を利用。
 12. よく使ったコースは東雲、川崎国際、浮間、川口など。試合は河川敷コース。コンパの記憶はほとんどない。
 13. 校門の前を全学連のグループが上智を揶揄しながら通っていた。学内でもゴルフ部は色眼鏡で見られていたかもしれない。当時ゴルフほど贅沢な遊びはなかったので、どこの学生ゴルファーも恵まれた家庭の子供だった。その点、私はプロゴルファー(=プロレタリアゴルファー)と自称して、なけなしの小遣いをはたきながらゴルフに勤しんだ。(中島)
 14. 4年の時の全日本学生ゴルフ選手権(於：広野)は関東から20名が参加したと思うが、予選に落ちて行けなかった。残念だった思い出も多いが、良い仲間をもてたことに感謝しています。(中島)

1958 昭和33年

(一般)

- * テレビ受信契約100万台突破、ラジオ1,481万台
- * 東京-神戸間特急こだま(6時間50分)
- * 東京タワー完成
- * 初の1万円札発行
- * 関門トンネル開通
- * 阿蘇山爆発
- * フラフープ大流行
- * 売春防止法施行

(ゴルフ)

- 日本のゴルフ場数74。ゴルフ人口20万人
- (米)ゴルフ場5,754(内パブリック2,759)

1958(昭和33)年卒 男子

1. ブロック制度なし。
2. 新人合宿なし。夏は南軽井沢と新軽井沢、春は大洗。合宿費用は1ヶ月前に車で現地に行き支配人と交渉を重ね、ロッジ

1959 昭和34年

(一般)

- * 皇太子明仁親王・美智子妃殿下結婚式
- * 伊勢湾台風
- * キューバ革命フィデル・カストロ首相

(ゴルフ)

- 横河初女性初のHDGP9(東京GC)
- 全英オープン賞金総額5000ポンド、優勝1000ポンド

1959(昭和34)年卒 男子

1. ブロックはなし。
2. 春は伊東GC一碧湖コース(現：伊東パーク)、夏は旧軽井沢。福島でも合宿をした記憶がある。軽井沢は霧の道を歩いたり、小さなカップをもらったり、良い思い出がたくさんある。伊東は大室山のまわりをまわる雄大なコースで、1番ホールは谷越えなども印象に残っている。
3. 民営の「ソフィアゴルフクラブ」で一箱24個入り30円のボールを大事に打っていた(ちなみに蕎麦が25円か30円)。ソフィアの練習場では、刈部さんというプロがよく教えてくれた。あくまで個人プレーの域を脱せず、合同練習や義務練などはなかった。
4. 昭和32年のカナダカップで4日間、ブラカードを持って歩いた

1960 昭和35年

(一般)

- * 全学連国会突入、樺美智子さん死亡
- * 浅沼稲二郎社会党委員長刺殺
- * 池田勇人首相国民所得倍増計画
- * ダッコチャン人形大流行
- * 浩宮さまご誕生

(ゴルフ)

- ゴルフクラブの輸入自由化
- ツーピースボール出現
- 全英オープン100年記念大会 (セントアンドリュース、ケン・ネーゲル優勝)



S34~38卒と山室先生(中央)

<男子>

台達彦(主将)・洗川誓一・藤岡三樹臣・川原田邦穂(昭和61年逝去)

1960(昭和35)年卒

男子

1. ブロック制度なし。
2. 合宿は伊東GC一碧湖コース(現:伊東パーク)、南軽井沢(現:72南コース)で。荒川の河川敷の都民ゴルフ場などは、学生は100~200円でプレーできたが、新軽井沢は1500円くらい支払い、学生はペランダでメシを食えといわれたことを思い出す。
3. 民営の「ソフィアゴルフクラブ」で打ち直し、パッティング・グリーンやバンカーでの練習のみ。ランニングなどはなかった。
4. 部としてはなし。
5. 部室・たまり場は「ソフィアゴルフクラブ」。
6. 白ボロシャツに紺のスボンという非常に地味な格好だった。
7. ロンドン駐在時代(1967-77)古知先輩(32卒)と暇さえあればゴルフ、ゴルフ、酒・の日々を過ごした。当時は少し

はましなゴルフをしておりました。(藤岡)

8. 関東学生ゴルフ連盟の山中湖合宿に1年下の太木君と参加し、早稲田の平川基春氏に教えてもらった。その後8大学OB戦やシニア会で一緒に楽しめるのは幸せた。中央の平山誠一氏とも海外をふくめ48年間もつきあえているのも合宿の縁です。(藤岡)
10. 中村寅吉、林由郎、陳清水、陳清波、栗原甲子男、小針春芳、石井迪夫、小野光一、島村祐正、木本三次。
11. 林先輩のアメ車にクラブを積んでいただき、電車で行った。
12. 来々軒、しんみち通りの飲み屋など。
13. 中庭にあった学食ジャーマンベーカリーのハンバーグがとてもおいしかったし、ランチでビールが飲めた。
14. 2年の夏休みに福島の高妻高原GCで約1ヶ月、キャディ教育のアルバイトをしていたことを、他大学生からアマチュア違反と指摘されたため、練習をさぼるようになった。その後、学連の手伝いで朝日新聞社の二宮さんのところに通い、よくメシを御馳走していただいた。(藤岡)

1961 昭和36年

(一般)

- * ソ連、ガガーリン、初の宇宙飛行
- * 大鵬と柏戸横綱昇進(柏鵬時代)
- * 日坊貝塚欧州24戦無敗「東洋の魔女」
- * ケネディ大統領就任

(ゴルフ)

- ゴルフ場労組ストライキ(東京GC、武蔵CC、飯能GC)
- 第25回マスターズでゲリー・プレーヤー(南ア)外国人として初優勝
- (米) ゴルファー500万人超となる

1961(昭和36)年卒

男子

1. ブロック制度なし。関東学連主催の月例会が不定期で行なわれていた。
2. 合宿先は、大洗、伊東GC一碧湖コース(現:伊東パーク)、湯河原、日光、鬼怒川、太田。新人合宿先は南軽井沢。太田ゴルフ場は上智大学が最初に合宿先として開拓したので、大いに歓迎されたが、上州名物の雷がつかもなかった。
3. 各人の自主練習が主体だったが、時折、「ソフィアゴルフクラブ」に所属の刈部プロ、上原プロに教えてもらった。
4. 部としてのバイトはなし。坂口君がカナダカップのバイトをした。
5. 部室はなし。「ソフィアゴルフクラブ」のクラブハウスがたまり場だった。



S35年4月 日光カントリー倶楽部で

<男子>

坂口弘征(3年時主将)・野村征二(4年時主将)・大内田康(主務・学連)・大木栄(会計)・長島勝・加藤修二(平成14年逝去)

7. ・部長の山室先生には、ゴルファーとしてのマナーについて指導を受けた。
・上智大学主催の各大学対抗ドライビングコンテストで内田先輩(33卒)がよく飛ばしていた。
・1年上の台先輩は女性用のゴルフクラブを使って上手だった。
8. 立教、東大、学習院、中央、日大とは、定期不定期に対抗戦をおこなっていた。
9. マクレガー「ターニー」、スポルディング、ウォルターヘーゲンなど。
10. 中村寅吉、小野光一、林由郎、小針春芳、栗原甲子男、石井朝夫、陳清水。
11. 電車を利用。
12. 卒業時に上智会館で山室先生や後輩に歓送してもらった記憶がある。

1962 昭和37年

(一般)

- * 東京都常住人口1,000万突破
- * テレビ受信契約1,000万台突破
- * 堀江謙一マーメイド号で単独太平洋横断

(ゴルフ)

- 第3回世界アマ、川奈で開催
- アジアサーキット創始(5ヶ国)
- ジャック・ニクラウス 全米オープン(オークモント)でA・パーマーとプレーオフの末優勝、プロに転向
- ワールドゴルフ選手権(現ワールドシリーズ)開催

<男子>

なし

<女子>(上智大学女子1期生)

井上智香子・志村なおみ(西丸)

1963 昭和38年

(一般)

- * 東海道新幹線(東京-大阪間)開通
- * 米ケネディ大統領暗殺
- * プロレスラー力道山刺殺
- * 観光渡航自由化1人500ドル
- * 新1000円札(伊藤博文)発券
- * 黒部沢谷黒四ダム完成
- * クルマ時代(保有台数600万台へ)
- * ボーリングブーム・レジャーブーム
- * 坂本九「スキヤキソング」ビルボード1位

(ゴルフ)

- 第1回アジア・アマチーム選手権日本優勝(フィリピンワクワク)
- 日本PGA会員220名



<男子>

高橋坦(前主将)・細川護熙(主将)・鈴木晴光(主務)・小椋山紀之(会計)・菊池隆臣・元木英一・前田隆史・高口・原野・浅野

<女子>

日比慶子(桜井)・柳田佳子(野口)・上岡悦子・小倉紀子(昭和52年逝去/蔵本)

1963 (昭和38) 年卒

男子

1. 記憶では3年生の頃ブロック制ができて、4年生の時AからBブロックに降格したと思う。
2. 合宿先はほとんど群馬県の太田ゴルフ場で、最初は女子、男子合同でおこなったが、3年か4年になった時代、女子部員も増えて別々の合宿になった。その他、日光、富士平原、姉ヶ崎、鬼怒川、軽井沢、箱根を使用。新人合宿はなし。
・太田ゴルフ場は元中島飛行場の跡地のため木が少なく、夏は直射日光をまともに浴びながら1週間貸切で1日2.5から3ラウンドした。そのためゴルフバッグの中に渡辺のジュースの素(粉末)をコップに入れ、ハーフの途中に置いてある氷水で溶かして飲み、渴きを癒した。当時はゴルフ人口が少なく平日は500円でカレーライス付きで2ラウンドできた。
3. 朝練は合宿の前1週間、合同練習は水曜・土曜の1時~3時。ランニングは権田原を左折して草月会館の前を通り、赤坂御所1周約20~30分、ランニングの後交代でアイアンからドライバーまで練習した。大学全体で年に1-2度皇居1周マラソンがあり、年に数回皇居を走った。
練習場(ソフィアゴルフクラブ)は当時大学が私企業へ貸与していて時間制限があり費用もかかったので、先輩が勤めていた魚網会社をお願いして安くゴルフネットを提供してもらい、一時期だが地下鉄側のテニスコート付近で練習できるようにした。
4. 運動部としてのアルバイトは学連より原則禁止されていたため、アマチュアの大会などで整理員をしたり、合宿を条件に1日ディボット埋めなどをした。
5. ゴルフ部はマイナーのため部室はなく、「ソフィアゴルフクラブ」の休憩室をたまり場として使用していた。
6. 当時は豊かではなかったのでブランドのゴルフウェアは使用していなかった。
7. ・中島先輩(34卒)は茶道部にも入っておられた文武両道の方。美しいフォームは印象が強い。
・坂口先輩(36卒)はゴルフを真摯に捉え、技術面は無論、マナーを含め日常の行動について指導いただいた。
・長島先輩(36卒)はアメリカに留学し、帰国後復学されたため卒業は我々の1年後だったが、高校時代(私の先輩でもあった)フットボールの選手経験もあり非常に明るく攻撃的な方。就職後数年して独立してアメリカ人の客室乗務員と結婚、サンフランシスコ近郊に移住されたが、私は同時期に同地駐在だったのでお世話になった。(小楡山)
・すぐ上の先輩が不在だったので先輩とよく遊び、特に4年の時1年の部員と気が合ったため楽しい1年間を過ごすことができた。
8. 学習院、立教、武蔵とは春、秋定期的に対抗戦をおこなった。

女子 回答なし



9. アメリカ製のウィルソン、マクレガー、スボルディング、日本製ではアリガゴルフが多かった。
10. 日本の男子プロで目標にする人はいなかったが、私個人としては米国のダグ・サンダースのフォームが好きだった。(鈴木)
11. 当時車を持っている部員は少なく電車が多かったが、ダットサン、ヒルマンミンクス、シトロエンに乗った記憶がある。キャディバッグを持って電車に乗ると厳しい眼でみられた。
12. 上智会館など。
13. ・古いトタンのかまぼこ校舎のため夏は暑く冬は寒かった。
・授業への出席確認が厳しく、1分でも遅れると鍵が閉まり入れてくれない。先生いわく「電車に乗ることを考えなさい。待ってこないでしよう」と。
・外国語学部は毎週のように試験があり、たまたま対抗戦の日が試験日だったことがあったが、マケックニー神父はスポーツ好きで、事情を説明したら試験を免除してくれた。

1964 昭和39年

(一般)

- * 第18回東京オリンピック開催
- * 東京モノレール羽田空港-浜松町間開通
- * 巨人王貞治ホームラン55本新記録
- * 平凡パンチ創刊、若者文化のバイブルに

1964 (昭和39) 年卒

男子



<男子>

小田川國昭・北崎暁・鋤柄正雄・高橋鉄郎・西崎信隆・野中晋

<女子>

なし

新人合宿先は太田ゴルフ場。たまり場は練習場。当時のゴルフクラブはマクレガー、ウィルソン、スボルディングが主流。ボールはマックスフライ(黒または赤)。その他のことはほとんど思い出せません。(鋤柄)

1965 昭和40年

(一般)

- * 朝永振一郎ノーベル物理学賞受賞
- * 米国北ベトナム爆撃開始
- * 40-45年ごろまで「いざなぎ景気」

(ゴルフ)

- 第2回アジア・アマで日本2連勝、中部銀次郎個人優勝(日光)
- 米シェークスピア社グラスファイバーシャフト製造
- 米アルミニウムシャフト製造
- 全英オープン賞金総額10,000ポンド、優勝1,750ポンド、ギャラリー32,927人



卒業追い出しコンパ



鶴沼海岸で(パーブ撮影)

<男子>

瀧川好庸(主将)・原直弘(主務)・山内一郎(副将)・津田昭治(会計)・山下嘉昭(体育会)・永井義祐

<女子>

上田佳代子(主将/パーブ/細川)、伊藤園子(ソソコ/曾田)、田中豊子(タコ/高橋)、小穴桂子(オア/藤井)、岡本智佐子(平成5年逝去/アカチャン/堤)

1965 (昭和40) 年卒

男子

1. 3年C、4年C-1位、筑波での入替戦でタイスコアだったためCブロック残留。
ABCの3ブロックで、慶応がAブロックのトップ、上智はCブロック(6校)の上位にいた。
2. いま名門といわれるようなゴルフ場ができはじめた時代で、出来立てのそうしたコースで合宿をした。新人合宿は太田。太田ゴルフ場は、木陰がまったくくないため暑さは大変なものだが、時々突然サイレンが鳴ってプレーが中断されることがあった。米軍輸送機の物資投下を知らせるサイレンだ。このゴルフ場からの帰りは熊谷駅で電車に乗るが、最終列車までの間に“楽しむ”場所があった。その他、富士高原、栃木、茨城で合宿。富士高原での合宿で春の嵐に襲われ、宿泊所を逃れてクラブハウスに避難したら、宿泊所の屋根が見事に吹っ飛ばされ、その後はクラブハウスに泊まって合宿をつづけた。栃木では大雨で途中の川が氾濫する危険があるということで、山頂付近にあった宿舎から雨の中、必死で下山した記憶がある。
月例杯は浮間、高根、茨城、取手を使用。
3. 民営の「ソフィアゴルフクラブ」で打ち放しの練習ができた。このゴルフ練習場には、国会議員や巨人の藤本投手などがよく来ていた。ここに7x4mくらいのバッティンググリーンがあり、このグリーンに向けてのアプローチやバットを賭けでやっていたおかげで腕が上がったとの声もある。合同練習は水曜と土曜の午後。グラウンドから赤坂御所の横を走って神宮外苑に入り、外苑内をほぼ1周した所で、馬跳び、腹筋、腕立て伏せなどをおこない、走って帰るメニューだった。新入生には大きな声で

挨拶をするところからはじめ、かなり厳しい練習をしていた。人を背負っての階段昇降、土手ダッシュなどがきつくて、ゴルフ部をやめようと思った人もいた。

- 銀座にあった日本運搬社(?)で御中元配送品の仕分けを全員で行ない、合宿費の一部にした。ちなみに合宿は5日間1万円でおつりが来た。初任給が2万円くらいの時代だから、現在に換算すると10万円くらいか。
- 「ソフィアゴルフクラブ」のクラブハウスの裏に1年上の北崎先輩と原君が小屋を建てて部屋にした。反対側のテニスコートのそばにもハウスがあった。たまり場はクラブハウスや学食。
- マンシングウェアが流行。試合用のユニフォームとして、白の半袖ポロシャツにsophiaの紺の刺繍を入れ、卒業生のおさがりの、丸いワッペン付きの紺のブレザーを着ていた。丸首シャツでプレーをしようとしたために2年上の菊池先輩にこっぴどく叱られ、仕方なくゴルフ場へ着てきたワイシャツでプレーをし、汗と垢にまみれた汚いそのシャツで帰った同級生がいた。
- ・村田・吉田両先輩はよく練習場に来て指導して下さった。
・1年上の小田川先輩は横振りフィニッシュはクラブが首に巻き付くくらいに、という指導だったが、西崎先輩はダウンブローを強調されるので、教わる先輩によってスイングを変えなければならず、大変だった。
・原マネージャーは先輩の会社に寄付を頼みにまわっていたが、「また来たか」という顔をされるので苦労していた。
・とにかく先輩後輩ともひとくせもふたくせもある人が多く、おもしろかった。
- 学習院対抗戦を東京GCで。対日大戦ではこてんぱんにやられた。後の新井規矩夫プロのいた東洋大とはお互いにCブロックで対抗戦をした。南山大学との上南戦、成蹊大との対抗戦も。

女子

- 1ブロックのみ。
- 合宿先は八千代、富士平原。新人合宿は夏に太田でしたが、飛行場跡地でめちゃくちゃ暑く、雷が怖かった。月例杯は浮間。
- グラウンドに向けての打ち放し。神宮外苑までのランニング。
- 部としてはなし。個人的に家の近くの藤沢Pや茅ヶ崎GCで休みのたびにキャディバイトをしていた。(パーブ)
- 「ソフィアゴルフクラブ」のクラブハウス。
- ブランドもののウエアなどまったくなかった。ゴルフ用品はアメ横で買っていた。
- 部長の山室先生。
- マクレガー「ターニー」、ウィルソン、スポルディング、ケニスミス、アリガ、ミズノ。
- 陳清波、杉本英世、林田郎、中村寅吉、戸田藤一郎。樋口久子、中村悦子。アマで有名だったのは男子は鍋島・細川護貞(細川

先輩の父君)・中部銀次郎、女子は小坂・服部(現服部道子プロの母)。

- 11.当時は国産車があったかないかの時代。バスをチャーターしたり電車を利用。たまに個人の車(ヒルマン、モーリス、クラウン、コロナ)を利用。
- 12.追い出しコンペは八千代P。コンパは赤坂プリンスホテル。
- 13.・まだ旧米軍兵舎のようなカマボコ校舎があり、インディビの授業を受けるために夕方になると外国人がたくさん来た。
・薄汚れたトレパン・トレシャツを着たまま授業に出ていた(パーブ)。
・授業への出席がすごくうさく、授業開始と同時に教室の内側から鍵がかかって中に入れなかった。

1966 昭和41年

(一般)

- * 新三種の神器(カラーテレビ・クーラー・大衆自動車)
- * 人口1億を超える
- * 全日空機、BOAC、カナダ航空機墜落
- * ビートルズ来日公演5回ステージ9千万円



<男子>

平井康征(主将)・浅井宜男(主務・学連)・大西弘高(副将)・楠義紹(会計)・清水威男(OB係)・相茶武美・小野英樹・栗原晃・瀬川幸一・長野洋・逸見知二・牧瀬利春・吉原重喬(平成14年逝去)

<女子>

藤瀬万里子(菅田)

1966(昭和41)年卒

男子

1. 3年C-1位、4年B
2. 新人合宿先は栃木。春夏の合宿は富士高原、富士国際、太田など。学内の月例は八千代(昼食付きで1000円)、姉ヶ崎、厚木国際。学連の月例杯は浮間、筑波、常陽。リーグ戦は取手国際。
3. 合同練習は週2回で、赤坂御所を1周。打撃練習はソフィアゴルフクラブで打席確保のため朝から自由にしていた。合宿で酒を飲んだ(細川主将に飲まされた)のが発覚し、連帯責任で朝6時から強化練習をさせられたのはキツかった。
4. 大丸の倉庫で配送のバイトをして資金稼ぎをした。
5. 部室は練習場の横。たまり場は、カフェテリア、「天和」(雀荘)、麴町ハイツ(ビリヤード場)、来々軒、清水谷茶房。
6. ウエアのブランドはとくになし。
8. 1~2年の時は後の西田升平プロを擁する日大と、3~4年は後の新井規矩夫プロのいた東洋大や学習院大とフレンドリーマッチをした。日大は後の沼沢聖一プロの入学後は相手にしてくれなかった。



勝利の胴上げ 平井キャプテン

女子 回答なし

9. ゴルフクラブはマクレガー、ウィルソン、スポルディング。
- 10.杉本英世、陳清波、安田春雄。樋口久子。
- 11.フォードターナス、コロナ、クラウン。
- 12.コンパは上智会館。ときに半蔵門の東条会館も使った。
- 13.昭和32年のカナダカップを契機に第一次ゴルフブームが到来し、昭和37年入学の我々の場合、入部時の人数は男女あわせて50名を数えたが、打席もクラブの数も間に合わず、ランニングと素振りばかりだったため、何部に入ったのかと文句続出、すぐに半分減った。残念ながら女性は誰もいなくなり、最後に残った優秀な男ばかり11名がOBとなった。

1967 昭和42年

(一般)

- * 美濃部亮吉知事で革新都政誕生
- * 自動車保有台数1,000万台を超える
- * ヨーロッパEC発足
- * 第3次中東戦争(イスラエルとアラブ連合)

(ゴルフ)

- 日本ゴルフ場数496
- 女子プロテスト一期生、樋口久子ら41名ライセンス取得
- A・パーマー/J・ニクラウス/G・プレーヤー ビッグ3来日
- カナダカップ、ワールドカップに改称



<男子>

小島功(主将)・岩本滋(主務/大石)・益野裕(副将/益野力一)・秋葉哲(会計)・本間健平(学連)・竹沢俊行・西村新一郎・三田剛・山田肇・山室忠介

<女子>

永井有美子(主将/ユミ/島田)・二井布佐子(サコ)・小林万里子(マコ/山室)

1967(昭和42)年卒

男子

1. 3年秋 入替戦でB昇格 4年 春B-4位? 秋B-5位、入替戦でB残留。
ABCの3ブロック。Dがあったか知らない。上しか見ていなかった。Aブロックは慶応、早稲田、明治、学習院、中央。Bブロックは日大、法政、成城ほか。
2. 新人合宿は太田、修善寺、伊良湖シーサイド。春夏の合宿は茨城、箱根、霞ヶ関、姉ヶ崎、湯の山(三重)、埼玉国際。
・太田ゴルフ場の隣には米軍の演習基地があり、パラシュートで投下する物資がコース内に落ちてきたことがあった。それに遭遇した竹沢君が「デインジャー」と叫んだのは、さすが語学の上智と思わせた。
・3月末の春合宿では、必ず雪に見舞われ、オイチョカブ大会

になった。

・箱根の合宿時、瀧川キャプテンのベッドに大量のノミだかダニが発生して、ずいぶん苦労されていた。

- 朝10時までグラウンドはソフィアゴルフクラブのドライビングレンジだったので、8時前から随時練習していた。ボール代は一般客が100円(24個)のところゴルフ部員は30円にしてもらい球拾いを手伝った。コーラを賭けて、テニスコートに入れる競争をしたら、水野先輩が3番アイアンを入れて、度胆を抜かれた。合同練習は水・土曜で神宮外苑から赤坂御所の周囲を走ったが、時間があいたら集まって走ったり、ボールを打ったりしていた。理論的な筋力トレーニングや、整体技術等の知識が少なく、やみくもに疲れるまで走ったり、跳んだり、クラブを振ったりだった。連帯責任の罰則ってナニ? ないに決まっている!
- 任意で多摩CCでキャディ(あぶれることが多かった)、三越のハンカチ売り場、東横百貨店の魚売り場でバイト。部としてはデパートの配送センターに皆で行った。
- クラブハウスを部室がわりに自由に使っていた。他の部はほとんどカマボコハウス(米軍の野戦用の小屋)に部室を持っていた。テニスコートの裏に新設された部室は台風でひっくり返った。上智会館の真中を常に独占、必ず数人以上たむろしていた。卒業してから知ったがゴルフ部のたむろは、とにかく目立ったらしい。山室教授がそこで楽しそうに皆と談笑していたのを懐かしく思い出す。学外では喫茶店「パリー商会」、裏門出てすぐのレストラン「葵」、ビリヤード場、雀荘「天宝」。
- ペンギンマークのマンシングウエアが始めたが、ゴルフ用のシャツは高額だった。女性用ゴルフウエアなどなかったようで、背が高くほっそりとしたユミが男用のスラックスを買うために一緒に伊勢丹へ行ったことがある。
- ・1年上の代はとにかくよく飛ばした。とくに大西先輩のドライバーの球の高さとキャリーは別格だった。湯の山の合宿で、200ヤード近辺に川が横断しているミドルホールで、向かい風が強かったので、私(山田)はドライバーで打っても川の手前だったのに、同じ川の手前を狙って5番アイアンで打った大西先輩の球は、なんと川を越えていた。
・Bブロックリーグ戦は軽井沢で1週間かけてマッチプレーで試合をする。試合のない日に応援に合宿所に行ったところ、もぬけの殻だった。全員練習に励んでいるに違いない、と付近を探したがどこにもいない。相当たって選手たちが晴々とした顔で興奮気味に帰ってきた。戸倉上山田温泉まで出向いたとのこと。温泉で疲れを癒してきたのなら大目にみてやろうと思いきや、温泉名物の女性舞踊ショーをたっぷり楽しんでた! そのせいか、この秋も入替戦を戦う破目になってしまった。
・リーグ戦中、毎晩対戦校の選手の力量を推測しながら、マッチプレーの組合せを討論し、試合に臨む気分を高揚させたまま、ほとんど眠れない夜を過ごすのは何ものにも換えがたい体験だった。
- 立教、日大、東洋大と定期戦をした。立教の城島、日大の西田升平、山田健一、沼沢聖一、東洋大の新井規矩雄といった後にプロになった猛者と戦い、ティーショットで100ヤード近く置いていかれる屈辱を味わったが、そんな強豪大学と戦った経験

は誇りである。南山大学との定期戦も温かみのある交歓だった。

女子 回答なし

- マクレガー「ターニー」、ウィルソン、スポルディング「エグゼクティブ」等のアメリカ製が人気の中心で、アメ横で一流企業の役員たちが漁っていたりしたもの。
- 杉本英世の全盛期。フックボールを打つのが主流で、1年先輩の平井キャプテンが良いフックボールを打っていた。陳清波のダウンスイング理論が一世を風靡していた。
A・パーマー、G・プレイヤー、出始めのJ・ニクラウスらが憧れの存在。彼らが揃って出場した1966年の東京よみうりCCでのカナダカップは豪勢だった。個人優勝したカナダのジョージ・ヌードソンが細い体にカーディガンをはおり、濃いサンダラスを掛けたまま淡々とプレーしていたのが印象的だった。益野君がしばらくその格好を真似ていた。女子では服部道子のお母さんが女子のトップアマだった。
- 本間君のヒルマンミンクス、たて目のセドリック、トヨタのクラウン。
- 新入生歓迎コンパは学生会館。追い出しコンパは方々で開いた。上級生と別れるのが無性に淋しかったのを覚えている。私たちの追い出しコンパは後輩たちが頑張って、大利根CCでミニ合宿を兼ねて開いてくれた。
- 学生数が6千名位だった。教務課が必ず出席票を集める。語学は宿題が必ずある。学生への面倒見が良いのか、お節介なのか…。少人数の授業が多かったこともあって、先生と学生の交流は自然に深まっていた。当時の他の大学と比較して、キャンパスは綺麗な環境だった。

1968 昭和43年

(一般)

- * 東大紛争
- * 川端康成ノーベル文学賞受賞
- * 和田札幌医大教授日本初心臓移植
- * 三億円事件発生
- * 全国のボーリング場611ヶ所に(前年同期比47%増)
- * ソ連チェコ侵入

(ゴルフ)

- 杉本英世戦後初全米オープン予選出場
- A・パーマー生涯獲得賞金100万ドル達成

1968(昭和43)年卒

男子

- CとB



<男子>

相原良種(主将)・福岡秀治(主務)・瀬古南志(副将・学連)・鈴木剛・勝岡啓士・塚本次男・三浦康裕

<女子>

加藤雅子(主将/マーチャン)・金子迪子(主務・会計/ミッチー/杉崎)・黒田逸子(クロ/岩橋)・滝口紀代子(オタキ/益野)

- 新人合宿先は太田。ここは無風多湿で、気温がぐんぐん上がり、よくセルフバッグで2ラウンドもしたものだと思う。2年生の時の合宿で、バンカーの中で泡をふいている新人がおり、彼はその後「蟹みたいだった」といわれていた。春の合宿先は三重県の湯の山と、愛知県の伊良湖。湯の山はみぞれが降ってこぞえそうだったので、走ってまわったらハーフ50分くらいで上がった。伊良湖の帰りに、豊橋駅で東海道新幹線の試運転を目撃、あまりの早さに目をまるくした。合宿では、誰かを押さえて裸にしてサロメチールやマジックインキで、ここに書けないような悪戯をするのが恒例だった。脱がせる側に時に女性が混じていたこともあった。また目標スコアを切らなければ宿舎まで歩いて帰るという罰則があった。
- 合同練習は週1回で、神宮外苑まで走って柔軟と腹筋、青山通りを赤坂御所に沿って走り、残り1キロのあたりから競争で練習場へ帰った。あの頃は腹筋200回位は平気だった。打撃練習では、時々練習場からテニスコートに向けて打たせてもらった。大西先輩、平井先輩はテニスコートまで飛ばしていたのを思い出す。
- 部としてのバイトはなし。
- 部室は練習場のクラブハウス。たまり場は、カフェテリア、「葵」、「パリー商会」の喫茶店、しんみちの「ルノアール」「ポヌール」、ピザのおいしい「ミッシェリー」。
- ウエアはA・パーマー、マンシングが主流。
- ・2年上の清水先輩は素振りなどせずいきなり打つ、プレーの早い人。先日一緒にまわった時に1年上の山田先輩が「あいかわらず早いですね」と言ったら、「お前に言われたくないよ」と言い返されていた。山田さんも早いのだ。(瀬古)
・1年上の益野先輩は器用な人でした。合宿の朝、タバコを吸うのど飯を食べるのを一緒にしていた。
・同期の相原君とまわった時、彼がドロップしたボールが見つ

からなくて、みんなで捜しまわったら、防寒着のフードから出て来た。当時は肩ごしにドロップしていたものです。

・ティーマークが亀の形のゴルフ場があって、1年下の平沢君のティーショットがその亀に当たってボールが跳ね返ってきた。以来、彼は「カメ!」と呼ばれることになった。

- 1年生の時、日大との対抗戦で、同じ1年の西田選手と対戦、途中までいい勝負をしていたのだが、あるホールで林から見事なフックボールを打ってリカバリーしたのにビビってしまい、その後すぐ6-4で負けた。のちの西田升平プロである。そんなに強い選手とは知らなかったのだ。南山大学との対抗戦で、南山のキャプテンが間断なく話し掛けてくれて、「いい人だな」と思って話に答えているうち負けてしまった。それが彼の奥の手だったことは後から知った。(瀬古)

女子

- ブロックはなし。
- 新人合宿は太田。春夏の合宿は箱根で。
- 合同練習は水曜と土曜、権田原まで走って行ってストレッチをして、走って帰ってから打撃練習をした。先輩・後輩という意識はうすく、皆仲間という感覚だったせいか罰則などもなかった。
- 部室は練習場の横にあった建物。
- ウエアはマンシング、ラコステ、アーノルド・パーマーのポロシャツ、スカート、パンツ。
- 3年先輩の上田佳代子さんはゴルフ部のマドンナの存在だった。合宿で「こっくりさん」をやってもらったことを覚えている。



通称「鶏小屋」で、練習に励む女子部員

- マクレガー「ターニー」、スポルディング、パワービルト。
- 杉本英世、杉原輝雄、樋口久子。A・パーマー、G・プレイヤー、J・ニクラウスの絶頂期。彼らが出た東京よみうりの「カナダカップ」に先輩に連れて行ってもらい、ショットに驚いた記憶がある。(瀬古)
- 電車が主流。斉藤斗志二氏(途中退部・元防衛庁長官)のムスタングは当時出たばかりなので皆の注目を浴びていた。その他ブルーバード、スカイライン、ベレット、ワーゲン。

1969 昭和44年

(一般)

- * GNP世界第2位
- * 宇宙船アポロ11号月面着陸
- * 東大安田講堂機動隊封鎖解除
- * 東名高速道路全線開通

(ゴルフ)

- 不景気の波ゴルフ場にも押し寄せる(会員権の値下がり)
- PGA会員541名(内女子45名)
- ワールドカップ、L・トレビノ/O・ムーディ組日本(河野高明・安田春雄)を破り優勝
- (米) 市民運動家南ア人種問題でPGA選手権3R G・プレーヤーを妨害
- (仏) キャサリン・ラコステ US女子アマ、全英、全仏、スペイン女子優勝



<男子>

関屋芳史(主将)・平澤富吉(主務)・久原直行(会計)・秋谷政保・小倉民男・栗原正躬・中尾博・前田武

<女子>

鬼島恵美子(主将/ミーコ/久原)・滝沢素子(モコ/三浦)

1969(昭和44)年卒

男子

1. 3年春B 秋Cに降格、4年春C、秋C
2. 新人合宿先は太田。春夏の合宿は水海道で。
3. ランニングは赤坂御所1周。神宮外苑で腹筋などをしてグラウンドへ戻った。大学のロックアウト中は新丸子練習場で練習した。
4. 夏休みに自由参加で、大丸の運送部門でバイトした。
5. 部室はグラウンドのハウス。たまり場は「葵」。
6. ウエアはマンシング、アーノルド・パーマー。

7. バンカーの砂は手でならしてから出るものだと悪い先輩から教えられ、その通りにしてハーフをまわってきた後輩がいると聞いたことがある。
8. 中央とは定期戦をしていたが、エース松岡氏にはこてんぱんにやられた。

女子

1. ?
2. 新人合宿先は赤城国際。春夏の合宿は箱根、アジア下館、取手国際、ICUで。
3. 合同練習は週2回(水・土曜)で、神宮外苑とグラウンドの往復ランニングと柔軟体操、四谷の土手の往復ランニング。
4. なし。
5. 部室は理工学部奥の奥の高い建物。
6. ウエアはマンシング、A・パーマー、フクゾウ(横浜元町)。オリジナルワッペン付き紺ブレザーとブルーのスカートをよく着ていた。
9. マクレガー、スポルディング、ウィルソン、ケニー・スミス、パワービルト。
10. 杉本英世。A・パーマー、G・プレーヤー、J・ニクラウス。樋口久子。
11. スカイライン、クラウン、セドリック、ブルーバード、いすずベレット。
12. コンパは砂防会館、虎の門ホール、主婦の友会館を使用。
13. 大学紛争のさかんな時代で、ゴルフ部はノンポリもしくは右翼だといわれていた。

1970 昭和45年

(一般)

- * 大阪万国博覧会EXPO70(6421万人見学)
- * よど号ハイジャック赤軍派北朝鮮に
- * 三島由紀夫割腹自殺
- * 排ガス、光化学スモッグ公害発生
- * 歩行者天国始まる

(ゴルフ)

- 関東プロで尾崎将司鮮烈デビュー
- シェークスピア社ブラックシャフト製作
- (英)PGA競技使用球ラージボールに限定
- (英)ワーキングGCついに女性のズボン着用でのプレーを認め会則改定



<男子>

與語忠裕(主将)・佐藤衛(主務)・白田福秋(副将)・仙波不二夫(副将)・鈴木元紀(会計)・北村茂(学連)・飯塚央・横田佳夫

<女子>

藤井真弓(主将/マメ/長島)・黒田憲子(主務/クロ/高坂)

1970(昭和45)年卒

男子

1. 3年C、4年春C-5位 秋C-6位
日大が全盛で4年のときDブロックができた記憶がある。
2. 新人合宿先は太田。春夏の合宿先は取手国際、水海道、石打後楽園、霞ヶ浦国際、筑波。学連の月例杯は戸田。
3. グラウンド練習場で、夜間も練習した。ランニングはかけ声を出しての赤坂御所1周で、途中、神宮外苑で筋トレをした。皇居1周の時もあった。
4. 東京プリンスホテルでダンスパーティーを開いて部費の足にした。個人的には草津CCでキャディのバイト。(北村)
5. 部室はSPS。たまり場は、練習場のクラブハウス、学食、カフェテリア、雀荘。
6. ウエアはマンシング、A・パーマー、ラコステ、ゴールデンベア、ピーコック、ホワイトスタッグ、モンタンのポロシャツ。
7. ・入部初の練習日に剣道の竹刀(しない)を持った先輩がいた。
・私(北村)の自宅が大学の近くにあったため、同期や後輩がよく遊びにきてくれた。とくに後輩の長谷川君、菊池君はお金が無くなると来て飲み食いをしていました。
8. 高校の同級生が学連の委員長で、私(北村)が委員だった関係で、日大と学習院の合同合宿(千葉CC川間)に参加させてもらった。

女子

1. 1年の時はマメ、マーチャン、オタキらとても強い4人がいた

が(注: 当時は先輩を「さん」付けでは呼ばなかった)、上手な人たちが卒業してランクがさがったものの、マメはリーグ戦ではメダリスト、全日本では35,36といった感じでプレーし4位だった。それはそれはカッコ良かったです。

2. 新人合宿先は太田。春夏の合宿は箱根など。箱根の合宿では朝食はおにぎりだったと思う。ミルクに氷とはちみつを入れると美味しくて、牛乳嫌いだったのを忘れた。春の合宿は雨が多く悲しかった。ゴルフは下手でつまらなかったけれど、夜の先輩達のお話がおもしろくて良い思い出になっている。(クロ)
3. 合同練習は週3回くらいか。1年365日のうち300日くらいはクラブをさわっていた気がする。
5. たまり場はカマンドハウス(ムードがあってよかった)、カフェテリアの入り口に入って中央にいけば必ず部の人に会えた。
6. マンシング、ゴールデンベア。ユニフォームは紺のブレザーにワッペン、ブルーのスカートとなかなかいかしていた。
7. 早朝合宿に行く常磐線のなかで、先輩が電車のいすに正座してお弁当を食べはじめた。カッコいい人なだけに何ともおかしく忘れられない。
9. マクレガー「ターニー」、ウィルソン、スポルディング。パターはアクシュネット、シェイクスピア、かまぼこのレイクック。
10. 河野高明、尾崎将司、中村通、呂良換。当時テレビでビッグ3ゴルフ(A・パーマー、G・プレーヤー、J・ニクラウス)を放映していた(ハワイ島のマウナケアビーチホテルのゴルフ場にて)。ほかにキャスパー、リトラ、ベアード、リー・トレビノなど。樋口久子。ミッキー・ライト、キャシー・ウィットワース。
11. コロナハードトップ、プリンス、ムスタング、ヒルマン。
12. 軽井沢の晴山ゴルフ場でのコンペ、新宿ゴールデン街の「V」でコンパ。ホテルでダンパー(ダンスパーティー)を開催、先輩方はとてもおしゃれをしていた。3年の頃からはモンキーダンス、ゴーゴーでしたかしら?(クロ)
13. 学内に機動隊が入るほど学生運動が激しく、4年生の時には大学がロックアウトになり、アパートの1室を借りてゼミを開いていた。

1971 昭和46年

(一般)

- * ディスカバー・ジャパン最高潮
- * 対ドル・レート変動為替相場制に(1ドル308円に)
- * 海外旅行ブーム
- * 沖縄返還協定調印
- * NHK総合テレビ完全カラー放送
- * 日清食品カップヌードル発売
- * 多摩ニュータウン8500戸分譲大人気

(ゴルフ)

- 第2次ゴルフブーム、PGA会員663名
- 2ピースボール流行
- 球聖ボビー・ジョーンズ69歳で逝去
- アポロ14号アラン・シバード月面で人類初ショット
6番アイアンで2球プレー



<男子>

長谷川均(主将)・戸田青児(主務)・菊池健人(副将)・糸日谷哲朗(会計)・浅野義夫(学連)・三木潔(OB係)・関谷俊男・今田和夫・出口正義

<女子>

なし

1971(昭和46)年卒

男子

- 3年春C-5位 秋C-6位、4年C
- 水海道、石打後楽園、筑波、日光。石打後楽園での合宿では、最終日の打ち上げの時に悪い酒を飲み過ぎて、翌日目の見えないう人が続出した。
- ランニングは赤坂御所1周(これは楽)、または皇居1周(これは大変)。
- たまり場は学食を入った左側のテーブルで、他の人からはイヤ

な目で見られていた。学校へ行ってもほとんど授業に出ないで、学食か練習場か雀荘「宝」に入り浸りでした。(浅野)

- キャプテンHとマネージャーTが大酒のみで、毎日宴会。車をもつMとAが飲まないで長時間つきあわされた挙げ句、Hの埼玉のはずれの家まで送られるのが常だった。そのHのせい、女子部員がみんな辞めてしまい、さびしい男所帯になってしまった。いまでも同期会に華がないのが寂しいので、トレードをお願いします。(浅野)
- 同ブロックの国学院大、東海大と。
- 杉本英世。4年の夏に尾崎将司が衝撃的なデビューをした。樋口久子。
- スカイライン2000GT。
- 我々の追い出しコンパは東京プリンスホテルで開いてもらった。
- 3年の時に学園紛争で半年くらい学校が封鎖された。ゴルフ部は体制側で黄色いヘルメットをかぶり角材を持ってバリケード破りに出かけたが、屋上から石なんか落ちて来て怖かった。Kがサンドウエッジを振りかざして全共闘を追い掛けまわして有名だった。封鎖の間は千葉の総武CCでキャディのバイトをしながら合宿をしたが、旅館の食事が毎日鯉ばかりなので参ってしまい、ゴルフ場の帰りに買うコロケが唯一の楽しみだった。

1972 昭和47年

(一般)

- * ゴルフ場の建設ラッシュ
- * 土地ブーム
- * 札幌冬季オリンピック、ジャンプで笹谷が金メダル
- * 横井庄一グアム島「恥ずかしながら」復員
- * 連合赤軍「浅間山荘」事件
- * 田中角栄「日本列島改造論」
- * 日中国交回復(パンダ中国より上野動物園に)

(ゴルフ)

- JGA日本オープン、女子オープン入場有料制に
- ゴルフ税定額課税1人1日600円
- USGA公認球リスト発行25種25ブランド
- 全英オープン賞金総額50,000ポンド、優勝5,500ポンド、ギャラリー84,746人
- ジーン・ブラロック、リブレースごまかしで失格
LPGA 8年間出場停止処分で訴訟

1972(昭和47)年卒

男子

- 3年C-7位 4年春C-7位 秋C-4位



<男子>

田中善生(主将/平成15年逝去)・竹山信夫(主務)・岡部照男(副将)・池座秀和(副主務)・田尻治(会計)・横田保(新人・OB係)・大森(学連)



<女子>

山川裕子(主将/ヤマ/安原)、加藤順子(主務/カトケン/清水)、浜本典子(副将/ハマ/浅野)、今村麻子(会計/アコ/山本)、添田あとも(OB係/アミ/丹羽)、沢木久美子(クッキー/金谷)

- 新人合宿は水戸。その他の合宿先は 筑波、アジア下館、水戸、浜松シーサイド、稲取、日光、取手国際、新千葉、霞ヶ浦、水海道、フレンドシップ。
浜松シーサイドでの冬合宿は、宿泊所がお寺で、風呂と夕食をクラブハウスですませて宿舎に帰る毎日。お寺には暖房がなく非常に寒く、4名が風邪で発熱し大変な合宿であった。
- 合同練習は週3回、皇居と神宮外苑がトレーニングコース。朝練は夏合宿前、冬休み明け等に朝6時から開始。始発電車に乗って参加する人もいた。特に冬休み明けの朝練では、筋肉痛で階段の昇降に苦労した。
- 三越で中元、歳暮時の伝票整理(人数によりクラブに補助金でた)。大学入試の警備。当時学生運動が全盛期、柔道場に泊り込んで入試警備をおこなった。昼間は試験監督、構内警備、特に夜間不審者の入試妨害に備えて体育会系のクラブを中心に構内警備をおこなった。警備は3班に分かれており、3日に1日夜間外出がゆるされ、しんみち通りに何人かで飲みに行った。

- 部室はSPSの2階、男女兼用の部室のため着替え時、男女の札を掛けた。
たまり場は学食のそばコーナー近くのテーブル。練習後、学食でよくビールを飲んだ(当時は学生食堂でビールを提供している大学は日本に数校しかなかった)。先輩が来ると大きな声で挨拶、女子部員はびっくりしたのではないのでしょうか? 雨の日は 学校裏の雀荘(晴れの日の昼間麻雀をやっていると先輩から練習をしろと怒られた)。
- ペンギンマークのマンシング、ワニマークのラコステ等。合宿に行く時は、学生服。夏は白の開襟シャツ、下級生のころは、赤やピンクのポロシャツは禁止されていた。
- 1年上の長谷川先輩・戸田先輩・糸日谷先輩は非常に酒が強かった。現在の竹下通りの中ほどに「しまじま」という小料理屋があり、練習後、時々行って飲んでた。ある時、現金の持ち合わせもないのに3名で60本以上のお銚子を平らげ、ツケで飲んで暮れに支払いに。当時は、学生を信用してツケで飲ませてくれた店もありました。
- 明治学院とフレンドリーで対抗戦をおこなったことがある。

女子

- 3年春C 秋C、4年春C 秋C
- 水戸、取手国際、取手アジア、水海道、江戸崎、大宮国際など。河川敷のゴルフ場で冬の合宿をした時には、寒くて凍えそう、これに耐えられればどんな苦難も乗り越えられると本気で考えた。
- 土曜の午後は全員でトレーニング、各自の授業スケジュールに合わせて週3回練習場から神宮外苑までランニングをして、柔軟体操をした。合宿前には必ず朝練があった。
- 三越で売り子のバイトをした。
- 部室はSPSの2階中央、スキー部の前。たまり場は学食の、カフェテリア(現購買部)に通じる出口付近。
- ウエアはマンシング、ラコステ、キャッシング。上智のユニフォームはブルーのスカート。
- 2年上のマメさんはゴルフが上手(全日本学生選手権で4位)でスタイルが良くて、みんなの憧れの的だった。
上田佳代子先輩(40卒)が合宿に来て下さった時は、フランスから帰国されたばかりで、とても素敵で思わず見とれてしまったこと、差し入れに持ってきて下さったケーキを電車の網棚に忘れて来たと聞いてガッカリしたことをよく覚えている。
- 明治学院の女子部とフレンドリーマッチをしたり、いっしょに合宿をした。
- ウィルソン、スポルディング、マクレガー、ベンホーガン。
- 杉本英世、安田春雄、河野高明が日本のビック3で、ほかに山本義隆、河野光隆、西田升平。女子プロは樋口久子の天下。

11.スカG(スカイラインGT)、ブルーバード、コロナ。今は部員のほとんどが車を持っていると思いますが当時は半分ぐらいかな？

12.1,2年のころ、東京プリンスホテルでダンスパーティーをゴルフ部で主催していた。当時は、各大学ではやっていて、他の大学では入場料が500円のところゴルフ部は600円。部員一人当たり10~15枚程度の販売義務があり、100円の差で売るのが苦労した覚えがある。納会は、赤坂プリンスホテルや砂防会館(?)で、各学年別に余興をした。カラオケはまだなかったのでマイクをもつと緊張したのを覚えている。新入生歓迎会は上智会館。追い出しコンパはオールナイトで飲み明かすのが恒例だった。

13.1年の1968(昭和43)年秋頃、上智大学は全学連により校舎を封鎖され12月に機動隊導入による校舎のロックアウトがおこなわれた。その後も東京大学のロックアウト等、学生運動の最盛期に学生生活を過ごした。学生運動のおかげで無事4年間で卒業できた者がかなりいたと思う(学生運動で校舎を封鎖され、まともに授業を受けていない者、受けられなかった者が多かったため、学校側の恩赦的配慮からかなりの生徒が留年をまぬがれたと想像される)。卒業の年の2月の入試警備のときは、ちょうど札幌冬季オリンピック中で、笠谷、金野、青地が70メートル級ジャンプで金、銀、銅メダルを独占という明るいニュースもあったが、浅間山荘の占拠による連合赤軍と機動隊との攻防戦等、激動の時期に学園生活を終えた。そんな中で、学生生活をエンジョイできたのは、ゴルフ部に入学し同期、先輩、後輩と苦しく、楽しいクラブ生活ができたからだ感謝しています。

14.3年生の時に7位でDブロック降格を免れた事、団結・規律を図るため、竹山マネージャーの紹介で横須賀の自衛隊海兵隊に体験入隊し厳しさを味わった事等、誌面では書ききれないほどの思い出があります。



<男子>

白根兼行(主将)・佐藤賢治(主務)・佐々木隆(副将/高橋)・板倉広忠(会計)・山田修(OB係)・高橋実(学連)・白石俊明・長澤恵一・松本久・桑原繁

<女子>

五月女まり子(主将/オトメ/棕本)、小林恵子(主務/ケイ/永井)、大沢いう子(会計/ユッコ/高津)、岩崎和子(OB係/イワ/須賀川)

2. 新人合宿は稲取。春夏の合宿先は水海道、浜松シーサイド、アジア下館、水戸、霞ヶ浦国際、フレンドシップ、新千葉。浜松シーサイドは1,2年生の冬と夏に、近くのお寺に泊まって合宿したが、夏合宿で台風に遭遇。池の多いコースのためフェアウェイは水浸しで、バンカーには体長1メートルほどの鯉が泳いでいるし、側溝には天然記念物のオオサンショウウオがいて、びっくりした。

3. 合同練習は週3回。火曜と木曜は赤坂御所のまわりをランニングして絵画館前でトレーニング、土曜は皇居を1周してグラウンドでトレーニング。新入部員は土手の上から発声練習をするのが恒例だった。

4. キャディバイトはなし。御中元御歳暮時に三越でバイト。ゴルフトーナメントの綱張り、新幹線食堂車内でレンジの真空管を交換するバイトなど。

5. SPSにあった部室は女子の着替え室だったので、行っていない。たまり場は学食の、正面から入っていちばん左奥。しんみちの喫茶店「フランス屋」。

6. ウエアはマンシング、ラコステ、キャッシング、ゴリノス、A・パーマー、ゴールデンベア、G・プレーヤーのピューマ。

7. グリーンの芝目を読みながら後ずさりしていったバンカーに転落した先輩。我慢できずに野糞した先輩。六本木で飲み過ぎて電車もお金もなくなり、たまたま通りかかった全盛期の杉本英世プロにお願いして、高級外車で家まで送ってもらったアホな後輩もいた。

女子

1. 3年C、4年春C-2位

2. 新人合宿は取手アジア。走れといわれて死ぬかと思った。合宿後、数人がやめてしまった。春夏の合宿は水海道、水戸など。合宿最終日の最後に、全員横並びで全ホールを目土をすることで合宿をやらせていただいた。当時は安くて宿泊できて合宿させてくれる所は少なく、皆で10円玉をたくさん用意し(公衆電話をかけるのに必要でした!)片っ端からゴルフ場に電話をかけまくり頼み込んだ。3年下のククが入部し、お父様の経営する愛鷹600でプレーさせていただいた時は夢のようでした。(オトメ)

3. 朝練は春・夏・冬などの長い休みの時に1週間程。義務練は週3~4コマ。土曜の午後が合同練習で、普段は土手のランニング・柔軟体操・指や腕の鍛錬等。ときには赤坂御所1周し外苑でトレーニング。途中で「ちび天」こと現在の皇太子殿下(当時小学1-2年?)に出くわし、「お姉さんたちカッコイイ」といわれたことがあった。その後打撃練習。練習場の打席数のことではよく男子とケンカした。

4. 三越の地下で御中元の時期にバイトをした。キャディバイトには反対だったし、アルバイトをしない分、質素にすることでカバーできると思っていた。(オトメ)

5. 部室はSPSで、サッカー部の隣だった。入部した時あまりにもきたなくて臭かったので何日もかけて整理し掃除しやっと部室らしくしてみたものの、すぐ元の木阿弥に。(オトメ) たまり場は学食、喫茶「ラポール」。

6. 白い半袖シャツの胸元にうすいブルーの刺繍でsophiaと入れ、スカートは同色のブルーのピケの布地をまとめて買ってシンプルなタイトスカートを各々で作ってユニフォームとした。まだまだ世間ではゴルフをやる学生なんて生意気で贅沢だとみられていたので、贅沢にならないように気を遣った。

8. 聖心女子大と交歓試合をし、キャプテンとしての考え方ややり方を相談したりした。2年夏合宿には、東京農業大のゴルフ部に女子がひとりしかいないので一緒に合宿に連れて行っていたが、その方のいびきがすさまじくかなりの寝不足になり、以後は丁重におことわりしました。(オトメ)

9. ウィルソン、スポルディング、マクレガー、パワービルト。

10.杉本英世、河野高明、安田春雄、そして2年生のときに尾崎将司が華々しくデビュー。女子は樋口久子の一人天下。吉持姿子(よしもちしなこ)が高校生で大学の選手権に参加していてビックリした。その後プロになったが鳴かず飛ばすでしたね。

11.クラブを持って電車に乗るのも気が引けた時代です。ブルーバードSSS510、スカイラインGT、三菱ギャラン。

12.追い出しコンパは取手国際、コンパはホテルでやることもあれば、居酒屋でドンチャン騒ぎもあり。我々の追い出しコンパはホテルニューオータニで開いてもらった。Bブロック昇格祝いのコンパでメチャクチャ飲んで気が遠くなったことがあったが

翌日はケロツとして学校へ行った。(当時はゴルフでなくお酒に強かった!)

13. もっとも学生運動華やかやし時代で、体制派の体育会は学生運動の闘士たちとよくやりあった。

・学校が閉鎖される前に部室からクラブを持ち出すのが大変だった。正門までたどり着いたところで機動隊がなだれこんで来て、コートのボタンがちぎれたりする中を、必死で土手を駆け上がったこともあった。

・入試はロックアウトされた厳戒体制の中、校内にはいった。入学してからメインストリートでジグザグ行進のデモをやっており、ある日義務練に行くとき出くわしてしまっただが、ゴルフクラブを担ぎまっすぐ突き進み、デモ隊をよけさせたことがあつた。よくぶんなぐられずに済んだものと今はゾツとする。

1974 昭和49年

(一般)

- * 田中首相金権体質追及され辞任
- * 米ウォーターゲート事件でニクソン大統領辞任
- * コンビニ、セブンイレブン開店
- * 巨人長島茂雄現役引退「永久に不滅」
- * 消費者物価24.5%上昇 狂乱物価
- * ルバング島小野田寛郎発見

(ゴルフ)

- 会員権高騰/グリーンフィー急上昇
- 日本女子プロゴルフ協会設立
- R&A全英オープン、PGA太平洋マスターズより使用球をラージボールに限定

1974(昭和49)年卒

男子

1. 3年春C-3位 秋C-7位、4年春C-4位 秋C-6位

2. 越後湯沢、水戸など。新人合宿は浜松シーサイド。宿泊先はゴルフ場近くのお寺の本堂で、ある日酔っ払いが和尚に会わせろとやってきて、しつこくからんだので、皆で追い返した思い出がある。

3. 合同練習は火・木・土曜で、迎賓館前から権田原、絵画館前を経て、赤坂御所1周のコースをランニング、土曜は時々半蔵門から皇居1周した。朝練は南千住のユニチカで打ち放し。罰則は地下鉄丸の内線のトンネルの上の土手に整列して発声練習。1年上の高橋先輩の指導が厳しかった。

4. 三越。有楽町の交通会館屋上のゴルフ練習場でボール拾い。プロトーナメントの綱張りやスコアボード持ち。優勝した後に18ホールをランニングしてから風呂に入りに来たG・プレーヤーと、風呂でいっしょになったことがある。

1973 昭和48年

(一般)

- * オイルショック(トイレトペーパーパニック)
- * 韓国金大中氏日本で誘拐
- * 江崎玲於奈ノーベル物理学賞受賞
- * ベトナム戦争終結宣言

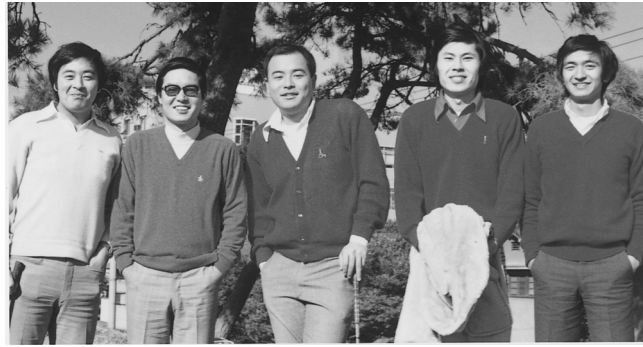
(ゴルフ)

- ゴルフ場新規開発規制発表
- 全英オープンでジーン・サラゼン71歳 8番ホールでホールインワン(TV初実況)
- J・ニクラウス7勝し生涯獲得200万ドル超える

1973(昭和48)年卒

男子

1. 3年春C-7位 秋C-4位、4年春C-3位 秋C-7位



49年卒男子

<男子>

小林幸一（主将）・菅田和則（主務）・上山義和（副将）・箱崎俊介（体育会）・神尾朗維（学連）・鈴木達郎・東崎雅美・日沢進



49年卒女子と50年卒男子

<女子>

鹿野麻耶（主将／マヤ／吉田）、塩沢理恵子（主務／リエ／丸杉）、久本中子（副将・OG係／ナカ／渡辺）、山下永子（会計／エコ／中島）

5. たまり場は学食のカフェテリア（現購買部）へ向かう通路の横。グランド練習場のクラブハウス。しんみち通りの喫茶店「フランス屋」、スナック「バッカス」、屋台のおでん屋。
6. マンシング、ラコステ、ゴールデンベア、A・パーマー。
7. 1年の冬に横須賀自衛隊で体験入隊に参加。早朝ランニングのときに、「上半身裸でランニングの事」と伝達した後輩にだまされ、寒い中を裸で走っておられた長谷川先輩（46卒）。

女子

1. 3年春C-2位 秋C-1位でBに昇格、4年春B-1位でAに昇格秋A-4位。
2. 新人合宿は江戸崎。先輩が大騒ぎしたため、その後の使用を断られた。春夏は、アジア下館、大宮。アジア下館の夏合宿で、目土のときにカエルや蛾が大嫌いなマヤが「ぎゃーっ！」と悲鳴をあげながら飛びまわっていた。

3. 合同練習は週2〜3回。朝練は合宿前に集中して。神宮外苑までランニングしてストレッチの後、赤坂御所をまわって帰る。
4. 三越銀座店の地下5階で御中元御歳暮の伝票整理（暇を見つけては皆で輪ゴム飛ばしをやっていた）。
5. 部室は部室棟SPS（女子が着替えるため、男子は途中から練習場の小屋に移動）。たまり場は学食、裏門そばの喫茶店「ラ・ポール」、しんみち「グリル・エコー」。
6. マンシング、ウェザーコック、A・パーマー、ゴールデンベア、ラコステ、クロコティル。
7. 1年時の4年生の主将・長谷川均さんが、追い出しコンパの時「知床旅情」を朗々と歌い上げ、1年女子一同「ホレボレポー！」素敵でした。
9. スポルディング、パワービルト、ミズノ。
10. 杉本英世、杉原輝雄、村上隆、安田春雄、青木功、尾崎将司、石井朝夫、陳清波、佐藤精一、島田耕作、謝敏男。女子は樋口久子、清元澄子、中村悦子。
11. スカイラインGT、ブルーバードSSC、マークII
12. コンペは取手国際や霞ヶ浦国際で。コンパは麹町の都市センターホール、鉄道弘済会館、主婦会館などを使用、「フランス屋」で徹夜のパーティーをしたこともあった。現役はガクラン着用。・新入生歓迎コンパはしんみちの寿司屋。一次会終了後、先輩男子が女子部員を家まで送ってくれた。二次会に興味をもちつつも、大事にされているようでうれしかった。
13. 1年時に三島由紀夫が自決、2年時に浅間山荘事件、3年時に札幌冬期オリンピック開催など、記憶に残る事柄の多い4年間で、学生運動もまだまだ激しく、休講が多いことを理由に、練習場にいらびたっていた。・上智に芸能人がたくさん入学した時期で、練習後、ジュディ・オングとよくすれちがった。・1年時は、いまだ1ドル360円の固定相場制の時代で、しんみち通りの「1ドルステーキの店」が繁昌していた。



50年卒女子と48年卒女子

<男子>

蓋孝（主将）・菅野郷介（主務）・高橋紀雄（副将）・養田澄男（OB係）・江美憲・勝俣宏一・鈴木隆夫・松田茂

<女子>

森みどり（主将／ミド／吉田）・林真理（主務／マリ／野本）・西光子（副将／ミッコ／向井）・本間千鶴子（会計／チコ／綾部）・田中弓子（書記／ユミ／田中）・岡田淳子（オカ／松田）・清水正子（シミ／山崎）

1975（昭和50）年卒

男子

1. 3年春C-4位 秋C-6位、4年春C-1位でBに昇格 秋B-4位
2. 新人合宿は忘れもしないフレンドシップ。その後の合宿は取手アジア、新千葉、霞ヶ浦国際などによく行った。取手アジアはだっ広い真っ平らなコース、新千葉はリーグ戦にもよく使った。霞ヶ浦国際はなぜか冬のカチンカチンのコースを思い出す。その他、伊豆国際や石打後楽園などゴルフ場とは思えない所もあり（札幌五輪の後で、笠谷など日の丸飛行隊の真似を随分した）、オープン前の冬に合宿した高萩は、寒い風は強いウェアウェイ、グリーンはカチカチだわで涙を出しながらラウンドした。こんなゴルフ場を手配したのは誰だという事になって、主務の菅野がボロクソにいわれていた事も思い出す。（蓋）・1年の時、浜松国際で合宿したが、台風でバンカーに魚が出現したり、水が退いた後、先発組がボール拾いをしていた。途中、船でウェアウェイを渡ったと思う。（養田）・新千葉はコースのことより白根先輩と二人きりで風呂に入ったときの恐怖が今でも思い出されます。（高橋）
3. 朝練は7時から。学校の場合は主にグランドを使用しての打ち直し（アイアンクラブ限定）、ボール入れの缶を利用してのアプローチ競争。勝俣君のSWの上手さ、まるで手で投げているようなとんでもなく柔らかな打球に驚いた記憶がある。時には7時に現地集合で南千住のユニチカゴルフセンターに行き、1時間半ほど打ち直しを堪能して学校に戻った。合同練習は週3回。平日は夕方5時集合で、体操の後、権田原経由神宮外苑ま

でランニングして、絵画館前で柔軟や腕立て。結構きつめの思い出として肩車をして中腰になるような足腰ががくがくするメニューがあった。土曜はおもに皇居を1周してグランドでトレーニングの後、打ち込みをした。土曜日は練習後そのまま飲みに向かった記憶が多い。連帯責任は、弓道場の横の土の上での正座で、かなりやらされた、やらせた両者の記憶がある。（蓋）

4. キャディのバイト先は赤木国際が多かった。銀座三越の御中元・御歳暮の配送センターでバイトをした。トーナメントのキャディで陳清波が優勝争いをして蓋君がチップをたくさんもらったはず。G・プレーヤーが、優勝した後でもトレーニングのためコースを走っていたのには驚いたけど、僕らもバイトの後風呂に入れてもらったら、プレーヤーが入ってきて、何の大きいのにそこにいた全員あぜん！（養田）
5. 部室は練習場のハウスで、とても汗臭かった。しんみちの「サラマンジェキキ」とかで先輩にごちそうになった。六本木の「比呂」にもよく行った。
6. 流行はペンギンのマンシングと熊のゴールデンベア、傘のA・パーマー。お揃いの紺のセーターを作った記憶がある。
7. ・当時理工学部助手の瀬川先輩（41卒）に大変お世話になりました。奥さんもきれいな方でした。（養田）・4年の秋のBブロックリーグ戦の3日目、卒研の関係で高橋君がどうしても帰らなくてはいけなくなり、焦って南部富士CCの玄関横の大きなガラスに追突。縦4m×横3mくらいの強化ガラスが見事に粉碎、本人はケガ一つなくケロッとしてそそくさと帰郷したのが思い出される。（その頃は毛が有ったのに！）後日の請求がなかったのもラッキーでした。（蓋）・高橋君が朝日杯かなにかの予選で当時高校生の湯原君（後の湯原信光プロ）とまわって、湯原に励まされていたのを覚えている。ぼくがキャディだからいいスコア出るわけじゃないよね。（養田）

女子

1. 3年春B-1位でAへ昇格 秋A-4位、4年春A-3位 秋A-4位
2. セントラルゴルフクラブなど。夏の合宿では猛暑の中、1日2.5ラウンドすることもあり、途中で水分補給ができず苦しかった。新しいスパイクのため靴擦れができて痛かったのを思い出す。何事もやり抜く忍耐力、精神力、根性を養えたのではないかなと思う。・私達の大学在学中に、みるみるゴルフ人口が増えて予約がとり難くなり、学生ゴルフへの理解もどんどん減って、学割ではコースをまわらせてもらえなくなった。合宿のためのゴルフ場探しの苦労がありました。
3. 土手でランニングとトレーニング、練習場へ降りる階段でカエル跳び。柔軟体操のメニューはまじめに研究した記憶がある。神宮外苑まで走って公園でトレーニングすることもあった。神宮からの帰り道、当時学習院初等科2,3年生だった浩宮様が数人のガードマンに護衛されながら下校されるようすを横目でみながら走った光景が思い浮かぶ。

1975 昭和50年

（一般）

- * GNP戦後初のマイナス成長
- * 昭和天皇・皇后初訪米
- * ベトナム戦争終結

（ゴルフ）

- 日本のゴルフ場数1,093コース
- 村上隆4大公式戦制覇
- 米ジレット、チタニウムシャフト製造
- 米マスターズにリー・エルダー黒人として初出場

・練習場がすいていると嬉しいけれど、誰も居ないと都会の中の孤独を感じた。(ミド)

- 1年の夏休みには軽井沢のゴルフ場でキャディバイト。三越でお歳暮の伝票整理、おもちゃ売りの売り子。プロのトーナメントでギャラリー整理やマーカーなど。新宿の小料理屋で皿洗い(そこのオヤジが怖かったのを覚えている)。テレビCMのフィルムに合わせて「ファイター!ファイター!」と声を出す、声優(?)のバイトもした。

5. たまり場は学食のカフェテリア(現購買部)から入ってすぐ右側のテーブル。

6. ブランドではマンシング、ゴールデンベア、A・パーマー。ポロシャツにキュロットスカートというのが女子の一般的なスタイルだった。上智は他大学より地味で、布地を買って来て各自でスカートをつくったりした。

7. ・1年生のときは、3年4年の先輩がとても美しく女らしく、大人に見えた。2年上のオトメさんとケイさんの漫才のようなやりとり。1年上のエコさんの肩凝り、ナカさんの美しさ、マヤさんのパワー。
・ゴルフ部のルノー・ベルレーと呼ばれていた佐々木先輩(48卒)、神秘的に見えたな!

9. マクレガー、ホンマ、ミズノ(蓋さんに気を使って)、リンクス。ボールはダンロップとプリチストーン、タイトリストが多かった。

- 10.河野高明、河野光隆、安田春雄、杉本英世、草壁政治、陳清波。

- 11.スカイラインのライトバン、三菱コルトギャラン。学生ゴルファーが事故を起こしてはいけないということで基本は電車だったと思う。

- 12.コンペは取手アジアや霞ヶ浦国際、取手国際など6号線沿いのゴルフ場や、浮間、大宮国際、利根川Pなどで。コンペではしんみちの「バックス」が二次会でよく使われ、変なおばちゃんが「アーラ〇〇さん」とか言っていました。ボトルがサントリーホワイトだったのが印象的。その他しんみちでは「蟻ん子」、「エリーゼ」、「パンピ」、「千成すし」、「鳥藤」など。

- 14.あれは4年生の中日杯の予選のことでした。4年間個人戦本戦に一度も駒を進めていない紀雄さんにとってそれは最後のチャンスでありました。場所は大宮国際(?), 当時160(2R)を切れば予選を通過することができました。1.5Rを終わって125ストローク。予選通過のためには最終ハーフで35が必要です。しかし、最終ハーフの出だしはダボ。オーマイゴッド! 予選通過は絶望的。しかし、ここから残り8Hで奇跡が起きました。その後2バーディをとりオープンパーで最終ホール(ロング)を迎えました。バーディを取ればきっちり35。セカンドショットを打ち終わり、残り約100ヤード。PWのショットはピンを目標にまっしぐら。バーディは行けるなと思ったその瞬間、グリーン周りから歓声が上がりました。入ってしまったのです。イーグルで34。トータル159で予選をビリで通過することができました。本戦は予選の結果通り初日ビリで、おしまいでした。(高橋)

1976 昭和51年

(一般)

- * ロッキード事件で田中角栄逮捕
- * ジャンボ宝くじ(1000万円)発売
- * 中国共産党毛沢東主席死亡
- * 植村直己北極圏単独走破
- * ソ連ミグ25、函館に強行着陸。日ソ緊張

(ゴルフ)

- JGAヤード表示廃止、メートル制に切替
- 練習場に人工芝初登場
- 樋口久子欧州女子オープン優勝



<男子>

池田岩夫(主将)・浅田将之(主務)・小倉幹雄(副将)・菅原康夫(会計)・高島勝広(OB係)・柳澤佳久(学連)・長南諭・江副利隆・築地宏典・松村洋一

<女子>

林裕美子(主将/ハヤ)・堀田順子(主務/ジュン/水谷)・西野雅久子(副将/クク)・井上玲子(会計/レコ/鈴木)・吉岡しげ子(OB係/コゲ/江副)・吉田悦子(学連/ヨッタ)・上山真知子(マッチ/寺川)・須藤朋子(モコ/柴田)

1976(昭和51)年卒

男 子

1. 3年春C-1位 秋B-4位、4年春B-5位 秋B-6位
東洋大学との入替戦で8対1で勝ってBブロックに昇格し、秋には岩手県の南部富士でマッチプレーができたことが最大の思い出。
2. 新人合宿はフレンドシップ、霞ヶ浦国際。その他、赤城国際、浜松国際、四日市、高萩、太平洋クラブ軽井沢コース、セントラル、熊谷などで合宿。
・先輩にピンを持ってこれといわれて、ずっと持っていたら口

ングパットが入ってしまった。もちろんピンに当たって。(高島)
・1週間の新人合宿で水しか飲めず、体重が15キロ減った。(浅田)

・昼食で先輩がおごってくれたアイスマイルクのダブルがおいしかった。あの味が忘れられない。(柳澤)

・2年の冬合宿をした高萩はコースが狭くOBゾーンが多いうえ、グリーンは凍てついてカチンカチンだったので、ほとんどの部員がハーフ50以上叩いていた。小倉君は涙を流しながらラウンドしていた。

・練習場の脇の合宿所でおこなうトレーニング合宿では毎晩のように暗闇の乱闘があり、浅田君は名誉の負傷をしてレギュラー入りをのがした。

3. 合同練習は週3回で、赤坂御所を走り、神宮外苑で筋トレ。朝練に来ないやつが必ず一人はいて、連帯責任の毎日。罰はグラウンドをウサギ跳びで1周。足腰が立たず、朝一の授業の英語と人間学の単位を落とす。(浅田)

4. キャディのバイト先は赤城国際、愛鷹600、太平洋クラブ軽井沢コース、セントラル。新橋の料亭の皿洗い。銀座三越で贈答品の包装、伝票整理、売り子など。相鉄ジョイナスのサラダシヨップでウエイター。プロトーナメントのキャディやギャラリーの整理。無名のプロでもものすごく飛ぶので驚いた。

5. 部室はグラウンドのクラブハウス。たまり場は学食の、カフェテリア(現購買部)に行く通路近くのテーブル。雀荘「四谷クラブ」、しんみちの「パンピ」「蟻ん子」。

6. マンシング。ポロシャツの衿は必ず立てるのが当時のファッションだった。
ユニフォームはブリジストンの白のシャツカラーで、袖にSOPHIA UNIV.GOLF TEAMの文字が入っていた(他の大学はGOLF CLUB だった)。

7. ・入部当時OBと間違えてしまった2年上の菅田先輩はトレーニング合宿で「おれの目を見る」と言って指導していたことがエピソードとして語られつづけている。
・神尾朗維(ロイ)さん(49年卒)にディスコに連れて行ってもらった。最初はドキドキしました。(柳澤)

8. 明治学院とフレンドリーマッチをしていた。
・2年から学連に出向していたので、他大学に知り合いが多か



新人合宿の帰り、駅ホームで

った。ゴルフは負けたけど、麻雀では負けなかった。(柳澤)

女 子

1. 3年春A-3位 秋A-4位、4年春A-3位 秋A-3位
当時Aブロックではいつも成城と聖心が首位争いをしていた。成城には2年上に学生ゴルフ界の女王と呼ばれた荒川万寿さんがいた。



月刊フェアウェイ1975年11月号 キャンパスゴルファー美女見参 第9回「上智大学女子ゴルフ部訪問」より

2. 新人合宿の水戸では疲れ過ぎてスイカばかり食べていた。ハヤは靴がこわれてつま先穴あき状態でラウンドを続けた。その後の合宿は熊谷、愛鷹600、新沼津、稲取、伊豆スカイライン、矢板など。同期のククのお父様が愛鷹600を経営されていたので随分利用させていただいた。愛鷹のインターバルには吊り橋があったが合宿中は吊り橋の上もキャディバッグをしょって走らなければならず、何十メートルも下の木々が見えるし、皆で走るので揺れて怖かった。1年下のバビがあわやクラブを吊り橋の端から落としそうになり生きた心地がしなかった。矢板はオープンしたてのコースだったが雪でラウンドができなくなって大喜び。稲取に合宿の交渉に行った時は大変寒く、支配人とラウンド中にみぞれが降りしきっていたが、支配人からあがりましようといわれるまでひたすら頑張った。

愛鷹はロッジ1泊夕食付1000円位、プレーフィーは3510円(510円は税金) 昼食別(ライスカレー350円)。熊谷にはいつも上野8番線5:53発/熊谷7:07着の普通電車に乗り7:20のクラブバスで行っていた。プレーフィー2000円(昼食別) 旅館は1泊2000円。32卒の吉田勉さんが熊谷のメンバーで良く面倒を見て下さった。冬には伊豆方面の稲取(プレー1日6000円・ロッジ2000円食事なし)や伊豆スカイライン(プレー1日4500円・1泊3食2500円)を選んだが寒かった。合宿の夜には目標スコアをオーバーした人は腹筋最高40回の罰。それも1日目にアンダーだった人は翌日の目標はもっと高くなる。1日目・2日目もアンダーだともっと厳しくなる。学内月例が毎月1回(取手アジア、東松山、錦ヶ原など)。学連月例はほとんど取手アジア。

3. 通常の練習方法①トレーニング週2回-月曜午後5時から土手をランニング。土曜の午後はランニング(赤坂御所1周)と腹

筋・馬跳び②早朝練習週1回－水曜8時から、主にアプローチの練習③義務練(週3回)④自主練。グラウンドに降りる階段でのウサギ跳びはきつかった。連帯責任は土手のランニング。ハヤの所属していた大根根に日曜日練習に行ったり、当時お茶の水にあった練習場のプロにみてもらったりした。

3年時幹部になりたての1週間の2次強化練習のメニュー・・・学校での練習と多摩川での練習が隔日。学校では7:30～9:30 打撃・9:40～10:20トレーニング(土手3周/柔軟/馬跳びは参加人数×3回/腹筋20回/素振り70回)・10:30～12:30打撃。多摩川では8:00～10:30で5箱(1箱何球いりだったか?)義務。

- 三越の銀座店で御中元御歳暮の時期に伝票整理(暇時には先輩と輪ゴムの飛ばしあいをした)。そのほか新橋ふぐ料理店で皿洗い、東神奈川のゴルフ練習場の手伝い。キャディバイトは赤城国際でやった人もいる。セントラル(同期のククのお父様経営)のオープンの日にキャディをやったのが唯一の経験の人もいる。プロのトーナメントでメーカー(スコアボードを掲げてプロについて歩く)をした時には、ヨッタがテレビにたくさん映った。
- 部室はSPS。たまり場は学食の奥隅。朝練のあとは裏門から近い新宿通りの「パパス」へ。しんみちの「蟻ん子」や「グリル・エコー」にも集っていた。
- マンシング、キャッシング、パーマー、ゴールデンベア、フクゾー(横浜元町)。女子のユニフォームは白のポロシャツと紺の巻きスカートで、かなり地味だった。
- ・2年上の箱崎先輩のダンス付き「♪は～るばるきたぜ は～こだ～て～♪」。
・入部直後に男子リーグ戦の応援に行くことになった。先輩が打ったら必ず「ナイスショット」か「ドンマイ」を言うこと、とだけ教えられていたため、ティーショットの球の行方は速くても何も見えなかったが、コゲが大声で「ナイスショット～」と言ったらシーンと静まり返ってしまった(OBだったらいい)。
- 成城大学とアジア下館でフレンドリーマッチをした。
- パワービルト、ホンマ、ベンホーガン、ミズノ、スポルディング。現在はシャフトの長さ47インチも珍しくないが、新しく出た44インチが長く感じられた。ボールはダンロップ65。スモールからラージ、糸巻きから2ピースボールへの変換期だった。
- 青木功、尾崎将司、トム・ワトソン、ジョニー・ミラー。樋口久子。ローラ・ポー。
- 合宿はいつも電車。ギャランGTO、カーリーナ、セリカ、コロナハードトップ、シルバーのフェアレディーZ。東松山まで開通したばかりの開越自動車道でハヤ運転のフェアレディーが男子の車とサーキットをしていた。
- コンペは東松山やセントラル。コンペはしんみちの「バックス」、六本木「比呂」など。1年上の追い出しコンペは東松山。コンペは京王プラザ4階「宴」。追い出しコンペは夜明けまで。
- ・国際部にアグネス・チャンがいて、いっしょに数学の授業を

受けたので、白い下敷きに何枚もサインをしてもらい、一枚50円の下敷きを500円で高校生に売り捌いた。(浅田)
・2年上の箱崎・上山両先輩がゴルフクラブを持って学生運動の闘士に殴り掛かっている写真をみたことがあり、右翼は怖いと思った。

- 14.女子の同期の6人(8人中2人は途中退部)は個性が強く先輩泣かせだったかも。
レコとジュンはゴルフに行く前日はしょっちゅうハヤの家に泊まり、寝る前に3人で翌日のお弁当(おにぎりやサンドイッチ・男子の分も)を作った。

1977 昭和52年

(一般)

- * **王選手、ホームラン世界新756号**
- * **有珠山爆発**
- * **青酸コーラ殺人事件**
- * **アニメ映画「宇宙戦艦ヤマト」公開**

(ゴルフ)

- **ゴルフ場数1,322コース、人口650万**
- **ゴルフ税定額1人1日1,000円**
- **樋口久子全米女子プロ日本人初優勝**



<男子>

中戸川洋(主将)・都築義男(主務)・杉山昌孝(副将・会計)・諫本憲司(副将・学連)・梅田温(OB係)・山田安廣(体育会)

<女子>

福島雅子(主将/フック/深澤)・若色一美(主務/ワッカ/勝俣)・望月明美(副将/モッチ)・野津富美子(副務/パビ/大谷)・国峰園子(会計/クニ/下田)

1977(昭和52)年卒

男子

- 3年春B-5位 秋B-6位、4年春C-2位 秋C-2位
4年のリーグ戦ではBブロック復帰を悲願に部員が一丸となって臨んだが、春季は学連加盟以来、シーズンごとに優勝して一気にAブロックに上り詰めた日体大に圧倒され、無念の2位も諦め半分。秋季は初日首位駒沢に射程内の2位、2日目ハーフ終了時点で首位に立つも、Bから降格した独協の笠原選手の好スコアに僅差でかわされ惜敗、残念無念であった。
- 新人合宿は石打後楽園と四日市の名四(南山大学の紹介)。冬にはスキー場になる石打後楽園のダウンヒルコースの打ち下ろしでボールをいくつかなくしたとか。あのアップダウンを2.5ラウンドできたのはやはり若さかとしみじみ思う。名四では大学からゴルフを始めた梅田君が右側オールアンダーリベアの恩恵で70代という快挙をなしとげた。その他、大根根チサン、高萩、高崎サンコー、熊谷、赤城国際、セントラル、太平洋クラブ軽井沢コース・高崎コースで合宿した。
- 合同練習は火・木曜の午後5時から、土曜は午後1時半からで、赤坂御所のランニングと神宮外苑での腹筋・背筋・腕立て伏せ・肩車などのトレーニング、土曜は皇居も走った。義務練習は週3回以上、スケジュール表に予定を書き込み、打撃練習をした。朝練は学期始めやテスト後の年4～5回、1週間毎日午前7時半から9時まで。無断欠席・遅刻などに対する連帯責任はウサギ跳び・発声練習・腕立て伏せ・坊主刈りなど。
- キャディのバイトは太平洋クラブ軽井沢コース、セントラル、赤城国際などで。プロのトーナメントでキャディやギャラリーの整理。日産のパーツセンター(48卒板倉先輩紹介)、新幹線のエアフィルター掃除(50卒高橋先輩紹介)、東神奈川のゴルフ練習場・横浜ジョイナスのサラダショップ(36卒坂口先輩紹介)、三越本店で御中元のバイト、入学試験の試験官。
- 部室は練習場のハウス。たまり場は学食のカフェテリア(現購買部)への通路手前。1～2年の時は、パチンコ「コメット」の上の「マーフィー」で練習に疲れ先輩の不満を言い合っていた。3～4年になるとしんみちのバー「バックス」や新宿・代々木八幡の飲み屋にたまっていた。
- ウエアは、マンシング、ラコステ、プリチストンのバーゲンで買ったケバケバウエア。これは当時スポーツ刈りだった青木功や尾崎将司らが着ているはやっていたのだが、今思うとゾーッとす。
- 3年先輩のみなさん、きついトレーニングで鍛えていただきありがとうございました。昼は恐ろしくて口もききませんでした。夜は面倒をみてもらいました。
2年先輩のみなさんはゴルフも上手で憧れの存在でした。先輩達のお陰でBブロックでプレーできたことに感謝。
1年先輩のみなさんは人数も多めで頼り甲斐のある兄貴分。Bブロックでダブルスを組んだり、キャディをして頂いたこともあり。1年後輩でありながら常にライバルだった勝俣、福田、河村、

ありがとう。

2年後輩は男女とも人数が少なく大変だったと思う。そのため精一杯勧誘して入部してくれた大勢の後輩たちは可愛い新入生でした。(中戸川)

8. 明治学院(取手国際)や法政(栗橋国際)、立教(太平洋クラブ軽井沢)とフレンドリーマッチをした。

女子

- 3年春A-3位 秋A-3位、4年春A-4位 秋A-3位。
1年生の春に先輩のご活躍によりAブロック昇格以来、在学中ずっとAブロックでプレーするという幸運に恵まれた。4年秋にはモッチがAブロックのメダリストに。
- 新人合宿はファーイースト。春夏の合宿は熊谷、愛鷹600、矢板、沼津、藤枝、秩父など。熊谷での春合宿は打っても打っても前へ進まないアゲインストの強風に泣かされた。
- 朝練は週に1～2回。義務練は週3回。ランニングは赤坂御所1周や土手の往復。
- 三越で伝票整理や販売員。太平洋クラブ軽井沢コース・赤城国際でキャディ。市ヶ谷のタイハイゴルフ練習場で受付。トーナメントのバイトで青木功を見てなんだか田舎のおじさんみたいと思った。
- 部室はSPSの2階。たまり場は学食のカフェテリアへの通路手前。
- ウエアはラコステ、マンシング、パリス、キャッシング。
- 吉田大先輩(32卒)にはとてもお世話になりました。
- ウッドはホンマ、パワービルト、アイアンはベンホーガン、コンフィデンス、リンクス、ウィルソン、スポルディング。ボールは、普段はパチンコの景品のダンロップ65、試合の時は部費の補助でマックスフライやレクスターを使った。
- 青木功、尾崎将司、村上隆、中島常幸、杉原輝雄、島田幸作、山本善隆、中村通。ジャック・ニクラウス、トム・ワトソン、ジョニー・ミラー、トム・ワイスコフ。樋口久子、清元澄子。ローラ・ポー。
- ブルーバード、スカイラインGT、ジェミニ、セドリック。
- 新入生歓迎コンパは一次会は上智会館、二次会はしんみち通りの飲み屋、三次会は六本木の「比呂」へ。追い出しコンペは東松山やセントラルで定休日にお弁当持参で開催。追い出しコンペは数年間続いていたホテルでの開催は負担が大きいため都市センターホールなど公共施設でおこなった。
- 入学時には学生運動の名残りのような人たちがいたが、ノンポリで平和な4年間をゴルフ部で謳歌することができた。同級生にアグネスチャンや三雲孝江アナがいて、上智の女子学生のイメージが大いに上がった時期だった。

1978 昭和53年

(一般)

- * 成田空港開港
- * 日中平和友好条約調印
- * キャンドーズ解散 (ラン・スー・ミキ)
- * (英)世界初試験管ベビー誕生

(ゴルフ)

- 青木功世界マッチプレー選手権優勝



<男子>

勝俣正志 (主将)・森康二 (主務)・福田愛二郎 (副将)・野崎壽久 (学連)・海上昌二 (OB係)・菊池完之 (体育会)・河村徹・杉原伸夫

<女子>

野呂久美子 (主将/ミク/赤穂)・塚越雅子 (副将/ツーコ/福田)・樋口正子 (主務・会計/チャコ/勝俣)

1978 (昭和53) 年卒

男子

- 3年春C-2位 秋C-2位、4年春C-5位 秋C-5位
- 新人合宿は高崎サンコー。春夏の合宿は、セントラル、太平洋クラブ軽井沢コース、熊谷、甘楽。
 - ・セントラルに合宿した時、前のホールに落雷して腰を抜かした。(杉原)
 - ・杉山先輩 (52卒) と旅館の門限をやぶって夜の遊びをして、兄弟に間違われたこともあった。(福田)

- 合同練習は週3回 (火・木・土)、練習内容は ①準備体操 ②走りこみ (赤坂御所または皇居の周回道路) ③筋力トレーニング ④発声練習 (土手の上から大声で挨拶の練習/時々) ⑤素振り100回 ⑥打撃練習 (約1時間) ⑦整理体操
 - ・いまにして思えば非科学的なスポ根なみの練習で、あれではうまくも強くもなれなかったろうが、よくがんばったと思う。(福田)
- 太平洋クラブ軽井沢コース・御殿場コース、セントラル、高崎サンコー、新千葉でキャディのバイト。軽井沢コースには中曽根元首相や、扇千景大臣も来場したが、華やかさのかげでバイト宿舎はひどいものだった。プリチストーンオープンなどトーナメントのバイト。鈴廣のかまぼこの販売。日産の自動車部品倉庫で物運び。新幹線の掃除。
- 部室は鳥かご練習場の横。たまり場は学食のカフェテリア (現購買部) への通路横。そこでいつも玉子入り肉うどんを食べていた。(勝俣) 喫茶店でチョコレートパフェを食べながら先輩の悪口を言っていた。(福田)
- ウェアはA・パーマー、ゴールデンベア、ラコステ、マンシング、トロイプロス。
- ・高島先輩 (51卒) は、1年生で出場した秋のBブロックリーグ戦でキャディをしてくださった。やさしい励ましのおかげでシングルスで勝ってしまった。(勝俣)
 - ・高島さんは漫才師のごとき笑いの宝庫でした。(杉原)
 - ・都筑先輩と梅田先輩 (52卒) が当時大流行のピンクレディーのものまねをされていた姿が今でも目に焼き付いている。(海上)
 - ・東京五輪音頭の都筑さん (52卒)。
 - ・ここぞの気合いショットの池田先輩 (51卒)。
 - ・2年の時同期の河村と何かの試合の予選に遅刻して池田主将に罰として「坊主にしろ!」といわれたのは死ぬまで忘れられない。(福田)
 - ・日傘をさしてプレーしていたレコ先輩 (51卒)。
 - ・網タイツのクク先輩 (51卒)。
 - ・1年下の知人ぞ知る前川君。

女子

- 3年春A-4位 秋A-3位、4年A-5位 秋A-6位でBに降格。
- 新人合宿は福島県のゴルフ場。春夏の合宿は熊谷、セントラル、愛鷹600、甘楽、伊豆スカイライン。合宿の時、先輩の紅茶に入れるお砂糖の数などを覚えなければならず大変だった。長野のゴルフ場で紹介者吉田勉さん (32卒) の知り合いの方にバーに連れて行ってもらった。
- 合同練習は週3回で、赤坂御所の周囲をランニングして途中、腹筋・背筋・腕立て伏せなどの筋トレをしていた。時折、強化練習もあった。連帯責任の罰は土手5周。同年代の憧れの男子「あいちゃん」をかけ声にして走った。
- 大阪へボールを販売しに行った。太平洋クラブ軽井沢コースでキャディ。いろいろなトーナメントのバイト。市ヶ谷のタイハイゴルフ練習場で受付。

- 部室はSPS、たまり場は学食の購買部との出入り口付近。しんみちのバー「バックス」。
- マンシング。
- ・「あなたたちの代はコンバばかりして、ちょっとは練習しなさい」と言われた2年上のハヤさん、お手製オムレツがおいしかった。
 - ・ジーンズをはいてきたら「あら、それで電車乗ってきたの?」とのたまった2年上のレコさん。
 - ・軽井沢で車が脱輪して帰りが遅くなってしまった時、理由も聞かずに「あなたたち座りなさい。・・・」と、こんこんとお説教された1年上の先輩たち。
- 東大医学部の学生とラウンドした。
- パワービルト、ウィルソン、ベンホーガンのアイアン「エイベックス」、ミズノのウッド「グランドモナーク」、ホンマのウッド「エキストラ90」が台頭してきた。ウッドはパーシモンのヘッドに軽量のブラックシャフトが流行の先端だった。ボールはダンロップ65、ジャンボ。
- 村上隆、尾崎将司、杉原輝雄、中島常幸、樋口久子、吉川なよ子、涂阿玉、ローラ・ポー。
- スカイライン2000GT、スプリンター、ブルーバード、シビック。
- コンバはしんみちの奥のほうの店で、二次会は「バックス」。追い出しコンペはセントラル。
- 平穏安泰の時期、アグネス・チャンや、栗田ヒロミが在学していた。

1979 昭和54年

(一般)

- * イラン革命 (ホメイニ師)
- * 英国サッカー女性首相誕生
- * 韓国朴正熙大統領射殺される
- * NECPC8001でパソコンブームの口火
- * インベーダーゲーム流行
- * ドラえもん人気沸騰

(ゴルフ)

- PGA年間57試合・賞金総額11億・会員1,253名
- LPGA年間27試合・賞金総額2億7200万・会員155名
- セベ・バレステロス22歳最年少記録で全英オープンに優勝
- テーラーメイドメタルウッド製造発売

1979 (昭和54年) 卒

男子

- 3年春C-5位 秋C-5位、4年春C-3位 秋C-3位



<男子>

鈴木梯介 (主将)・前川満彦 (副将)・土橋正二 (会計)・望月正彦

<女子>

高松是子 (主将/ココ/高松)

女子

- 3年春A-5位 秋A-6位でBに降格、4年春B 秋B-5位
- 春夏の合宿先は藤枝、ファイブハンドレッド、甘楽など。
- 朝練は朝起きるのが大変で、よく遅刻したり休んだりした。合同練習のランニングは土手から始まりニューオータニの周辺や赤坂御所の周り。義務練は週2~3回程度で授業の合間におこなっていた。
- 市ヶ谷の栗原プロの弟さん(?) 経営の練習場「タイハイゴルフ」の受付。トーナメントのお手伝いでオーストラリアのグラハム・マーシュの組についた。
- 部室はSPS、たまり場は学食。
- マンシング、マクレガー。ミナミスポーツ、渋谷西武、三越エレガンス等で買ったものやハワイやアメリカからの色の派手なお土産。

7. とにかく一人だったので先輩にも後輩にも迷惑をかけたと思いますが、多くの方たちに出会い、また若い時にスポーツとしてゴルフを始められたことはよかったと思います。
9. ウッドはパーシモンが主流で、ブラックシャフトが出始めた頃で、ホンマが人気だったが、マクレガーあたりが学生にとっては垂涎か。アイアンは、パワービルト、スポルディング、ベンホーガン、ウィルソン、リンクス。ロストワックスではピンが出始め。
10. 外国人では、ジョニー・ミラーが一世を風靡。ニクラウス、ワトソン、ワイスコフ、カイト、ペイト、依然としてパーマー、プレーヤーは人気。
日本人では、ジャンボ尾崎が売り出し期から最初の全盛期。山本善隆、中村通、安田春雄、青木功、中島常幸、杉本輝雄、倉本昌弘、湯原信光。樋口久子、清元澄子。ローラ・ポー。
11. セリカ、ブルーバード、マークII
12. 一次会は上智会館、二次会は四谷界限。



<男子>

蔵原弘幸(主将)・中嶋秀一(主務)・上中淳行(副将)・森川雅弘(副将)・木林一隆(会計)・浜口達雄(学連)・平井正彦(渉外)・重永昌三(OB係)

<女子>

菅野和恵(主将/スー/福田)・橋本暁子(主務/アコ)・明田宏子(副将/ヒロ/津崎)・藤原歩有(会計/フーコ/佐々木)・河合響子(OB係/キーコ/仙石)・井田昌伊(マス/安部)・小西布佐子(ジョー/井口)・井笹久美(サミー/斉藤)・川島美奈子(ドン/米田)

臭いにも特徴があった。とくに「白いトレパン」は同期の間で伝説となって語り継がれている。

4. 太平洋クラブで夏休みに、なんでもありのバイトをした(例: ホテルの営繕、芝生運び、会長の子供の花火係)。ハンサムな学生はウエイターができたのだが、駐車場係に配属されて怒っていた先輩もいた。業務命令で床屋に行かされ髪を七三分けにした思い出がある。
5. 部室は練習場の鶏小屋のようなクラブハウス。ここの管理人夫妻はなぞに包まれていた。たまり場は学食と購買部のつなぎめ。しんみちの喫茶店「シャンゼ」、中戸川先輩に連れられたパー「バッカス」。
6. ウエアはマスターズブランド。特にパンツはステッチが2本入っているなど、見えない所に手をかけていて、ちょっと高かったのが、おしゃれを自認する人の心をくすぐっていた。ほかにマンシング、ラコステ。色は一時、黒がはやった。
7. 東映の映画に出て来そうな3年上の中戸川先輩。トレーニングのランニング中、途切れることなく声を出していた1年上の前川先輩。後輩では、「ど根性」の中山君、「ラージ」なる言葉をはやらせた正木君、佐渡君はいろんな面でインパクトがあった。
8. 立教の学生とバイトで一緒になった時、宿舎で下級生に「キンチョールと勝負」させていた(要するにキンチョールを顔に吹き掛ける)光景は衝撃的、というより今思い出しても笑える。立教の同期生とは今も連絡をとりあっている。

女子

1. 3年春B 秋B-5位、4年春B-2位 秋B-1位、B残留。
1年の時に体験したAブロックは、その時の4年生の先輩たちのかっこよさもあって、私達の最大の目標となっていた。レギュラーを選出するのがむずかしいほど全員成長し(アコは学連月例杯で優勝)、最後のリーグ戦でBブロック優勝を勝ち取った時の喜び、そして入替戦でその目的を果たせなかった無念さは、一人一人の悔しい思い出となり、まさに輝いていた青春がそこにあった。
2. 新人合宿は秩父。山あり谷ありのコースでクソ暑く日射病者続出、何がなんだかわからず辛かった。春夏の合宿は甘楽、熊谷、一の宮、新千葉、霞台、太平洋クラブ軽井沢コースなど。熊谷は「暑さ」「寒さ」「暴風」の三拍子そろいで、それぞれを体感した。高校生の生駒佳代子ちゃん(当時熊谷で良くプレーしていた。後にプロ)とまわった。甘楽のオムレツはすごくおいしくて、朝のハーフを上げてオムレツをオーダーしてもう終わっていたときはショックだった。
3. 朝練は週2~3回で、グラウンドを使ってアプローチの練習。合同練習は平日1回と土曜で、平日は土手の上のランニング、階段往復、ウサギ跳び、馬跳び。土曜は迎賓館から絵画館へ走って筋トレをしてから戻り、打撃練習。ココさんの「ソフィアファイト! オーファイト! オー」のかけ声で走った。ココさんが主将の時の「ブリッジ」はついにできなかった。大遅刻者の出た学年は全員で土手を走らされた。
4. 市ヶ谷のタイヘイゴルフ練習場で受付と雑用。太平洋クラブ軽井沢コースでキャディ・レストランの皿洗い・ウエイトレス(制服着用)。錦ヶ原と御殿場コースでキャディ。日本橋高島屋や三越で年末に鈴廣の販売員。朝日新聞で選挙の集計。
5. 部室はSPS。たまり場は学食の裏の入口はいつでもすぐのテーブル、卒業したはずの男子の先輩もおられた。「ババス」。ニューオータニの「トムキャット」、ジャージ姿のまま行けたのは若かったから? 店の前のトイレはゴルフ部専用だと思っていた。
6. マンシングが多かった。私達の学年は地味で、ウェアでおしゃれをしたということはなかった。
7. ・1年生の時の4年の先輩達はとても華やかで超大人で、ゴルフもお上手で憧れだった。
・築地さん(51卒)がずっと指導してくださった。(いつ卒業されたのかな?)
・OLだったハヤさん(51卒)が朝練につきあって指導してくださった。
・1年上のココさんはたった一人でがんばっておられた。
・2年下のシゲが彗星のごとく現れ、すごかった。彼女のド根性はすばらしい。
8. 日本女子大、青学、慶応。慶応には藤田元巨人軍監督の娘さんがいた。上南戦はカルチャーショックもあり面白かった。
9. ベンホーガン「アベックス」、パワービルト「スーパーサイテーション」、リンクス「マスターズモデル」、ウィルソン「スタッフ」、マク

レガー「ターニー」、ホンマ「エクストラコレクト」、ミズノ「スタッフ」「グランドモナーク」。3年生の頃からブラックシャフトが出た。

10. 青木功がイメージチェンジをして強くなりだした。中島常幸が逆C打法で売り出してきた。トム・ワトソン、リー・トレビノ、ジェリー・ペイト、ジョニー・ミラー。岡本綾子、樋口久子。ナンシー・ロベス。
11. いすず117クーペ、コロナ、ジェミニ、セリカリフトバック。
12. コンベは東松山、セントラル。コンバは「ファースト」ほか。
1年の時、4年の男子先輩が服を着たままブルに飛び込んだのを見て、18歳のうら若き女たちはもうびっくりでした。
13. 入試は共通一次試験導入の前で、マークセンス方式が採用された。
・成田空港闘争で逮捕された友人がいた。
・女子学生のファッションはニュートラ全盛期で、アイシャドウはブルーがおきまりだった。

1981 昭和56年

(一般)

- * ポーランド戒厳令、連帯で民主化
- * 榎本三恵子「ハチの一刺し」証言
- * 中国残留日本孤児初来日

(ゴルフ)

- JGA HDCP方式全国的に実施
- K・ウィットワースLPGA82勝で女子プロ初100万ドル獲得



<男子>

中山淳一(主将)・池田浩(主務)・正木一男(副将/永井)・井上清司・数長一規・原田直典・吉賀博

1980 昭和55年

(一般)

- * イランイラク戦争
- * 日本車生産世界一1,104万台
- * 山口百恵サヨナラコンサート
- * モスクワオリンピック日本不参加

(ゴルフ)

- 青木功全米オープンでニクラスと4日間死闘の末、2位

1980 (昭和55) 年卒

男子

1. 3年春C-3位 秋C-3位、4年春C-6位 秋C-4位
Cブロック以下は2日間4ラウンドで、5人プレーのベスト4のグロス合計で競い、最下位が入替戦になった。
2. 熊谷、甘楽、矢板など。新人合宿は太平洋クラブ軽井沢コース。新人合宿は雨ばかり、寒さと疲労で膝を痛めてしまい大変だった。熊谷は逆に暑すぎて、鼻血を出す者が続出した。冬の合宿の早朝のスタートは、ティーグラウンドやフェアウェイがコンクリート状態で右往左往した。
3. 平日2回の合同練習は迎賓館と絵画館のコースを走り、土曜日は皇居を1周した。たまに迎賓館と皇居の「8の字コース」があった。グラウンドがあいている時はテニスコートに向かってドライバーを打つことができた。トレパンに個性があふれていた。



<女子>

堀田朋子（主将／トモ／中島）・野玉真智子（主務／マッチ／滝井）・大塚理津子（副将／リッツ／渡辺）・小林優美（トレーナー／コバ／藤岡）・松村喜美子（会計／ミキ／秋本）・岩橋まゆみ（学連／シマ／岩橋）

1981（昭和56年）卒

男子

- 3年春C-6位 秋C-4位、4年春C-5位 秋C-7位
- 新人合宿は熊谷か太平洋クラブ軽井沢コース。春夏の合宿は太平洋クラブ軽井沢コース、熊谷、ユーアイ、甘楽、新千葉。
- 合同練習は週3回。
 - ・赤坂御所の周りはよく瀬古選手が走っていた。
 - ・絵画館前では小林幸子が撮影していた（彼女は25年前も今もあまり変わっていない）。
- オープンしたての太平洋クラブ御殿場コースが入学後最初のGW時のバイト先だったが、忘れもしないのは宿舍のタク部屋。ウェ이터やらベッドメイキングやら、どこがゴルフと関係あるんじやい！
- 部室は練習場の鶏小屋。たまり場は学食の購買部につながる通路に一番近いテーブル。場所取りは下級生の義務だった。
- 入部した時のウエアはミズノの白一色。4年になった時、キャプテン中山君の実家がスポーツ店をはじめたので、だれも望まないのにいつのまにかSOPHIA GOLFと刺繍されたセンスのないポロシャツを皆がおしつけられ、それがユニフォームということになった。しかしながら、試合で着たのは本人だけで、あとは臭い、襟の裏が黒光りする練習着に。
- ・今では小学生でもはかない白いトレパンで練習していた1年上の浜口先輩。
 - ・普段着のスラックスでランニングをしていた2年上の前川先輩。

女子

- 3年春B-2位 秋B-1位 入替戦5ストローク差でB残留、4年春B-2位 秋B-1位 入替戦3ストローク差で白百合に勝ってA

昇格。(A-青学、成城、慶応、白百合、日体大、日本女子大)(B-上智、聖心、跡見、成蹊、共立、大妻)

- 新人合宿は熊谷、40℃近くある芝のうえをキャディバッグを抱えて走りまわるので、全員、退部しようと思った。春夏の合宿は甘楽、熊谷、一の宮、霞台(後の二つはリーグ戦使用のコース)。甘楽で早朝のハーフの後で食べた朝食のオムレツが、とてもおいしかった。熊谷で合宿中、大型台風が来て(列車が脱線したという記憶も)グリーン上でバターを構えていたマッチが風にあおられ尻餅をついたので、ラウンドを中止することになり、引き上げたらゴルフ場の木が根こそぎ倒れていた。
- 朝練は2ヶ月に1度くらい(?)1週間連続で。グラウンドに缶を置いてアプローチの練習。義務練は週3コマ。合同練習は、赤坂御所1周のランニング、途中の神宮外苑でトレーニング(柔軟体操、腹筋背筋、三段ジャンプ、馬跳び他)。ランニングからもどってクラブをもってグリッパ強化練習と素振り・打撃練習。連帯責任は、遅刻すると全員で土手を2周走ること。時々、芝ゴルフ場や後楽園に打ち放し練習に行き、プロやOGのレッスンを受けた。
- 平素は、市ヶ谷の「タイハイゴルフ練習場」で球拾いや受付のバイト、時給350円。のち清瀬に移ったのでそちらにも行った。太平洋クラブ軽井沢コースで、レストランのウエイテスや売店の売り子。太平洋マスターズで記者会見場へ選手を案内する係。キャディのバイト先は、錦ヶ原、泉、勝田台。
- 部室は図書館建設で取り壊された旧SPS。たまり場は、学食の購買部への入り口付近。
- ウエアはマンシング、パリスなど。3年の時にスタジャンをつくった。ハマトラが流行していたが、上智のゴルフ部は、慶応、成城、青学、学習院など付属高校のある大学にくらべると地味だった。
- ・合宿によく来て下さった村田・吉田両先輩と、52卒のフックさん、モッチさん。
 - ・たった一人でやっておられた2年上のココさんの大きな眼。ギョロっと見られると、すくみました。
 - ・宴会でとびだす、蔵原さん(55卒)の五輪音頭と踊り。
- リンクス、パワービルトが主流で、ホンマのブラックシャフトにあこがれていた。
- 中島常幸、青木功(1年上の上中先輩がキャディをした)。トム・ワトソン(1年下の佐渡君がキャディをした)、リー・トレビノ(中山がキャディをした)、ロン・ヒンクル(正木がキャディをした)。女子プロは樋口久子。ローラ・ポーが来日したとき2年下の安達君がキャディをしたが、成績は悪かった。
- メルセデスでもBMWでもないドイツ車、クラウンローヤルサルーン、スカイラインGT、バイオレット、シマの真っ赤なポルシェ。
- 追い出しコンペは新千葉・麻生など。新歓コンペは忘れもしないしんみちの「ファースト」(今はない)、ゲロマグロの賭殺場、ドアを破壊し、床は、、、の海、よく貸してくれたものだと思う。ほか「バックス」「キーハンター」など。赤坂のサントリ

ーバブで2階のバルコニーから飛び降りて足を骨折したのはたしか2年下の松村君だった。OG会は「グリル・エコー」。女子のAブロック昇格祝勝会は「ババス」で。

- 上智の学食、カフェはビールが安く飲めた。なにしろディスコ(クラブではない)全盛期で、よく六本木や新宿のディスコにくりだして踊って(男子はナンパ?して)いた。

1982 昭和57年

(一般)

- * ホテルニュージャパン火災33人死亡
- * ホンダ米国で日本車製造開始
- * 東北新幹線上野ー盛岡開通、4時間
- * フォークランド紛争(イギリス、アルゼンチン)

(ゴルフ)

- 全英オープン賞金総額250,000ポンド、優勝32,000ポンド、ギャラリー133,299人



<男子>

佐渡充高(主将)・矢島聖一(主務)・三島義之(副将)・麻生信孝(会計)・河本高志(学連)・佐藤洋(体育会)・目時利一郎

<女子>

山本重美(主将/シゲ/鈴木)・柳沢佳子(主務/ナギ/武越)・大水偉差子(副将/ミオ/高田)・高田真理(タカ/高田)

1982（昭和57）年卒

男子

- 3年春C-5位 秋C-7位、4年C-5位 秋C-5位
- 新人合宿は熊谷、7月の酷暑で鼻血を出すものが続出した。春夏の合宿は太平洋クラブ軽井沢コース(食事がひどい)、新千

葉(食事が良い)、甘楽(3番ホールOB止まらない)、ユーアイ(1日2.5ラウンド実施、長い)。

- 合同練習は火・木・土曜の授業後、主として神宮から赤坂御所をランニング、マラソン大会が近づくとう皇居まで行くこともあった。朝練は夏休み中に2週間程度、通常のトレーニング。最初のトレーニングで「タク踊り」という名称に驚いた。(佐渡)土手をはさんでの発声練習では、声を通ると先輩に腕マルをもらえた。連帯責任は、遅刻に対して学年全員で練習場前の坂ダッシュ10~20本。練習場のネットが古く、ボールが飛び出すのでいつもヒヤヒヤしていた。4年の時に打席が人工芝に変えられ残念だった。
- キャディのバイトは太平洋クラブ、新千葉、赤城で。大沢商会主催のゴルフ用品販売会。太平洋クラブマスターズのキャディ。学連がらみのトーナメント運営。
- 部室は練習場のハウス。たまり場は学食の一番購買部よりのテーブル。しんみちの喫茶店「シャンゼ」。
- ウエアはA・パーマー、ゴールデンベア、マンシングなど。基本的には固いエリのタイプ、しだいにテニスウェアタイプのポロシャツも着るようになった。大沢商会の影響でライル&スコットのセーターがはやった。学連からの指示でリーグ戦などの試合では上は白で、下は黒か紺だったような気がする
- 1年下の大狭君、2年下の林君とはゴルフも酒も心から楽しんだことを思い出す。(佐渡)
- 学習院大とのフレンドリーマッチをよくおこなった。

女子

- 3年春B-2位 秋B-1位でAに昇格。4年春A-5位(シゲ、241ストロークでメダリスト) 秋A-5位
- ゴルフクラブはベンホーガン(難易度が高いクラブにあこがれて)、ホンマ(工場に行くと学生は50%引き)。ミズノのウッドはオーダーメイドが可能だった(当時は当然パーシモン)。
- 尾崎将司、青木功、中島常幸、安田春雄、村上隆。外国勢はJ・ニクラウス、G・プレーヤー、L・トレビノ、T・ワイスコフらに対し、ヤングライオンズということでトム・ワトソン、ジョニー・ミラー、ギル・モーガン、ジャック・レナー、クレイグ・スタドラー、ブルース・リツキーらが台頭、他にセベ・バステロスや新人として登場したボビー・クランベット。女子は強くなかったがローラ・ポー、ジャン・スチーブンセン。
- ミラージュ、カローラ、セリカ、ムスタング。
- 新歓コンペはしんみちの居酒屋「村さ来」。追い出しコンペは山王飯店、ニューオータニ、赤坂ロイヤルほか。二次会は六本木。
- ・当時は麻雀が全盛期で、男は集まれば麻雀(自動卓でない時代)、メンバーが足りなければパチンコ屋「コメット」に捜しに行った。またインベーダーゲームが出始めたところで、ゲーム機の置いてある喫茶店を求めてあちこちさまよい、そこで先輩に何

度も出くわしたが、皆もくもくとやっていた。

・ソフィア祭で焼き鳥の模擬店を出店、当時河本君がバイトしていた居酒屋「ニュー浅草」から焼き鳥を仕入れ10万円以上の収益をあげた。

1983 昭和58年

(一般)

＊ 大韓航空機ノ連領空侵犯で撃墜

＊ NHK朝の連続ドラマ「おしん」

(ゴルフ)

● 青木功ハワイアンオープン優勝。128Yイーグル

● ゴルフ税定額1人1日1100円



<男子>

古橋正好(主将)・加藤友規(副将)・石井真人(副将)・安達正・稲垣善雄・大峽弘久・上村晴人・玉置一郎・長谷川哲夫・村松裕介・渡辺孝

<女子>

松山京里(主将/キョン/藤川)・中西えり子(副将/ベベ)・根来美紀(主務/ネコ/名和)・矢野さよ子(学連・OG係・バイト/ヨッコ/高谷)

1983(昭和58年)卒

男子

1. 3年C-5位 秋C-5位、4年春C-4位
2. 新人合宿は太平洋クラブ軽井沢コース。その他、新千葉、矢板、東の宮で合宿。
3. 合同練習は週4日。絵画館往復または皇居1周のランニングと

筋トレ他。朝練は試合前にあり。同期が練習に遅刻した際、坂道ダッシュ等の罰則あり。

4. 新千葉、太平洋クラブ軽井沢コースでキャディ。学連のトーナメント関係のバイト(太平洋マスターズ、サントリーオープン等)。加藤君が太平洋マスターズでダニー・エドワーズのキャディをして優勝。今でもマスターズの番組ではとりあげられ、あのシーンが放送される。加藤君が抱きつくシーンである。(上智大学の先輩である解説者の岩田さんのコメントも非常に印象的。)安達君がジュノン女子オープンで当時一世を風靡していたローラ・ポーのキャディを勤め、ミニスカート、ホットパンツ姿に悩殺される。
5. 部室は練習場の小屋。たまり場はニューオータニ内「トムキャット」、学食の隅(かわいい女の子が多い事で有名なSLTAテニスクラブの隣)。
6. ミズノ、ダンロップ、ベンホーガン、ブラック&ホワイト、ラコステ。
7. 正木先輩(56卒)と玉置君のお茶目な会話、三島先輩(57卒)との飲み比べ。矢島先輩(57卒)の長谷川君との師弟関係や、ドックショット、新千葉つくも12番ショートホールでドダブリして手前の谷底にボールが落ちたこと。井上先輩(56卒)の練習場でのリフティング。佐渡先輩(57卒)の完璧ショット(但し、ショットに比べてバターがなかなか入らない???)。
8. 特に聖心女子大学ゴルフ部と仲が良く、新千葉と一緒にバイト(キャディ)をしていた。学習院との対抗戦等。

女子

1. 3年春A-5位 秋A-5位、4年春A-5位 秋A-6位でBに降格。56~57卒の先輩がせっかくAブロックに昇格させてくださったのに、私達の4年で降格になったのはとても残念で申し訳ないと思っている。あの頃、同年代だった中野晶プロ(学習院ゴルフ部出身)ががんばっているのを見ると励みになります。(キョン)
2. 新人合宿は霞台。春夏の合宿は甘楽、一の宮、千成、新千葉、矢板。霞台の新人合宿では昼御飯を早く食べないと叱られた。毎晩の正座の反省会は苦手だったが、いまは良い思い出。合宿の帰りに寄って長い間おしゃべりしたロイヤルホストやデニーズも懐かしい。新千葉にはとくにいろいろとお世話になった。錦ヶ原の月例はプレーの途中で渡し船で川を渡って行くのが楽しかった。
3. 朝練は火・木曜で、グラウンドを使ってアプローチ練習をした。球拾いが大変だった。土曜の午後は赤坂御所のまわりをランニングして、迎賓館前の広場でトレーニング。時々皇居まで走りに行った。その後、打撃練習。朝練のあと、泥だらけで授業に出て、今から思うと先生にとっても失礼でした。おまけにほとんど居眠りしてました(ベベ)。
4. 新千葉と泉でキャディ。三越の御歳暮、大沢商会のバーゲンのお手伝い。秋葉原でゴルフ練習機の実演のバイト。
5. 入学時は汚い部室棟(SPS)だったが、3年か4年の時に新しく

できたホフマンホールに移った。たまり場は学食の購買部との通路そばの1テーブル。3年生になってやっと行けるようになり、4年になると終日そこで過ごしていた。ニューオータニの「トムキャット」には汚いトレーニングウェアのままよく行った。

6. ポロシャツにミニスカートかキュロットが主流で、ブルーのスカートがユニフォームとして先輩から譲られた。ブランドはマンシング、ブラック&ホワイト、フィラ、ポロ、ライル&スコット(大沢商会)。
7. ・2年上のシマさんのボルシェに乗せてもらって、いろんなレストランで御馳走してもらった。厳しい先輩がいらっしゃるなかで異色のさわやかさで、いつもなぐさめてもらった。
・1年上のシゲさんにはよく遊んでもらった。
8. 学連のバイトや事務所の当番日に楽しく交流したのは良い思い出だが、なぜか男子(学習院・青学・立教など)しか覚えていません。
9. ホンマ、ミズノ、ベンホーガン、パワービルト、リンクス。
10. 尾崎将司、青木功の全盛期。中島常幸、倉本昌弘、羽川豊、湯原信光らが台頭。岡本綾子のアメリカデビュー、塗阿玉。
11. シビック、サニー、セリカ、レオーネ、スカイライン、ローレル、ジェミニ、ソアラ。
12. 新歓コンパは一次会は学生会館で、二次会はしんみちの居酒屋。新入生が倒れるまで飲ませて、最後は先輩の家に連れて行き介抱をしていた。男子は大変そうで、4年間で何人もお手当させていただきました。(キョン)
追い出しコンパは新千葉。コンパはしんみちの飲み屋、赤坂の山王飯店、サントリー館。
13. ・在学中の4年間は建築ラッシュだったが、ほとんどが卒業する頃に完成したためホールや図書館は使っていない。ただホフマンホールの部室だけは第1号の使用だった。
・女子学生はほとんどJJガールで、ハマトラやサーファーが流行していた。ファッション雑誌(JJ、CanCanなど)に載る上智大生や、JALのステューデス(ゴルフ部も毎年のように輩出)、アナウンサー(長野智子さんなど)になる上智大生が増えた。

1984 昭和59年

(一般)

＊ 江崎グリコ、森永製菓 かいじん21面相事件

＊ ロスオリンピックで山下泰裕・具志堅幸司金メダル

(ゴルフ)

● PGAインストラクター資格認定制度発足

● 岡本綾子女子英国オープン優勝

● 全英オープン賞金総額451,000ポンド、優勝55,000ポンド、ギャラリー193,126人



<男子>

水野高良(主将)・高橋道生(副将)・林裕(学連)・藤田宗(OB係)・天野聡・池田成樹・井上卓郎・竹内信策

<女子>

矢野文子(主将/ブン/辻村)・佐々則子(副将/ノン/長野)・土肥直美(会計/タッチ/安達)・山本麻起子(学連/マッコ)・堀内理恵(トレーナー/リー/渡辺)

1984(昭和59)年卒

男子

1. 3年春C-4位、4年春C-6位 秋C-4位
2. ・新人合宿は新千葉。春夏の合宿は新千葉、矢板、東の宮、ユ一アイ。東の宮のあおいコースの1番は距離があり、3打目もウッドを使用していたのに、1年生の岩垣君が9番アイアンで打っていた。当時ハーフ54以上たたくと坊主刈りにされる制度があり(30台を出せば帳消し)、新千葉の11番ミドルで2打目が直接カップに入り、イーグル(生涯初の1回のみ)をとったことで53になってぎりぎりセーフだった。(池田)
・布団巻きでいじめられた。(水野)
・合宿から帰ると町の女の子がきれいに見えた。(天野)
3. ・朝練はたまにやった。練習場隣のプレハブに泊まってトレーニング合宿も実施。合同練習は週3回。絵画館前までランニングして、筋トレ(タコ踊り・腹筋・背筋・肩車など)をしてグラウンドに戻って素振り、打撃練習。連帯責任の罰はダッシュと坊主刈り。当時Cブロックだったが、リーグ戦でDブロックとの入替戦にまわるとレギュラーが坊主、降格すると全員が坊主になることになっていた。(お陰さまでセーフでした!)
・帰国子女で日本の上下関係になじんでいなかった林君が先輩に敬語を使わなかったことで、全員が練習場に正座させられたことがあった。
・入部して最初のトレーニングで青山通りの空が黄色く見え「お前みたいに体力のないやつは見たことない」と先輩によく言われたが、1年生前期最後の猛暑のトレーニングに最後までついていけたときはうれしかった。(林)
4. キャディのバイトは新千葉、太平洋クラブ軽井沢コース、川奈。大沢商会のバーゲンセールの手伝い。プロトーナメント(ジュ

ンクラシック、サントリーオープン、太平洋クラブマスターズ、三越レディースなど)のバイト。

5. 部室は練習場のハウス。たまり場は学食の購買部寄り、ニューオータニの「トムキャット」。
6. ウエアの流行はブラック&ホワイト、ライル&スコットだったが、ユニフォームとしてダンロップの水色のシャツを作った。
7. ・1年春のリーグ戦で中山先輩(56卒)のフォアキャディをしたとき、全ホールパーの36でまわりメダリストになられた。(池田)
・正木先輩(56卒)には酒を飲まされ怖かった。(竹内)
・大峯先輩(58卒)が打った最初のホールのティーショットがレギュラーティーマークに当たり、ティーランド後ろの小屋にボールがめりこみ、みんなで「入母屋ショット」と名づけた。
・玉置先輩(58卒)に同期全員正座させられピンタをくった。

女子

1. 3年春A-5位・秋A-6位でBに降格。4年秋B-6位でCに降格。
4. 新千葉でキャディバイト、日本女子プロのトーナメント。大沢商会のバーゲン品販売。
7. 山本重美(57卒)と山本みどり(61卒)というビッグな姉妹にはさまれた学年だった。
8. バイト先で一緒だった実践女子大や聖心女子大の人たちと少々つきあった程度。
9. ベンホーガン、ミズノ、ホンマ、ゴールデンラム。
10. 青木功、倉本昌弘、羽川豊、湯原信光、鈴木規夫、尾崎三兄弟。トム・ワトソン。岡本綾子、森口祐子、小田美岐、湯原光葉(アマ)。
11. サニー、ブルーバード、シビック、117クーペ、ジェミニ、スカイライン、スバルレックス。
12. 新人歓迎コンパはしんみちの「キーハンター」、赤坂「ロイヤル」。追い出しコンパは新千葉、コンパはニューオータニ。
13. 「花の女子大生」とうたわれた時代。平和で結束力もあり、もっともよい時代だったと思う。学生部の藤崎課長に昼からビールを御馳走になったこともある。(竹内)

1985 昭和60年

(一般)

- * 日航ジャンボ機御巣鷹山墜落、520人死亡
- * エイズ第1号患者認定
- * 男女雇用機会均等法成立

(ゴルフ)

- 服部道子全米女子アマ優勝



<男子>

鷺見哲也(主将)・上村紀之(主務)・上田敏博(副将)・天野典雄(会計)・祖父江嘉成(学連)

<女子>

神保裕子(主将/コッチ/小川)・澤山恵子(主務/ケイ/矢内)

1985 (昭和60) 年卒

男子

1. 3年春C-6位 秋C-4位、4年春C-6位 秋C-8位
2. 合宿は全員合宿、準レギュラー合宿、レギュラー合宿があり、全員合宿は新千葉で、その他は矢板、東の宮、ユアアイでおこなった。新人合宿やバイトでもお世話になった新千葉でのラウンド回数がいちばん多く、思い出深い。
3. 合同練習は週3回で、グラウンドから青山通りに出て外苑までランニングをし、絵画館前で筋トレをおこない、迎賓館前を通ってもどるコース。義務練は週3コマ。罰則は、朝練遅刻に対してダッシュがあったが、合宿でダボペースを上回ると坊主刈りにしなければいけないのがいちばん厳しかった。
4. キャディのバイト先は新千葉と川奈。学連のトーナメントバイト。大沢商会のバーゲンセールの手伝い。日本テレビのゴルフ中継のバイトでは、アナウンサーから指示のある取材をして中継時

に資料として使う仕事もした。

5. ホフマンホールに部室があったが使用せず、練習場のハウスを部室にしていた。たまり場は学食の購買部への通路付近。
6. ブラック&ホワイトの人气が高く、ユニフォームもそれで作った。
7. なにかと御指導いただいた2年上の村松先輩・玉置先輩、1年上の井上先輩・池田先輩。(天野)
8. 同ブロックの学習院とは毎年定期的にフレンドリーマッチをおこなった。

女子

1. 3年C、4年B
2. 新人合宿は新千葉で。2年までは烏山、霞台、3年には那須小川、黒磯、甘楽で合宿をした。
3. 合同練習は週2~3回で、赤坂御所1周のランニング。朝練週間があった。
4. 新千葉でキャディをして、その後、日が暮れるまでラウンドした。
5. 部室はホフマンホールと練習場。たまり場はニューオータニの「トムキャット」、学食のいちばん購買部寄りのテーブル。
6. ライル&スコット、パリス、キャッシング、ブラック&ホワイトなど。
8. 南山大学と上南戦。
9. 学連推奨のミズノかホンマが多かった。
10. 学士プロといわれた倉本昌弘、湯原信光、羽川豊を目標としていた人が多かった。女子プロは岡本綾子。
11. マークII、シビック、ジェミニ、スターレット、カローラ。
12. コンパは新千葉、コンパは赤坂見附やしんみちの店で。
13. マザーテレサやポーランドのワレサ委員長が来校された。

1986 昭和61年

(一般)

- * チェルノブイリ原発大事故で放射能汚染ひろがる
- * 大島三原山200年ぶり大噴火。島民1万人脱出
- * 英皇太子とダイアナ妃来日フィーバー
- * 社会党土井たか子日本初の女性党首

(ゴルフ)

- 日本のゴルフ場数1,538
- JGA距離表示メートルからヤードに戻す
- LPGA公式使用球をラージボールに限定



<男子>

谷口達也(主将)・塚田喜幸(主務)・飯田健(副将)・新千葉係)・藤沢曉夫(副将)・新千葉係)・稗田薫(会計)・川奈係)・小林康記(学連)・星野政仁(OB係)・黒坂英樹(トレーナー)・大川雅博(トレーナー)・遠田勝徳(サポーター)・浦裕一郎(サポーター)

<女子>

山本みどり(主将/グリ/鈴木)・岡田順子(副将/ヨリ/鈴木)・猪原加菜代(会計/イノ/永岡)・川澄麻季

1986 (昭和61) 年卒

男子

1. 3年春C-6位 秋C-8位、4年春C-3位 秋C-2位。新千葉での入替戦で勝って残留。
2. 新人合宿は新千葉。その後の全員合宿や、レギュラー選抜のための一次合宿等、中心となったのも新千葉。ほかに春は矢板、夏は東の宮で合宿をした。
3. 朝練は毎週金曜。義務練は週3コマ。合同練習はランニングが中心で、神宮外苑との往復、冬場は大学のマラソン大会にそなえて皇居1周もした。練習への無断欠席に対しては、学年全員、練習場の坂道ダッシュ5本の罰則があった。
4. キャディのバイトは新千葉、川奈、セババレストロスで。川奈はカートがなく2バッグを肩にかついで、おばちゃんキャディとペアでまわった。18ホールスルーなので、9ホールが終わったところでおばちゃんからおにぎりなどをもらって食べていた。



その他は、学連のトーナメント、大沢商会のセール会場でのバイト。

5. 部室はホフマンホールにあったが、ほとんど出入りせず。たまり場は学食の購買部寄りの端。
6. 大沢商会でバイトをしていた関係で、ライル&スコットを着ている人が多かったが、人気があったのはブラック&ホワイト。
8. 南山大とは毎年上南戦があった。学習院とはフレンドリーマッチを年に1,2回開いた。

女子

1. 3年B、4年B
大学に入ってすぐ春のリーグ戦があり、まだ合同練習にも出ていなかったが、人数と経験、「Aブロックを守る」ということで選手として参加することになり、日本に帰国してまもなくだったのでリーグ戦の雰囲気には驚いたことを覚えている。そのとき男子の先輩達がお揃いの「スタジャン」(当時のはやり)を着て、目土袋を持って「ファイトー!!!」と応援してくれたことはずっと忘れられません。(グリ)
2. ・新人合宿は新千葉。春夏の合宿はリーグ戦のおこなわれるゴルフ場、例えば那須小川など。新千葉の朝のラウンドは地面が凍っていて、ナイスオンしたボールがOBになってしまった。
・新人合宿の初ラウンドが忘れもしない「ハーフ120」でビックリ。(グリ)
3. 義務練は週3~4回。連帯責任は練習場脇の坂ダッシュ。年末のマラソン大会はきつかった~!
4. 新千葉でキャディ。
5. たまり場は学食の購買部との通路寄りの窓際。ニューオータニの「トムキャット」。
6. ブラック&ホワイトが人気。
7. ・新千葉の食堂にパンツであられた先輩。
・合宿中にテーブルに顔をぶつけて前歯を折った後輩。
8. 新千葉は東大、聖心、青学も使っていたのでよく交流したがゴルフ場以外ではあまり付き合いはなかった。
9. ミズノ、ダンロップ、ベンホーガン、ホンマ。当時のプリチストンは「おじさんくさい」イメージがあって、使う学生はほとんどいなかった。新規規格男がレクスターという商品ブランドのイメージキャラクターをしていた。
10. 青木、尾崎、中島のAON。アマチュアながら日大の川岸良兼が怪物として注目されていた。森口祐子。
11. ソアラ、コロナ、ファミリア、117クーペ。
12. 新歓コンパは赤坂「ロイヤル」が多く、赤坂の路上に寝ることになる新人がたくさん出た。追い出しコンパはいつも新千葉。

1987 昭和62年

(一般)

- * ニューヨーク株式大暴落暗黒の月曜日
- * 国鉄解体、JR発足
- * 地価高騰、銀座・新宿で1坪1億円
- * ソ連ベレストロイカ始まる
- * プロ野球、広島衣笠連続出場世界新記録2,215試合

(ゴルフ)

- 岡本綾子米女子ツアー賞金女王\$466,034
- リゾート法施行でゴルフ場乱開発
- 会員権投資対象となり億カン続出



イグナチオ教会前で

<男子>

岩垣達也(主将)・深井泰雄(主務)・黒岩典正(副将)・湯谷嘉章(副将)・礪正光(副将)・バイト(新千葉)・澤保史(会計)・森本義晃(学連)・内藤正樹(OB係)・福井敦(バイト(セベ))・太田達之(バイト(川奈))

<女子>

長山祐子(主将/ロン/村松)・松川美樹(主務/モグ)・高梨真砂子(会計/タマ/大瀧)・山岡充佳(トレーナー/マオ/玉置)・村藤恵子(トレーナー/ムコ)・島田淳子(OB係/ジン)・青柳敏江(体育会・学連/ブル/谷口)

1987(昭和62)年卒

男子

1. 3年春C-3位 秋C-2位、4年春C-3位 秋C-2位
4年のリーグ戦で主将の岩垣君は中山先輩以来のメダリストとなった。
2. 新人合宿およびふだんの合宿も新千葉。キャディマスター室の松尾さん、金子プロ、鈴木さんに大変お世話になった。特に鈴木さんには4年生時に東京でもよく飲み連れて行ってもらいました。

3. 朝練は確か金曜。合同練習は火、木、土曜で、外苑ランニング2周くらいと、筋トレ・素振り。罰則は坂道ダッシュ。
4. キャディバイトは新千葉、川奈、セベバレストロスで。学連や日本テレビの各トーナメントで、キャディ・ギャラリー整理・キャリングボード・マーカーなどの仕事。同好会連盟で太平洋マスターズのバイトも。
5. たまり場は学食の裏口から入って右(テニスサークルSLTA隣)。
6. ウェアの主流は、全盛期の倉本プロが着ていたブラック&ホワイトで、3年時にユニフォームとして着用。ポロシャツの襟を立てるのも我々学生時代のことでした。ウィンドブレーカーは背中に大きくゴルフ部の英文を入れたヘリーハンセンのものを着用。
7. 1年時に3年の主将だった鷺見先輩には体育会ゴルフ部員としての心構えからはじまり、たくさんのことを教えていただいた。鷺見さん、藤田さん(59卒)ほか4年生の先輩方と行ったジュンクラシックのトーナメントバイトが印象強く残っている。
8. 学習院とは長年同ブロックということもあり、毎年対抗戦をお互いのゴルフ場でおこなっていた。

女子

1. 3年春B-5位 秋B-2位、4年春B-2位 秋B-5位
2. 新人合宿は新千葉。冬の合宿ではティエグラントでティエが刺さらず、太陽は昇らず、悲しかった。
3. 朝練は週1回(火曜)、合同練習は週2回(月・木曜)で、内容はランニング、素振り、バッティング。
4. 新千葉でキャディ、雨天のときは皿洗いや伝票整理をした。
5. 部室は使用していなかった。たまり場は学食、居酒屋「むらさき」、「ピアンコ」。
6. とくになかった。女性ゴルファーが少なかった。
9. ドライバーはパーシモン全盛時代で、パワービルト「サイテーション」、マクレガー「ターニー」、ホンマ、ミスノプロ。アイアンはマッスルバックのみ、ベンホーガン「APEX DECADE」、ホンマ「CLシリーズ」ミスノ「MSシリーズ」。
10. 中島常幸、青木功、泉川ビート。セベ・バレストロス、トム・ワトソン。岡本綾子、塗阿玉。尾崎はスランプでパツとしなかった。
11. マークII、セドリック、ギャランシグマ、ゴルフ、ビートル、ソアラ、ジャガー、プレリウド、ベンツ、ムスタング、コルディア。
12. 新歓コンパはしんみちの「むらさき」。追い出しコンパは新千葉、追い出しコンパは1~3年時はホテル、4年時はアメリカンクラブ。

1988 昭和63年

(一般)

- * リクルート事件、政治家、財界人等辞任
- * ソウルオリンピック、ドーピングでジョンソン100M金メダル剥奪
- * 青函トンネル53.85km世界最長開通
- * 瀬戸大橋開通
- * 東京ドーム完成
- * ファミコン「ドラゴンクエストIII」1日100万本売

(ゴルフ)

- ゴルフ場農業問題が社会問題
- 尾崎将司日本オープン2連覇2連続5回目の賞金王1億2500万円
- 漆阿玉3年ぶり6回目賞金女王9千万



<男子>

星出光平(主将)・青木良晃(主務)・中澤英雄(副将)・鈴木崇(副将)・バイト係)・藤田武士(会計)・堀崎太(学連)・沖村康正(OB係)

<女子>

豊福一恵(主将/ズッコ/西田)・青山幸世(主務/キヨ/小山)・田尻裕子(OB係/ヒコ/中澤)・北村磨美(キャタ/伊丹)

1988(昭和63)年卒

男子

1. 3年春C-3位 秋C-4位、4年春C-4位 秋C-7位、入替戦でCブロック残留
4年の秋のC-Dブロック入替戦では、試合前に諸先輩方がいらっしゃって、「これまでのゴルフ部の長い歴史の中で、Dに落ちたことは一度もない。絶対に残留しろ!」と言われ、大変なプレッシャーを感じたが、僅差(確か数打差)で残留したことは一生の思い出です。
ブロックはA~G位まであり、A・Bはマッチプレー、C・Dはストロークプレー競技で、2ラウンド2日間での5人出場内上位4名のスコアで競った。各ブロックの優勝と最下位で入替戦を実施していた。(3年の'86年から上位下位2校の入替戦になった)

- 新人合宿は大日向、富士ロイヤル、東那須、足利。春夏の合宿は新千葉で。リーグ戦は東の宮、風月（ふうげつ）、矢板。
- 義務連は週3コマ。合同練習は火・木曜の5時～、土曜1時半～、金曜の朝練の合計週4回。内容はランニング（コース：①外苑②赤坂御所1周③皇居1周、「ソフィア～（ないし上智～）、ファイ、ヤ、ファイ、ヤ…」の繰り返しで常にかけ声）、筋トレ（柔軟・腕立て・腹筋・背筋・握り・スクワット・タコ踊り）、坂道ダッシュ、打撃・バッティング・素振り等の練習。リーグ戦の直前には、土手から迎賓館側にいる先輩たちに向かって、「ナイスショットで～す」、「いい所で～す」等の声出しをした。連帯責任の罰則は坂道ダッシュ。個人罰は、合宿でスコアが104～108以上やハーフ54以上の場合に坊主刈り。他に遅刻等が多いため連帯責任で先輩の学年全員が坊主にした記憶がある。
- キャディバイトは新千葉、川奈、セバレステロスで。その他、学連のトーナメントバイト、太平洋マスターズの外人選手のキャディ、平尾昌晃チャリティーゴルフや日本テレビのゴルフ中継のバイトがあった。
- 部室はホフマンホールにあったがほとんど利用せず、練習場横の「グランドハウス」を弓道部と一緒に利用していた。大雪で練習場が崩壊したことがある。たまり場は学食の購買部より入ったところの席、必ず誰かはいた。よく飲んだ場所は「大阪屋（とんかつ）」、「紫」、「磯忠」、「駒忠」、カラオケ「ピアンコ」、「ろばた」等々。
- ブラック&ホワイト、カパルアベイ、プリングル。学年で渋谷のショップでスタジャンを、またヘリーハンセンのウィンドブレーカーを作成して着用していた。
- ・帰国子女の先輩が多く、練習場で英語が飛び交っていた。
・1年上の代では、リーグ戦メダリストの岩垣先輩、いかなる時もポロシャツの襟が立っている湯谷先輩・黒岩先輩、強風の時にバンカー内で木の葉とともにクルクルまわっていた沢先輩。太田先輩は二次会になるといつも「レッツゴーピアンコ～！」って叫んでカラオケに行きましたね。
・2年上の代では、浦先輩の発言は話題を呼ぶ内容が多く、逸話もいろいろあった（キャディバイトでトム・ワトソンについて優勝してチップを30万もらったが、帰りに車が壊れて、それ以上にお金がかかった？等）。谷口先輩は字がメチャクチャうまかった。
・58卒ですすでに卒業していた長谷川先輩は皇居のランニングの時に突然現れ「会社から走ってきた」と言って一緒に走り、気合を入れてくださった。そのおかげか？マラソン大会で5位入賞。
- 学習院とのフレンドリーを年1回、独協とのフレンドリーを4年の時に初めて開催した。上南戦は、東京・名古屋で交互に実施していた。慶応とサッカーの試合もした。

女子

- 3年春B-2位・秋B-5位、4年春B-2位・秋B-6位でCに降格。
- 新人合宿は新千葉、春夏の合宿先は新千葉、ユアアイ、矢板、那須小川、霞台。
上智の明泉寮は外泊・早朝外出・寮が休みのときの特別外泊などの申請が大変で、2年生になると合宿やバイト先の新千葉の方から「外泊証明の印鑑おすよ、もう出したの」と言われるようになった。（キヨ）
- 朝練は火曜、合同練習は週2～3回で、迎賓館やニューオータニをランニング。
- キャディのバイトは新千葉、鶴舞。トーナメントのバイトはジュン・クラシック、サントリーオープン、伊藤園レディースなど。
- 部室は練習場のグランドハウス。たまり場は学食の購買部寄り。
- 個人的には成城大学の格子柄のユニフォームが、色使いも品よく、コンサバティブで学生らしい雰囲気にあふれていて大好きだった。もちろんこっそりまねしてみたりもしました。
- 86年夏にスコットランドのセントアンドリュース大学ゴルフ部と関東8大学ゴルフ部女子との親善試合があり、夏休み中の急な話だったので、上智はわれわれ2年生を中心に数名しか参加できなかったが、海外の異なる環境でゴルフをしてきた同世代との交流を経験できたのはよい思い出になっている。
- ウッドはまだパーシモンの時代、ミズノのプロモデル（岡本モデル・中島モデル等をオーダー）や「MS-1,2,3」、パワービルト、ウィルソン、マクレガー。アイアンはウィルソン「スタッフ」、マクレガー「ミュアフィールド・R55・R65」、ミズノ「MSシリーズ・プロモデル」、ホンマ等。バターはピンバターの全盛期。
- 青木功、中島常幸、尾崎三兄弟、倉本昌弘、湯原信光、牧野裕、羽川豊。トム・ワトソン、ペイビン・ランガー、セバ・パレストロス、ゲイツ。岡本綾子、森口祐子、吉川なよ子。
- シルビア、プレリユード、マークII、117クーペ、ソアラ、ギャランΣ、スカイライン、ゴルフ、ワーゲン「ビートル」、インテグラ。
- 新歓コンパは一次会が上智会館で、二次会は赤坂「ロイヤル」。新人は4年生・OBに挨拶してまわり、潰れるまで飲み、練習場横の合宿所に寝かされた。追い出しコンペは新千葉、追い出しコンパは六本木のアメリカンクラブ。
- ・図書館ができたてできれいだった。
・早見優・河野景子・王貞治の娘が在学していたらしい。
・東京サミットが開催され、迎賓館にブッシュ大統領が来日していた日の夜、新千葉からの帰り、警察官から、キャディバッグ（怪しく感じられた様子）など念入りに取調べを受けた。
・TVマッチに出場し専修大学と対戦して最終ホールまでもつれ込み1ダウンで負けた。

1989 平成元年

(一般)

- * 昭和天皇崩御87歳「大喪の礼」
- * 消費税3%スタート
- * ベルリンの壁撤廃、東欧に自由化の波
- * 中国天安門広場流血の惨劇
- * サンフランシスコ大地震

(ゴルフ)

- 日本のゴルフ場数1,640、ゴルフ人口1,000万人
- ゴルフ場利用税、基本1,100円を800円に引下げ



昭和61年秋季女子Bブロックリーグ戦終了後

<男子>

森一洋（主将）・水口貴文（主務）・木村博志（トレーナー）・宮崎豊尚（新千葉係）・臼谷喜代孝・ブレット アークリナ

<女子>

杉浦ゆう（主将/スッチ）・重田友子（主務/トッコ/鹿田）・児玉京子（会計/アッチ/宇田川）・小淵洋子（新千葉係/ブッチ）

1989（平成元）年卒

男子

- 3年春C-3位 秋C-8位、入替戦2位で残留、4年春C-5位 秋C-8位、Dに降格
4年時最後の入替戦の日の早朝、車のライトでグリーンを照らしながらみんなでバッティング練習をした。
- 新人合宿は新千葉。春夏の合宿は新千葉、風月、矢板、東の宮、那須小川。
新千葉は何百ラウンドしたのか。とくに「つくも」と「たちばな」コースは隅から隅まで覚えている。新千葉の社員食堂のどんぶり御飯と布団も忘れられない。矢板では、独協と合同合宿をしたこと、慶応の女子の風呂を覗いて見つかった先輩がいたことなどが思い出に残っている。バッグを担いで走っての2ラ

ウンドは、ゴルフというよりマラソンで、走りが悪かったというって怒られるのにびっくりした。

- 合同練習は週3回で、赤坂御所1周のランニング、合宿前にはそれに加えて外苑の周回路を約3周。マラソン大会の1ヶ月くらい前から皇居1周のタイムトライアルもした。宮崎君直伝のストレッチ・腕立て・腹筋・背筋・スクワットを30回×3セット。義務練は週3コマ。「ちわっす」というあの挨拶は、今考えると結構不気味だった。四谷近辺を「上智ファイ、ファイ」のかけ声で走るのも結構すごかった。公式競技で104以上たたくか、遅刻などボカミス3回で坊主。合宿で104以上たたくと朝練1週間、目標スコアを切れないとミーティング中正座とその後素振り。結果がだめなときは練習を課し、気がたるんでいるときは坊主刈りという対応だった。
- キャディのバイト先は川奈（2バッグの担ぎ）、新千葉、セバレステロス。
・サントリーオープンのバイトで室田淳のキャディをした。20位くらいだったけれどももらったのはボールだけだった。（森）
・日本テレビのハワイアンオープンのバイトをした時、選手のインタビューの画面で、宮崎君がちゃっかり後ろに映っていた。
- 部室はホフマンホールにあったがほとんど物置きで、練習場の小屋を使っていた。たまり場は学食のヒーターの前。
- ユニフォームはヘリーハンセンのウィンドブレーカー（水口君のお母さんデザインのワッペン付き）を着ていた。
- 星出先輩の「お前ら奴隷だ」発言。ここには書き切れないほどのエピソードを残された磯先輩。
逆ギレ事件、バンカーでばったり倒れる事件、肋骨折れちゃった事件をおこした1年下の岡君。「バンカー目土しなくていいの?」といった後輩。
- 独協と合同合宿。慶応とサッカーの試合。新千葉で他校と交流（とくに聖心女子大、大妻女子大など）。

女子

- 3年春B-2位 秋B-6位でCに降格、4年C-4位 秋C-5位
ブロックはA～Dで各6校。4年時にEブロックもできたように記憶している。下位ブロックの1位校と上位ブロックの6位校が入替戦をした。
- 合宿は1次合宿が新千葉、2次合宿・準レギュラー・レギュラー合宿はリーグ戦のおこなわれるゴルフ場で、霞台、那須小川、矢板、黒磯などを使用した。新人合宿というものはなかった。Bブロック復帰のかかった最後のリーグ戦の舞台となった矢板は、自分の限界まで練習して臨んだものの優勝できなかった悲しい思い出や（ききょうの8番で20メートルのバーバットを沈めた）、最後の個人戦（日刊杯）の本選で26位になった思い出のあるコース。黒磯はやたらアップダウンのある山岳コースで、東京からも遠く、Cブロックに転落したこと＝都落ちを実感したが、後輩がどんどん育って来てうれしかったコース。（スッチ）

- 朝練は火曜。合同練習は木曜の夕方と土曜の午後。赤坂御所をランニングして迎賓館前で柔軟、練習場に戻って素振り、打撃、パット練習、ルールの勉強。マラソン大会の前は皇居1周。義務練は週3コマ。
- キャディバイトは新千葉、鶴舞、セバレステロス。学連のトーナメントや日本テレビのトーナメント中継のバイト。
- 部室はホフマンホールにあったが、一部の幹部のみ出入りしていた。たまり場は学食の購買部から入ってすぐの所。
- 62年卒の先輩たちがつくられた、背中に「SOPHIA UNIV ATHLETIC ASSOCIATION GOLF TEAM」と入ったヘリーハンセンのウィンドブレーカーを、平成3年卒くらいまで代々着ていた。
- ホンマのウッド、ミズノの「MS-1」や「ジョニーミラー」など。ピンバターが基本。
- セバ・バレステロス、グレッグ・ノーマン、中島常幸。岡本綾子。
- インテグラ、セドリック、プレリウド、スカイライン、スプリントートレノ、アコード、ローレルスピリット。
- 新入生歓迎コンパは「赤坂ロイヤル」で。酔いつぶれると練習場の小屋の2階で寝るパターン。追い出しコンペは新千葉で卒業生一人を入れたドローを組んで（ドロー表に各人にその日限りのあだ名をつけた）まわり、コンパは東京アメリカンクラブで開いた。

1990 平成2年

(一般)

- * 礼宮文仁親王川嶋紀子さん結婚
- * 女性生涯平均出産数史上最低1.57人
- * イラク軍クウェート侵犯
- * 統一ドイツ誕生
- * ソ連共産党解体、リトアニア・エストニア・ラトビア共和国独立

(ゴルフ)

- * 日本企業ベブルビーチ買収84,100万ドル
- * 小林浩美米LPGA新人王
- * 千葉県ゴルフ場農薬使用禁止

<男子>

延澤哲也(主将)・岡一郎(主務)

<女子>

角田恵理(主将/カリ/角田)・松本幸子(主務/パピ/佐竹)・森田千鶴(会計/チーズ)・土屋泉(OG係/トレーナー/セン/西村)

1992 (平成2) 年卒

男子 回答なし

女子 回答なし

1991 平成3年

(一般)

- * 湾岸戦争勃発、イラク敗北
- * バブル経済崩壊
- * 雲仙普賢岳大規模火砕流
- * きんさんぎんさん

(ゴルフ)

- (米) USオープン落雷で観客死亡(ベゼルティン)



<男子>

尾作謙一(主将)・正光信也(主務)・玄場俊秀(副将)・木村卓爾(副将)・渉外(トレーナー)・大地潤(会計)・三徳隆司(学連)・上原正人(OG係)

1991 (平成3) 年卒

男子

- 3年春C-5位 秋C-8位でDに降格、4年春D-4位 秋D-7位でEに降格
- 新人合宿は大日向。どのホールも小道がフェアウェイの真ん中に出るので、バックティまで戻ると通常の1.5倍を走ることに。死にました。春夏の合宿は大日向や新千葉で。誰かが目覚ましを止めたために全員が寝坊した時、1年上の岡先輩が「お前ら何やってんだ！」と起こしに来て、2年上の森先輩には「お前ら何考えてるんだ！」と叱られた。誰が止めたかは諸説紛々としたまま。新千葉で100ヤードくらいのショートを3番アイアンでのせた時の水口先輩の驚いた顔は忘れられない。

- 合同練習は月・水・金曜で、外苑や皇居のランニングと迎賓館前での筋トレ(最初に回数を言わないスクワットは恐怖だった)、練習場横の坂道ダッシュ。試合前には真田堀で声出し。義務練は週2コマ。
- キャディのバイトは新千葉(深堀圭一郎が客として来ていて「深ぼっちゃん」と呼んでいた)、セバレステロス、川奈。日本テレビのゴルフ中継の手伝い(スコア速報集計など)。
- グランドハウス。ホフマンホールの部室はほとんど使わず、継続申請のために使っているように見せかけるのが大変だった。たまり場は学食の、購買部から入ってすぐの空調機の前のテーブル。だんだん部員が少なくなってテーブルを半分とられた。
- ウェアはお洒落な1年上の延澤先輩(JJ掲載経験あり)がユニフォームに決めたセントクリストファー。キャディバッグを担ぐ肩の部分が汚れるので、綺麗なウェアは持っていなかった。
- 南山大学。同期の女の子に相手にされず、和洋女子大や他の大学のギャルにアタックしていた奴もいた。



<女子>

畦田亜希子(主将/アキ)・渡利由子(主務/リバ)・井田悦子(副将)・バイト係/マド/上野)・千賀史子(会計/トレーナー/フー/Cheng)・加藤裕子(学連/マレー/飯島)・高橋陽子(OG係/アイ/岩崎)

女子

- 3年春C-5位 秋C-3位、4年春C-2位 秋C-2位
- 新人合宿は新千葉。真夏の炎天下、ふらふらになりながらハーフで100近くも叩き、これがゴルフなんだろうかと練習不足を深く反省。夕食に出たオレンジ色のイカがなぜか印象に残っている。春夏の合宿で思い出深いのは那須小川や矢板。矢板は夏にぶよに刺されて痛かった。新千葉はとても大きなゴルフ場で、最後までコースを全部は覚え切れなかった。
- 朝練は火曜。義務練は週3回。木・土曜の2時間の合同練習では、迎賓館の周りを走ってから筋トレ(腹筋・スクワット・腕立て伏せ等)。クラブを片手で持って「1、ハイ」「2、ハイ」とかけ声をかけて上げ下げするグリップ強化練習は体育会の他の部からみると可笑しかったらしく、飲んだ席でよくからかわれた。無断遅刻者が出ると練習場横の坂道を学年全員でダッシュ10本。練習場に行く時、先輩や同期を見たらまず「こんなに

- ちわ〜!!」と叫ぶのが習慣になっていたもので、それが自分の挨拶の原点になっているような気がする。
- 部室はクラブハウス。たまり場は学食の購買部側入り口。隣はテニスサークルだった。
 - 流行のウェアはブラック&ホワイトやパリスだったが、合宿では新しいのはもったいないと先輩に言われ、古いものばかり着ていた。合宿所でAブロックの成城大学の女子が髪にリボンを結んでラウンドしていたので、みんなで40台が出るようになったらリボンをしよと誓いあった。
 - クラブはホンマ、ミズノ、テーラーメイドのドライバー、ピンバター。カーボンやボロンの出始めで、ヨネックスのカーボンアイアンのフルセットをひっさげて入部してきた奴もいた。
 - 羽川豊、倉本昌弘、川岸良兼、丸山茂樹。グレッグ・ノーマン。岡本綾子、松澤知加子、安藤昌子(クレージュと契約していたはずが今いす?)。
 - マークII、パジェロ、CR-X8、ローレルスピリット。新千葉に行くのに首都高速代(当時600円)をケチって14号線をトコトコ行った。
 - 新入生歓迎コンパは「赤坂ロイヤル」。当時はいくら飲んでも平気だったので、2年の先輩方とグランドハウスで死にそうになっている同期の看病をした。鯨飲させられマグロのようになっていた1年男子を見てカルチャーショックを受けた。死亡事故が起こらず良かったとつくづく思う。(女子)

当時の練習風景

「スポーツアイ」誌より



迎賓館前広場を使っている筋力トレーニング



バタリー専用の特設テイング練習場



女子部員、ユニフォーム姿で勢ぞろい

1992 平成4年

(一般)

- * 東京佐川急便事件
- * 毛利衛エンデバーで宇宙に
- * 日本新党(細川護熙党首)結成
- * 牛肉・オレンジ輸入自由化

(ゴルフ)

- カーボンアイアン公認
- 岡田美智子47歳世界女子最年長記録で優勝



平成3年3月 追い出しコンパにて(当時3年生)

<男子>

吉田真吾(主将)・平林昌樹(主務)・東田充紀(会計)・瓜生裕明(学連)・坂田和則(OB係)・佐波淳(トレーナー)・安藤肇

<女子>

山本佳菜子(主将/カコ/高橋)・小川裕加(主務/ヒロ/鶴見)・十枝恵理子(学連/テン/瓜生)・武部美佐(OB係/リン)・森崎薫(トレーナー/ルル)

1992(平成4)年

男子

- 3年春D-3位 秋D-7位でEに降格、4年春E-1位でD昇格 秋D-4位
- 新人合宿は新千葉。春夏の合宿は新千葉、セバレステロス、矢板、風月、那須小川。いちばんお世話になったのは新千葉で、新入部員はこのコースでデビューし、実力がついてから他のコースで腕を磨いた。冬の合宿では身体がまわらないためティーショットがスライスし、よくOBや池ボチャを出した。名物ホール「たちばなアウトの1番」をまたラウンドしてみたい。(安藤)

- 合同練習は月・水・金曜の午後5時から、内容は赤坂御所1周ランニング、ストレッチ、筋トレ、打撃練習、パター練習。義務練は週3コマ。練習に遅刻3回・無断欠席、合宿でハーフ54以上、アテストミスをするとう坊主刈りに。
- キャディのバイトは週末に新千葉、セバレステロス、川奈で。セバや川奈は名門コースでバイト代も高かったので人気があった。学連の斡旋で、プロトーナメントのバイトもした。
- 部室はグランドハウス(弓道部と共用)。たまり場は学食の購買部の入り口付近。
- ウェアの基本はポロシャツにチノパンで、坊主頭の部員も多く、腰にタオルをぶら下げてラウンドしている部員もいた(ボールを拭いたり汗を拭くため)、お洒落とは無縁だった。機能を追求するならおじさんブランドのマスターズ、マンシング、ブラック&ホワイト。ブランドをとるならトラサルディ、レノマ、ラコステか。
- 合宿で先輩方から教えていただいたラウンドマナーや技術についての厳しい指導、数々のアドバイスや援助にたいへん感謝している。
- 上南戦以外にはとくになし。

女子

- 3年春C-2位 秋C-2位、4年春・秋C
- 新人合宿は新千葉。新千葉で1次合宿をしたあと、各リーグ戦のおこなわれるゴルフ場(鶴舞、矢板、黒磯、風月、那須小川)で2次合宿・準レギュラー・レギュラー合宿をして試合にそなえた。冬の合宿の朝ラウンドではカチンカチンに凍ったティーグラウンドにティーを刺すのに苦労した。新千葉は当時、宿舎に冷房も暖房もなく、夏はドアを開け放していたためネコが入ってきたり、冬はコタツをひっくり返して暖をとったりした。でも夜の星空はとてもきれいだった。とにかく4年間ゴルフ三昧で、週末はゴルフ場。どんな天候でも朝暗いうちに起きて日焼け止めクリームを塗って、重いキャディバッグを担いで走る、走る、走る。泥まみれになっても、プロに刺されて足が腫れ上がっても、10打めを打っても、林から球が出なくても続けなければならない学生ゴルフは、今の人生に大きな自信となっていると思っている。
- 合同練習は朝1回をふくめ週3回。赤坂御所1周ランニング(朝はニューオータニ1周)、ストレッチ、筋トレ、打撃練習、パター練習。クラブ1本を握って「ファイトです! ガンバです!」とかけ声をかけながらのグリップ強化練習、練習場脇の坂道ダッシュ。義務練は週3コマ。
- 新千葉、鶴舞、ジャパンでキャディ、学連斡旋のプロトーナメントのバイト(外国人選手の通訳やマーカー等)。
- 部室は弓道部と共用のグランドハウス。たまり場は学食の購買部との入り口付近。
- ブラック&ホワイト、マスターズ、ダンロップなどで毎年ユニ

フォームをそろえた。その他、ラルフローレン、マドモアゼルノンノン、トラサルディなどのブランドもあった。

- アイアンはミズノ、ダンロップが圧倒的に多かった。その他、プロギア、ホンマ、ミズノ、ダイワ。マッスルバックが主流で、ピンのアイ2も流行したが、学生の間では定着しなかった。当時の名クラブはミズノのTN87、プリチストーンJ'sのMTN3。ドライバーはテイラーメイドをほとんどの部員が持っていた。ちょうどパーシモンからメタルに移行した時期だったので、パーシモンを使っていると古いなんて言われたものだ。シャフトもチタンやカーボンが主流になる時期だった。
- 御三家(青木・中島・尾崎)のなかでも尾崎がダントツで、尾崎兄弟(健夫、直道)も活躍していた。外国ではニック・ファルド、そのティーチングプロだったレッド・ベターの本「アスレチックスウィング」がベストセラーになっていた。女子プロは何といつても岡本綾子、涂阿玉。
- マークII、スカイライン、ジェミニ、セフィーロ、セリカ、ゴルフ。
- 新入生歓迎コンパは「赤坂ロイヤル」というちょっとお洒落なクラブのような店。新入部員が空のグラスを持って先輩方のテーブルをまわり、ウィスキーを注いでもらって飲み干すことになっていた。追い出しコンパはそれまで新千葉が恒例になっていたが、われわれの代の時に趣向を変えようということで万木城にておこない、コンパは京王プラザで開いた。
- 卒業する頃から聖イグナチオ教会の改装工事が始まり、2号館を取り壊す準備に入った。2号館は昔からの風情のある建物で、2階に食堂があったが利用しているのは女子がほとんどで、体育会男子には入りづらい憧れの場であっただけに、残念だ。

1993 平成5年

(一般)

- * 浩宮徳仁皇太子殿下・雅子妃殿下ご成婚
- * サッカーJリーグ開幕
- * 細川首相の連立政権発足で自民党が野党に
- * 冷夏、異常気象でコメ緊急輸入

(ゴルフ)

- JGAスパイクレス使用禁止
- 全英オープン賞金総額1,000,000ポンド、優勝100,000ポンド、ギャラリー140,100人

1993(平成5)年

男子

- 3年春E-1位でD昇格 秋D-4位、4年春D 秋D A~Gブロックで、上位2チーム、下位2チームの入替戦。



<男子>

久我高輝(主将)・谷田俊彦(主務)・伊藤毅(副将)・大竹隆太(学連)・大木孝洋(OB係)・大原光貴(トレーナー)・平澤俊太郎(バイト(セベ))・武居弘治(バイト(セベ))・宮川裕康(バイト(新千葉))・富田隆裕(バイト(新千葉))

<女子>

今田真実(主将/ナウ)・渡辺裕子(主務/モモ/中井)・有坂久美子(副将/バイト/アリ/鶴田)・江橋加織(学連/エバ/都甲)・藤田順子(トレーナー/アミ/高田)・伊藤芳恵(OB係/メグ/大木)

- 新人合宿およびその後の合宿も新千葉。たちばなインコースは距離も短く、いいスコアが出やすいのでみんな好んでまわっていた。
- 合同練習は週2~3回、朝練は2年時からなくなった。ランニングは赤坂御所や皇居1周。ふだん優しい先輩方がトレーニングになると人が変わったように厳しくなった。
- 新千葉、セバレステロス、川奈でキャディ。
- 部室はホフマンホールにあったが実質的にはグランドハウス。たまり場は学食の一角。
- 1年下の黒川君の「お嫁サンバ」をもう一度見たい。

女子

- 1~4年 Cブロック
- 合宿は新千葉、那須小川、矢板、黒磯、ユアアイ。新人合宿は新千葉。新千葉のたちばなインコースは今思えばほんとに距離が短い。そのショートで主将のナウがホールインワンをした。矢板は虫に刺されて足が象のようになった。
- 合同練習は火・木・土曜の放課後。朝練は週に2つの曜日が指定され、各自が出席できる日を選び、2班に分かれておこなった。赤坂御所1周のランニング、準備運動、打撃、アプローチ、パター練習。義務練は週3コマ。罰則はとくになし。

4. 新千葉、ジャパン、鶴舞、デイスターでキャディ。プロトナーメントのバイト。
5. 部室はグランドハウス。たまり場は学食の購買部への通路に面したテーブル。
6. ウエアはジュンコ・シマダ、マスターズ、ニコル・ローウィン、ラルフローレンのポロシャツ。夏はポロシャツとキュロットスカート、冬はチノパンとセーターをプラス。他の大学とくらべると派手でもなく地味でもなく。
7. ・先輩後輩ふくめ個性派ぞろいで、とても楽しい集団生活を味わえた。とくに合宿の時は疲れ切っているせいか、みんなと一緒に楽しいせいか、ナチュラルハイ状態でくだらない事でも笑いがとまらなかった。
・クリスマスパーティでのマレーさん(平3卒)のセクシーなお姿。
・後輩のリサちゃんがゴム付きの山高帽みたいなのを被ってラウンドし、だんだん帽子が浮いてきて、先輩に「ちゃんと被りなさい!」と叱られ、周囲は笑いをこらえるのに必死だった。
・試合後のミーティングで主将の尾作さん(平3卒)が話をしている時に同期の女子が立ったまま眠っていた。
8. 同期の男子数名がなぜか聖心女子大の合宿のコーチを熱心に行っていた。
9. アイアンはミズノを使っていた人が多かったが、ブリヂストンも人気があった。ドライバーはテーラーメイドのメタルが主流で、紫シャフトを好んで使った。
10. ジャンボ尾崎の強さが際立っていた時代で、髪型をまねしていた人もいた。岡本綾子、小林浩美、平瀬真由美。
11. 赤のフェアレディZ、シルビア、ジェッタ、エスクード、ゴルフ、マークII。
12. 新入生歓迎コンパは赤坂「ラランジェ」で。翌日はグランドハウスに異臭がたちこめていた。追い出しコンパは市原、万木城、セベバステロス、コンパは新宿のカラオケ屋などで開いていた。
13. とても平和だった。

1994 平成6年

(一般)

- * 松本サリン事件
- * 村山連立内閣発足、社会党の凋落始まる
- * 関西国際空港開港
- * ソニー・プレステ、セガ・サターン、ゲーム機発売
- * 北朝鮮金日成死去
- * 大江健三郎ノーベル文学賞受賞

(ゴルフ)

- ゴルフ業界不況で所属契約解約多数
- 尾崎将司年間7勝で賞金王2億14万。
- D・イシイ、ツアー初スロープレーで罰金10万円
- 全米アマ、タイガー・ウッズ18歳優勝



<男子>

藤井利明(主将)・江原純一(主務)・高橋剛士(副将)・岡本寿雄(会計・川奈係)・野本忠明(新千葉係)・糸賀広之(学連)・黒川晋司(学連)・斉藤隆信(OB係)・宮原立臣(トレーナー)・片島聖久(平成9年逝去・セベ係)



<女子>

曾我直子(主将・OG係/ラン/今和泉)・木村啓子(主務・学連・会計/トコ/平林)

1994 (平成6) 年卒

男 子

1. 3年D 4年D
B以下は各ブロック8校、2日間1.5ラウンドで、7名エントリー・5名出場・上位4名のスコア合計で競う。Aブロックはマッチプレーの試合。
2. 新人合宿は新千葉。春夏の合宿は新千葉、セベバステロス、那須小川、万木城、ユアアイ、矢板。
新千葉では学生寮での生活が楽しかった。夜はコースに肝試しに行ったりもした。夜はファミレス(ファミリーレストラン)で食事をしその後ボーリングやカラオケなどで盛り上がった。ゴルフ場にいた「ホモおやじ」に怪しい行動をとられた同級生が何名かいましたが、これも良い思い出です。
3. 合同練習は月・水・金曜。内容は赤坂御所や皇居のまわりを「ソフィアファイ Yeah ファイ Yeah…」と声を出しながらのランニング(1年の夏ごろまでは全然ついていくことができなかった(斎藤))、迎賓館前で筋トレ、グランドで素振り。義務練は週2コマ。ともかくよく走り、よく筋トレしたので皆、体力はめっちゃめっちゃつきました。遅刻のほか、月例や合宿でのスコア・バイト先での平均スコアがリミットオーバーした場合には坊主刈りの罰があった。
4. 新千葉、セベバステロス、川奈でキャディバイト。新千葉でのバイト中も近くのサンクラシックや昭和ゴルフでよく練習した。その他トーナメントバイト(世界選手権、関東オープン、セベバステロスで開催されたインベリアルトーナメント、平尾昌晃チャリティゴルフ)。キャディバイトは車での移動をはじめ夜寝るまでのすべてが楽しかった。
5. 部室は弓道部と共同使用のグランドハウス。たまり場は学食の購買部入り口付近、しんみちの洋定食屋「パンビ」(「ドカン鉄板焼き」をよく食べ、お腹をこわした)。
6. パワービルト。ラルフローレンのポロシャツは高級感があった。
7. ・3年先輩の方々ほどなたもとても怖く個性があり印象的。
・2年先輩の瓜生さんは飲み屋で大暴れのイメージ。以上の先輩方にはゴルフのみならず大学生の遊び方(笑)をいろいろ教えていただきましたし、車にもよく乗せていただきました。

女 子

1. 1~4年 Cブロック
2. 合宿は新千葉、矢板、那須小川、ダイヤグリーン。新千葉ではキャディハウスからスタートが近く、比較的簡単な「たちイン」こと、たちばなインコースが人気だった。
3. 合同練習は週3回で赤坂御所を1周、朝練は週1回(2班に分かれて)ニューオータニを1周。
4. 新千葉、デイスターでキャディ。たまにトーナメントのバイトも。
5. 部室はホフマンホールにあったが、グランドハウスを使用。た

- まり場は学食。
6. ウエアはラルフローレンのポロシャツ、ジュンコ・シマダ。
 7. 個性的な人たちの集まりだったように思う。
 9. クラブはダンロップ、ブリヂストン、マルマン、ミズノ、マグレガー、ウィルソン、ホンマ・・・とかなりバラけてた。ドライバーはテーラーメイドのメタルがはやりだした頃で、その後はJ'sのドライバーや中島のM-300/M-500が流行。パターはピンが多かった。ボールはRoyal Star, Royal Maxflyを使用していた。
 10. ジャンボ尾崎が強く、ジャンボや中島のハイドロー理論がはやっていた。倉本・金子・東といったジャンボ軍団には飛距離の面で皆があこがれていた。スイングのお手本はやはり湯原選手だった気がします。岡本綾子、服部道子。
 11. 車より電車での移動が多かった。ゴルフ、プリメーラ、マークII、セリカ。
 12. コンパは万木城やセベバステロスで、コンパは赤坂「ラランジェ」、新宿のカラオケ。クリパ(クリスマスパーティ)は原宿、渋谷方面で。クリパや追いコンなど、ちょっと大人の雰囲気。催しは地味ぞろいの平6卒男子は苦手だった。(先輩方は皆センスがいいのに・・・)
 13. ・まだバブルの時代で、楽しくのんびりしていた。携帯電話をもっている学生はさすがにいなかった。
・細川首相(当時)が来校され、講演をしていただいた。
・2号館がなくなり、11号館(だったと思う)ができたりした。
 14. 僕らの代はゴルフが全て、という人間がそろっており仲も良かった。大声を出して挨拶したり、合宿の早起きやマナー、正座でのミーティング・・・など厳しい思い出もいっぱいあるが、これら全てが今では楽しい思い出であり皆の心の支えとなっている。そんなゴルフ部に感謝!

1995 平成7年

- (一般)
- * 阪神淡路大震災、6,308人犠牲者
 - * 地下鉄サリン事件(オウム真理教)
 - * 東京青島幸男都知事、大阪横山ノック知事誕生
 - * 住専処理6,850億円投入
 - * 野茂英雄大リーグで新人王

- (ゴルフ)
- PGA 50歳以上のシニアツアー アマに解放
 - 今堀りつ連続出場記録482(14年間)
 - 中国で初メジャー、ワールドカップ開催



平成4年6月上南戦 愛知県の愛岐CC駐車場で(当時2年生)

<男子>

岩城達哉(主将)・若林秀宜(主務)・川田真之(副将)・難波貴志(学連)・伴亮平(トレーナー)

<女子>

鈴木淳子(主将/スズ/坂田)・内海稚子(主務/ワカ)・森田悦子(副将/エコ/岩谷)・野間緩子(会計/カン)・橋本香代子(学連/カヨ)・小野内真紀(OG係/ノリ)・服部雅子(トレーナー/マコ/岩田)・鈴木詩子(トレーナー/リス)・千葉由美子(バイト係/ミコ/Yiu)・五味有希子(バイト係/ユキ/山野)

1995(平成7)年卒

男子

- 3年春D-3位 秋D-7位、4年春D-6位 秋D-2位
- 合宿はセババステロス、ユーアイ、セントラル、矢板などで。新人合宿は新千葉。
- 合同練習は月・水・金曜の夕方に赤坂御所、神宮外苑、皇居などのランニング、腕立て伏せ20回、腹筋30回、スクワット40回、背筋30回を3セット。そのほかに坂道ダッシュなど。遅刻、アテストミス、スコアリミットを越えた(〜打以上たたいた)場合は坊主刈り。朝タラウンドをして、バイトもして、合宿もして、今考えるとよくあれだけ体力があったなと思う。
- 新千葉、セババステロス、川奈でキャディ。セベで開かれたアコムインターナショナルなどでプロのキャディなどのバイト。
- 部室はグラウンドハウス。たまり場は学食の購買部から入った所。
- 2年下の塚野君が、経験者とはいえ初ラウンドで37を出したのには驚いた。

女子

- 1〜4年 Cブロック
- 合宿は新千葉。新人合宿も新千葉。キャディハウス、スカイハウスの建て替えがあった。

- 合同練習は週3回、朝練は1回、迎賓館のランニング、筋トレ。義務練は週3コマ。
- 新千葉、デイスターでキャディ、プロのトーナメントでバイト。
- 部室はグラウンドハウス。たまり場は学食、グラウンドハウス、旧ラウンジ。
- ボウストのユニフォーム、ペブルビーチのスパイク、足付きピンのキャディバッグ。
- アキさん(平3卒)。テンさん(平4卒)。武居さん(平5卒)にはゴルフ以外のことを教えてもらった。(カヨ)
- ジャンボ尾崎の全盛期だったのでプリチストンのものが売れていた。キャロウェイのビッグバーサがはやっていた。ウッドはホンマのパーシモン、アイアンはスチールシャフト、ボールはツアースペシャル。
- 尾崎将司、ニック・ファルド。ニックに憧れ、ティーチングプロのレット・ベターの「アスレチックスウィング」にはまった。(若林) 服部道子、平瀬真由美、村口史子。塩谷育代を目標としていた。(カヨ)
- フォードプローグ、プレセア、シビック、スプリンターマリノ、アコード、ボルボ、ローレル。
- コンパは赤坂「ランジェ」や、四谷、新宿界隈で。新入生歓迎コンパは男子は学らんを着て、新人をつぶして2年生がケアをするというスタイルが伝統的につづいていた。OG会などは麹町のフルーツバーラー「鶴」。追い出しコンパはセババステロスで開いた。
- 黒磯で夏のリーグ戦の練習ラウンド終了後に、車のキーを中に置き忘れてドアが開かず、JAFを呼んでもだめだったので、同期の難波君にだめもとで電話をしたところ、キーを東京から黒磯まで愛車で届けてくれ、到着したのは午前2時頃でした。彼は本当にいい人でした。(カヨ)

1996 平成8年

(一般)

- * O-157各地で大流行
- * 薬害エイズ安部帝京大副学長逮捕
- * 普天間基地全面返還で日米合意
- * 民主党結成
- * 女子高生のルーズソックス、援助交際
- * 英国狂牛病(BSE)騒動

(ゴルフ)

- 尾崎将司ダンロップ優勝で100勝達成
- JPGA「新ツアー機構」設置を発表
- タイガー・ウッズ プロ転向後5戦目で初優勝



平成7年3月 追い出しコンパ(平成8年と9年卒のみんなで)

<男子>

高橋淳(主将)・千羽大介(主務)・増田聡(学連)・福本光浩(トレーナー)・田中雄一(新千葉係)・長竹正範(セベ係)

<女子>

長谷川陽子(会計/パレエ)・高部香苗(トレーナー/カナ)(2名とも上智短大から2年次編入。実質的には1年下(平9卒)の女子と同じ学年として3年間活動した。)

1996(平成8)年卒

男子

- 3年春D-6位 秋D-2位、4年春D-7位 秋D-4位
- 新人合宿は新千葉。
- 合同練習は、迎賓館1周のランニングと、適度な筋トレ、たまに水泳。遅刻やスコアオーバーをすると坊主刈り。
- キャディバイト先は新千葉、セババステロス。
- J's、金色のピアス、ネックレス。
- 独協大、東大、聖心女子大、和洋女子大、大妻女子大、慶応と。

女子

- 3年春C 秋C-7位でDへ降格。4年春D-4位 秋D-6位 3年の入替戦でブロック落ちした時は泣いた。必ず昇格しようと練習に励んだことを覚えている。
- 新人合宿は新千葉。春夏の合宿は矢板、黒磯、那須小川。冬は朝日が出てボールが見える明るさになると同時にコースに出て行き、夕方はボールが見えなくなるまでプレーしていた。雨はもちろん雪が降った日もカラーボールで何とかプレーしようとかんばった。
- 合同練習は月・火曜の夕方、迎賓館を1周してから筋トレ。水曜の早朝はニューオータニを1周して筋トレ。義務練は週3回。罰則は義務練やキャディバイトをふやす。入部したての頃は迎賓館を走ると遅れてしまう人がいたが、

んばって練習し、2〜3週間もすれば全員、最後まで走りきることができるようになり、その時はゴールでみんなまで拍手をして感動的だった。

- 新千葉、デイスターでキャディ。新千葉では夕食のメニューが限られていて、オレンジ色のイカが出る時は車で近くのファミリーレストランへ行った。夏は九十九里浜に出かけたこともあった。学生の宿泊所は建て替えられてずっときれいになったと先輩に聞いていたが、それでもゴキブリ騒動や押し入れにキノコがはえていたりした。独協大、東大、聖心女子大も一緒にバイトをした。
- ホフマンホールに部室はあったが、グラハウ(グラウンドハウス)を部室がわりにして、そこに居ることが多かった。
- ユニフォームは毎シーズン、ボウストというアメリカブランドで作った。他の大学でも人気があった。
- 毎年5月に上南戦があり、南山と交代で主催していた。ゴルフ場のバイトや月例杯で他の大学の人と友だちになった。
- ウッドはキャロウェイのビッグバーサ、アイアンはプロギア、ホンマ、ミズノのノータス、バターはほとんどの人がピン。
- 尾崎将司、青木功。タイガー・ウッズ、イアン・ウーズナム、ニック・ファルド、ニック・プライス、コーリー・ベイピン、ダン・ポール、アーニー・エルス。福島晃子。
- BMW、レガシーワゴン、プレリウド、ボルボ。
- 新入生歓迎コンパは四谷の居酒屋で、男子はウィスキーの一気飲みをしてほとんど全員つぶれていた。追い出しコンパはセババステロスで、コンパは新宿の居酒屋。当時は卒業生全員が最後にサザンオールスターズの「YAYAあの時を忘れない」を歌うのが恒例だった。
- 1993年に2号館が駐車場となった。

1997 平成9年

(一般)

- * 香港が中国に返還
- * 英ダイアナ元妃事故死
- * ベルー日本大使公邸乱入事件
- * 消費税3%から5%に
- * 北海道拓殖銀行倒産
- * ポケットモンスター大流行

(ゴルフ)

- 青木功、米シニア7勝目をあげ3年連続100万ドル獲得
- 丸山茂樹 コース侮辱発言で罰金20万円
- 日本のゴルフ場1,970、ゴルフ人口1,200万人
- タイガー・ウッズ史上最年少で米賞金王206万ドル
- ベン・ホーガン近代ゴルフの父死去、84歳



<男子>

野口宣文(主将)・塚野健太郎(主務)・渡部祐士(副将)・保坂英徳(トレーナー)

<女子>

山口慶子(主将)・会計/ナオ)・塚越美紀(主務)・体育会/イク)・田島良子(副将)・渉外/ハル)・中澤多恵子(学連/ベル)・三浦志帆(OG係/ミウ)・蔵みゆき(トレーナー/スー/野元)・河村真紀子(トレーナー/リオ/増田)

1997(平成9)年卒

男子 回答なし

女子

- 3年春C 秋C-7位でDへ降格。4年春D-4位 秋D-6位
女子はFブロックまで。Dブロックの場合は上位下位1校が入替戦へ。
- 合宿は那須小川、黒磯、矢板。新人合宿は新千葉。1年の合宿で、カーテンレールに洗濯物をたくさん掛けすぎたためにレールが落ちて、寝ている顔に降り掛かってきた。レギュラー合宿では夜7時台には就寝して体力を貯えた。新千葉ではキノコの横にせんべい布団を敷いて寝た。合宿の最終日のラウンド中に大雪が降り、ボールも見えないなかホールアウトをめざしたこともあった。
- 合同練習は朝1回、夕方2回で、迎賓館(朝はニューオータニ)1周ランニング、筋トレ、ストレッチ、素振り、打撃、バター練習。義務練は週3コマ。スコアリミットの罰則は義務ラウンドや迎賓館ランニング。
- 新千葉、デイスターでキャディ。プロのトーナメントのバイト。デイスターでキャディの集団研修を受けて、先生に不真面目でやる気がなさすぎると叱られた。
- 部室はホフマンホールの地下2階。たまり場はラウンジ、カフェ(1年時)。
- ユニフォームはボウストのポロシャツとキュロットスカートで、毎年色を替えていた。(1年ピンク、2年ブルー、3年ショッキングピンク、4年イエロー)

- 1年上の女子が0名だったので2年から幹部を務めた。そのため2年上の先輩ととても仲がよかった。
- リーグ戦や月例杯でまわった共立女子大、東北学院大学、立教、聖心女子大、成蹊の人たちと仲よかった。
- ジャンボ尾崎、丸山茂樹、田中秀道、福嶋晃子。
- アウディ、レガシー、ベンツ、BMW。
- 新入生歓迎コンパや納会は赤坂「ラランジェ」、OG会は麴町のフルーツパーラー「鶴」。追い出しコンペはセババステロス、コンパは弘済会館、歌舞伎町のミラノボール。
- 1年の時に細川先輩が首相になられ、就任発表の日に新千葉で合宿をしていた私達女子はスポーツ紙の取材を受けて一面に載った。また40周年記念コンペで名刺をいただき大騒ぎをした。ある日6号館が半分になり、イグナチオ教会の工事が始まった。

1998 平成10年

(一般)

- * 長野オリンピック
- * 米大リーグ、マグワイア70本塁打達成
- * 北朝鮮ミサイル、本土上空越える
- * 100円ショップ
- * 大手銀行17行に公的資金投入1兆4千億

(ゴルフ)

- 中島常幸、中日クラウン第2RのNo.1ホール(バー4、341Y)でホールインワン(日本ツアー初)
- B・ワッツ、無気力プレーで日本オープン出場停止処分(フジサンケイ)
- PGA、島田幸作ED解任発言で分裂騒動
- 日本ツアー36戦中外人選手14勝
- 全米女子プロで韓国パク・セリ最年少優勝(20歳7ヶ月)
- C・モンゴメリー、欧州ツアーで6年連続賞金王、99万ポンド

1998(平成10)年卒

男子

- 3年D、4年春D-6位 秋D-1位でCに昇格
4年の時、リーグ戦で念願のCブロック昇格を達成できたのは、一つの目標に向かって一丸となって取り組んだ結果だと、心に深く残っている。
- 合宿先は新千葉、矢板、那須小川、ユーアイ、プレスカントリー。新人合宿は新千葉。猛暑の中で1日2ラウンドは体力の限界だったが、そのぶん精神面も鍛えられた。
- 合同練習は週2回、迎賓館1周ランニングと筋トレ、その後打撃



<男子>

北本武(主将)・川口崇(主務)・松本慎史(副将)・トレーナー)・石黒純平(会計)・バイト)・本間稔(学連)・永原章嗣(トレーナー)

とバターの練習。義務練は週2コマ。遅刻の罰は坊主刈り。

- 新千葉、セババステロスでキャディ。プリチストンオープンや日本オープンなどトーナメントのバイト。1年のアコムインターナショナルのバイトで、遊び心で4年の先輩の車を勝手に乗りまわして、たんぼに落としてしまい、こっぴどく怒られ、退部も考えた。(北本)
- 部室はホフマンホールの2階とグラウンドハウス。たまり場はグラウンドハウスやラウンジ(11号館地下)。
- ユニフォームはシャークの青いポロシャツで、個人(永原)的にはアッシュワースのデカ(い)ポロ(シャツ)。
- 1年上の塚野健太郎先輩がユーアイでのリーグ戦で36・36でまわられたこと。
同期の松本君が矢板でのリーグ戦でハーフながら35のアンダーでまわったこと。
- 独協のゴルフ部と新千葉でプライドを賭けて「ノーマネーマッチ」をよくおこなった。

女子



<女子>

仙石仁美(主将/クミ)・平木桃子(主務/モコ)

- 3年春D-4位 秋D-6位、4年春D-2位でCに昇格 秋C-5位
- 合宿は矢板、黒磯、ユーアイ。新人合宿は新千葉。矢板はアップダウンがきつくて夏の合宿はつらかった。最終ホールをアウトする時に乗るベルトコンベアの上でも走るのが義務だった。レギュラー選考の合宿ラウンド中に雪が降ってきたが続行。打つのもさることながら降り積もる雪の中にスポッと埋まってしまふボールを探すのがとにかく大変だった。つらかったけれど、きれいな雪の中のゴルフはいい思い出になっている。
- 合同練習は朝練1回、夕練2回で、朝練はニューオータニ、夕練は迎賓館を声出しランニング、その後ストレッチ、筋トレ、グリップ強化、打撃、バター、アプローチ。
- 新千葉でキャディ、北島三郎コンペや平尾昌晃チャリティコンペのバイト。その他プロトーナメントのバイト。
- ホフマンホールの1階に部室があったが物置きで、グラウンドハウスを部室にして、たまっていた。雨の日はラウンジに。
- ウエアはボウスト、ラルフローレン、ポロスポーツ、パーニースNY。
- 同じゴルフ場でバイトをしていた大学や、リーグ戦を通じてつきあいのあった大学の部員のなかには、今でも連絡を取り合っている人がいる。



- プリチストンのJ'sシリーズや「プロギア」、キャロウェイ「ビッグバーサ」、ミズノ「ノータス」、テラーメイド、レスキュー。
- 丸山茂樹、田中秀道、尾崎将司。タイガー・ウッズ、ジャスティン・レナード、アーニー・エルス。福嶋晃子、岡本綾子。岡本の番組「NECスーパーゴルフ」を見ていた。(モコ)
- プリメーラ、いすゞビッグホーン、パジェロ、ベンツ。
- コンパの一次会は赤坂のサントリー館や上智会館。新入生歓迎コンパでは男子の1年は無茶苦茶飲まされグラウンドハウスの脇の小屋で寝ていた。追い出しコンパは二次会がボーリング、三次会は朝まで。卒業生は最後にサザンオールスターズの「YAYAあの時を忘れない」を歌っていた。追い出しコンペはセババステロスやプレスカントリーで。
- 好きなゴルフをあれだけできて幸せだったが、当時はもっとゴルフがしたいと思っていた。ゴルフ部に入って良かった。

1999 平成11年

(一般)

- * 石原慎太郎、東京都知事に当選
- * 自公連立内閣発足
- * 住友銀行・さくら銀行、合併合意
- * 日本興業・第一勧銀・富士銀、統合合意
- * だんご3兄弟
- * iモード
- * IOCオリンピック誘致買収疑惑

(ゴルフ)

- 日本ゴルフツアー機構(代表・島田幸作)設立、32試合、賞金総額約33億円(前年比14億減)
- 熊本国体でゴルフ正式競技に(成年、少年男女)
- 日本のゴルフ場数2,300
- 最初のグランドスラマー、ジーン・サラゼン死去
- (米)タイガー・ウッズ、史上最高660万ドルで賞金王
- (米)カリー・ウェブ、164万ドルで賞金女王
- ペイン・スチュアート、全米オープン2度目の優勝後、飛行機事故で死去



<男子>

村松竜一(主将)・牛島啓輔(主務)・滝野欣一郎(副将)・OB係)・掛川安純(トレーナー)

<女子>

鈴木さち子(主将/シャチ)・馬場由衣(主務/マイ)・篠田彩子(副将/アコ)・早川真代(会計/ルル)・三浦広子(学連/ミエ)・市原佳代子(バイト/ミナ/石黒)・上田和可子(OB係/カコ)・永瀬恭子(トレーナー/キョン)

1999(平成11)年卒

男子

- 1~4年C
- 合宿は那須小川、矢板、ユアアイ、新千葉で。
- 迎賓館・皇居のランニングや筋トレ。トレーニング方法を変更

し、声出しを廃止した。

4. キャディバイトは新千葉、セババステロス。その他プロトナーメントのバイト。
5. 部室はグラハウ(グランドハウス)。
7. ・2年上の野口先輩のオムライス事件。
・同期の掛川君が合宿による疲れで寝言で「ボールマーク移動します!!」と喋って夢遊病のように布団をずらしていた。
・2年下の斎藤君バター1本分のマーク移動。

女子 回答なし

10.丸山茂樹、田中秀道、佐藤信人。福島晃子。

11.パジェロ、BMW

2000 平成12年

(一般)

- * 東海村臨界事故
- * 雪印乳業、食中毒事件
- * 仏コンコルド、ドゴール空港で墜落
- * イチロー、マリナーズと契約
- * そごう民事再生法(1兆8700億)
- * ユニクロブーム

(ゴルフ)

- 日本ゴルフ100年祭
- 丸山茂樹、全米オープン予選で58の世界プロ新参考記録
- 丸山茂樹、サイプレスCC買収、日本人プロ初めてコース所有
- (米)タイガー・ウッズ、3年連続賞金王、1,103万ドル(全英オープン優勝で史上5人目のグランドスラム達成)
- (米)カリー・ウェブ、賞金女王211万ドル
- 全英オープン、賞金総額2,722,150ポンド、優勝500,000ポンド、ギャラリー230,000人

<男子>

趙来福(主将)・岡野貴広(主務)・今枝彦彦(副将)・村上征司(学連)・声川靖洋(学連主務)・田崎岳人(トレーナー)

<女子>

薄井さやか(主将/カヤ)・鷺坂亮子(副将/サリー)・北村幸子(トレーナー/チコ)

2000(平成12)年卒

男子

1. CかDブロック
2. ・春夏の合宿は、リーグ戦会場となるゴルフ場(ユアアイ、那須小川、矢板)やプレスカントリーで。
・新人合宿は新千葉。新人合宿は食事のものを通らないくらい辛かった。声も枯れ、意識ももうろうとしながら必死に走った記憶しかありません。
3. 合同練習は月・水・金曜の夕方5:15~7:00。内容は、ストレッチ→ランニング(迎賓館1周)→筋トレ(腕立て、腹筋、背筋など)→バター練&ショット練→ストレッチ。
4. 新千葉、たまにセババステロスでキャディバイト。現役最後の時期は景気も悪くなり、バイトの募集も減ってきたため東京湾や青梅ゴルフクラブなどでもキャディバイトをした。新千葉の従業員食堂でバイトとタラン(夕方のラウンド)の後に男女いっしょにテレビを見たり、スイング談義に花を咲かせたり、近くのサンクラシックでみんなで練習した時はとても楽しかった。真っ暗な中を音だけを頼りにタランしたことはとても思い出に残っている。
5. 部室はグランドハウス。幹部ミーティングなどはラウンジを主に使用した。
7. 新人の時の幹部(2年上)は周りに対しても自分達に対しても非常に厳しかった。トレーニングのたびに「声が出てない」「走りが遅い」などの理由で何度も怒鳴られた思い出がある。強く印象に残っているのは、新人合宿初日のミーティング(異例の3時間)で怒りを爆発させた石黒先輩がロッカーを裏拳で叩いて破壊した後に「俺が20歳過ぎててよかったよ!」(未成年だったらおまえらをぶっ飛ばしてたかも、という意味だと思うが)と怒鳴った時は本当に生きた心地がしなかった。今となっては良い思い出ですが…。
8. 新千葉で、独協大学、東京大学、聖心女子大、神奈川大などと一緒にラウンドしたりした。(独協大学の部員と1年下のリサが結婚した。)

女子 回答なし

9. クラブはキャラウェイ、ブリヂストン、ミズノ。
- 10.丸山茂樹。タイガー・ウッズ、セルジオ・ガルシア。不動裕理。カリー・ウェブ、アニカ・ソレンスタム。
- 12.新入生歓迎コンパは新宿付近でオールナイトを踏まえた飲み会。追い出しコンパはプレスカントリー。追い出しコンパは一次会は厳かな雰囲気の中でひとりひとりが4年間を振り返り、その後二次会でボーリング、三次会は「飲み」でオールナイト。
- 13.ゴルフ部での4年間は本当に大学生活そのものだった。部活を中心に毎日を過ごし、同期のみんなで協力し合ってきたのはとても良い思い出です。新入生の時は幹部のしごきに何度もくじけそうになったが、同期同士ささえ合ってくれてよく頑張れたと思う。また自分達が幹部になってみて、新入生当時の幹部がどれだけ偉大で、どれだけ裏で苦勞をされていたのか気づくことができ

た。そんな新入生当時の幹部に追いつき追い越せという気持ちでみんなで何度もミーティングを重ね、よりよい部活の運営を考えていた頃を思い出すと、いい部活、いい人、いい同輩に囲まれて4年間を過ごすことができたと感じます。(岡野)

2001 平成13年

(一般)

- * 愛子内親王ご誕生
- * 小泉内閣発足
- * えひめ丸、米原潜に衝突され沈没
- * 国内初、狂牛病(BSE)発生
- * (米)ブッシュ大統領就任
- * (米)同時多発テロ
- * イチロー、アメリカンリーグでMVPに選ばれる

(ゴルフ)

- USGAシャフト47インチに制限
- 日本アマ6勝の中部銀次郎死去、59歳
- 青木功、プロ通算1,000試合達成
- 伊沢利光マスターズ4位、国内初の賞金王21,790万円
- タイガー・ウッズ、マスターズに優勝、メジャー4連勝の偉業達成(タイガー・スラム)



<男子>

中里力(主将)・伊藤宏樹(主務)・中崎亮(副将)・鈴木彰浩(学連)・老田芳人(学連主務)・斎藤大樹(OB係)・坂本雅彦(バイト)・村瀬直哉(トレーナー)

<女子>

茨木三千代(主将/リサ/松井)・秋葉久美子(主務/ミク)・石田弘美(副将/ハナ)・中澤千恵子(学連/トレーナー/ミル)

2001(平成13)年卒

男子

- 3年春D-5位 秋D-2位、4年春C-7位でDに降格 秋D-7位でEに降格
1年時はリーグ戦の下位2校が上位2校と入替戦をしたが、2年時から入替戦がなくなり、自動昇格/自動降格となった。
- 新千葉、矢板、那須小川、風月、グレンオックス、ユーアイ。新人合宿は新千葉。
- 合同練習は月・水・金曜に迎賓館1周のランニング、前の広場で筋トレ。学内トレーニングルームでの筋トレ。週1回のレッスンプロによる指導。朝練なし。義務練週2コマ。
1年時とくらべるとトレーニングの内容が年々変わって行った。3年で幹部になった頃はトレーニング方針などでよく話し合った。技術向上をめざしてレッスンプロに来てもらったり、これまでにないことを出来たことは良かったと思うが、最後まで部員不足に悩まされた。
- 新千葉、グレンオックス、東京湾スプリングス、セベパレステロスでキャディ。トーナメントのバイトは日給9000円以上になった。
- 部室はグラハウ(グランドハウス)。たまり場もグラハウ。グラハウにいけば誰かいた。
- ウェアはタイガーウッズの影響でナイキが流行。
- 新千葉と一緒にバイトをした独協とのつきあいが多かった。他に東大、神奈川大、城西国際大がバイトに来ていた。

女子

- 3年春C-5位 秋C-7位でDに降格、4年春D-2位でCに昇格 秋C-3位
ブロックはAからFまでで、ABは6校、その他は8校。リーグ戦は3日間で1日目は練習ラウンド、2,3日目は登録5人のうち3名のスコアで競うストローク制。
- 合宿は新千葉、グレンオックス、ユーアイほか。新人合宿は新千葉、ユーアイ。合宿所の第一印象は汚く、見たこともない虫がいた。女子の部屋にムカデが出た時は同学年の男子がとってくれた。でも、夜遅くまで先輩や同輩と飲んだり話したりできて楽しかった。Cブロック昇格のかかった4年生の合宿では、夕食後真っ暗ななかでバタ練習や打ち放しの練習をした。ほとんどの部員が自室にバタを持参して、じゅうたんの上で練習した。
- 合同練習は月・火曜の夕方と、水曜の朝7時30分から。ランニングは迎賓館・ニューオータニ、冬のマラソン大会の前は皇居を1周。義務練は週2コマ、自主練は週1コマ。
- キャディのバイトは新千葉、グレンオックス。トーナメントのバイトはBS、PGA、シニアプロ。北島三郎のコンペや、SAISON GOLDのゴージャスなコンペのバイト。ほかにOB・OGからジュエリー販売や成田空港での仕分けなどのバイトがまわってきた。体力的にキャディのバイトがきつかった。
- 部室はグラハウ(グランドハウス)。たまり場は11号館のラウンジ。
- ボウスト、ラコステ、QUIPOをユニフォームとして採用した。

- ・3年上のクミさん、モコさんがきれいで印象に残っている。
・リーグ戦の最終日に必ずウッズを意識して赤いポロシャツに黒のチノパンをはいていた1年上の村上先輩。
・退部してしまったが、男子にも負けない飛距離の後輩が2年下に入ってきて、みんなで驚いた。
・入部当初、ドライバーが当たってけがをした中崎君の、編み目の包帯を巻いた頭がメロンのようだった。
- 独協大、神奈川大、聖心女子大、東大とは新千葉と一緒にバイトをした。独協大と城西国際大と上智でクリスマスコンペをした。南山大学と上南戦。
- クラブはキャロウェイのグレートビッグバーサが流行。女子はプロギアのズームを使っている部員が多かった。チタンヘッドが主流になった。
- 丸山茂樹、田中秀道、伊沢利光。タイガーウッズ。女子プロはカーリー・ウェブ、アニカ・ソレンスタム。
- ベンツ、BMW、ボルボ、カムリ、アコード、クラウン、レンジェンド、インプレッサ。電車・タクシーを使ってゴルフ場に行くことも多かった。
- 新入生歓迎コンパはしみち通りの居酒屋や新宿の飲み屋。追出しコンペはプレス、セントラルJTコースなどで、コンパは一次会は麹町会館、弘済会館、グランドアーク半蔵門、セントラルパーク、新宿のミラノボールなどを利用。OG会は麹町のフルーツパーラー「鶴」で。
- ・サークルに人が流れ、体育会の部活動をしようとする人が少なく、フレッシュマンウィークでの新入生獲得に苦労した。
・入学当初から3年くらいまでイグナチオ教会の改修工事をしていた。
・4年の時、校内が全面禁煙になった。

2002 平成14年

(一般)

- * 史上初の日朝首脳会談、金正日総書記「拉致」認め被害者5人帰国
- * 小柴昌俊さんがノーベル物理学賞、田中耕一さんがノーベル化学賞を受賞
- * サッカーW杯、初の日韓共催、日本はベスト16
- * モスクワで劇場占拠事件、129名死亡
- * ハリ島で爆弾テロ、190名以上死亡
- * 欧州で150年ぶりの大洪水

(ゴルフ)

- ワールドカップで日本が45年ぶりに優勝
- 不動裕理、3年連続賞金女王(平均ストローク新記録: 71.0506)
- 海老原清治、欧州シニア賞金王
- 宮里兄弟、アジア大会や国内ツアーで大活躍



<男子>

鶴田景(主将)・乙幡弘一郎(主務)・山岡将史(副将)・水戸進介(学連)

<女子>

神谷聖子(主将/ミカ)・鷲尾蘭(主務/リン)

2002(平成14)年卒

男子

- 3年春C-7位でDに降格 秋D-7位でEに降格、4年春E-3位 秋E-5位
ABは各6校、C~Fは各8校で、6人出場して2日間の上位5人のスコアで競う。G以下はブロック外でチャレンジリーグとして数多くの大学が競い合う。
- 那須小川、グレンオックス、ユーアイ、TPC馬頭後楽園。新人合宿は新千葉。
新千葉のいつもプレーするコースは距離が短く、あさぎりコースがまわりたかった。たちばな10番のティーグラウンドが懐かしい。那須小川は起伏が激しく、ユーアイは距離が長く、TPCはラフが深かった。ユーアイの椿4番のショートは合宿でも試合でもよくバーディーがとれ相性がよかった。まだ朝日も昇らない霧がかかったコースをまわる新鮮さ、喜びがゴルフ部に4年間在籍させた要因の一つだろう。新千葉近くのサンクラシックゴルフ練習場に車も無いので歩いて行ったことを思い出す。(鶴田)
- 合同練習は迎賓館1周のランニング(時に皇居1周)、打撃とバタ練習、アイソメトリック運動。1年時は毎週金曜が朝練で、ニューオータニを1周して打撃練習。義務練は週2コマ。
- 新千葉、東京湾スプリングス、グレンオックス、青梅、平成でキャディ。新千葉では朝ラン(朝のラウンド)して、キャディをして、夜は遅くまでいろいろな話で盛り上がった。バイトに来ていた他の大学とも一緒に練習して交流した。プロトーナメントでキャディ・メーカー・ギャラリー整理などのバイト。
- 部室はグラハウ(グランドハウス)。たまり場はグラハウ、11号館のラウンジ。
- ユニフォームはなかった。

- ・2年上の岡野先輩には、下手で悩んでいた入部したての頃、新千葉で真っ暗になるまで教えていただき、恋愛問題の相談などまでお世話になった。(水戸)
・2年上の趙先輩はゴルフも上手かったが何事も豪快だった。
・1年上の中里先輩はゴルフのセンスがよく、プロになれるレベルだったと思う。
・1年下の岡村君はいい奴だったがゴルフは上手くならなかった。(鶴田)
- 学連の関係で、立教、慶応、武蔵、独協のゴルフ部の学連の人と行動を共にすることが多かった。(水戸)
独協大学は怖かった。神奈川大の久保田君と一緒にまわり、世の中にこんなに上手いやつがいるのかとカルチャーショックを受けた。(鶴田)

女子

- 3年D-2位でCに昇格 秋C-3位、4年春C-5位 秋C-5位 A~Eの5ブロック(各8校)
- 新人合宿はダイヤグリーン鉾田コース、2年時は新千葉、那須小川、風月、3年はグレンオックス、TPC馬頭後楽園、ユーアイ、4年はユーアイ、那須小川。2年春の那須小川での雪中ラウンドは忘れられない。
- 月曜は迎賓館1周ランニングの後、ストレッチ、柔軟、筋トレ、打撃、アプローチ、バタ練習。安藤コーチのレッスン。火曜は筋トレ、ストレッチ、打撃練習。水曜は朝練。義務練は週2コマ。
- 新千葉、グレンオックスでキャディ。プリチストンオープン、ニチレイレディース、サントリーオープン、サンキョーレディース、伊藤園レディースなどでバイト。ゴルフメーカーの展示会でバイト。
- 部室はグラハウ(グランドハウス)、たまり場はグラハウ・ラウンジ。
- ドライバーはキャロウェイ、タイトリスト、ツアーステージ、ダンロップなど。アイアンはミズノのTゾイド、プリチストンのツアーステージ、キャロウェイなど。
同期の乙幡君が常に最先端をいていた。
- 丸山茂樹、田中秀道、伊沢利光。タイガー・ウッズ、デビッド・デュバル。不動裕理。カーリー・ウェブ、アニカ・ソレンスタム。
- マークII、カムリ、クラウン、チェイサー、ベンツ。
- 新入生歓迎コンパは新宿歌舞伎町近辺の店。コンパはプレスやセントラル。
- 明治や早稲田のように強烈な個性をもつ学生も少なく、安全な校風だったが、体育会の人気が落ちていて、どの部も人数不足に悩んでいた。
・ゾマホンとよく出会った。
・社会人になって、ゴルフで大金をむしり取られることが多くなり、もっともっと練習をしておけばよかったと思う今日この頃である。(水戸)

2003 平成15年

(一般)

- * イラク・アメリカ戦争
- * 伝染病SARSが世界を席卷!
- * 10年ぶりの干ばつで米不作

(ゴルフ)

- 宮里藍 フロツァーダンロップ女子オープン優勝/30年ぶりアマチュアV



<男子>
岡村建一 (主将)

<女子>
梅田香世 (主将/アヤ)・岸由起子 (主務/チャコ)・公望資子 (副将/リタ)

2003 (平成15年) 卒

男 子

1. 3年春E-3位 秋E-5位、4年春E-7位でFに降格 秋F-2位
2. 新人合宿は新千葉。春夏の合宿はユーアイ。合宿では朝起きるのがとにかく早かった。
3. 合同練習は月・水・金曜で、迎賓館1周ランニングと打撃練習、バター練習。合宿で一定のスコアを切れなかった者だけが朝練を課された。
4. キャディのバイト先は新千葉、東京湾スプリング、グレンオックス。
5. 部室・たまり場はグランドハウス。
7. ゴルフ場に行く途中に部員の車が事故を起こした。
8. 独協大と仲がよかった。

女 子

1. 4年春C-5位 秋C-7位でDブロックに降格。(7・8位は入替戦なしで降格)
2. 新人合宿は風月。春夏はユーアイ、グレンオックス、那須小川で。ユーアイはひたすら距離が長く苦労したが、コテージでみんなで話したことが印象的。夏合宿では大量に日焼け止めに塗っていたが、それでも真っ黒になっていた。
3. 合同練習は週2回で、迎賓館1周ランニングと打撃練習。朝練は水曜日。
4. グレンオックスでキャディのバイト。プリチストンオープンなどプロトーナメントのバイト。
5. たまり場はグラハウ(グランドハウス)。とても古くて汚かったが、時々みんなで大掃除をして大切に使っていた。グラハウに行けば誰かがいるという、なごめる場所だった。
6. ウエアはラコステが人気ブランドで、上智は他大学にくらべカラフルだったように思う。
7. 趙来福(レボ)先輩を筆頭に、2000年卒、2001年卒の先輩方がとても勢いがあり、レボさんをお父さんのように感じる部の雰囲気だった。飲み会も盛り上がっていた。
8. キャディのバイト先に他の大学生がいなかったため、リーグ戦で同じドローになった学生と友だちになった。
9. 男子はミズノのTソイド、女子はアイアンはゼファー、ノータス、ドライバーはキャロウェイが多かった。
- 10.丸山茂樹、伊沢利光。タイガー・ウッズ。東尾理子。カーリー・ウェブ。
- 11.ポルボ、カローラ、ベンツ。
- 12.コンペはセントラルJTコースで。コンペは新宿セントラルパークで飲んで、ボーリング、カラオケでオールナイトというコースが多かった。
- 13.学内ではゴルフは“おやじくさい”という意識が強く、とくに女子の部員勧誘に苦労した。

現役4年

男 子

1. 2年春E-3位 秋E-5位、3年春E-7位でFに降格 秋F-2位
2. 新人合宿は東京湾スプリング。宿泊施設がかなり汚くて驚いた。春夏の合宿は新千葉、TPC馬頭後楽園。夏の合宿は暑くて疲れた。
3. 月曜は安藤コーチのレッスン。水・金曜の合同練習は打撃練習、バター練習、迎賓館1周ランニング、坂ダッシュ。



<男子>
大坪泰介 (主将)・小金井勝義 (主務)

<女子>
吉岡美智子 (サキ・途中退部)

4. キャディのバイトは新千葉、東京湾スプリング、青梅、グレンオックス。
5. 部室・たまり場はグランドハウス。
6. ウエアの主流はナイキ。
7. とにかく先輩には声だしを何度もやらされた。後輩が他のコースのグリーンを自分が狙うグリーンと間違えて、まったく違う方向へボールを打ったこと。
8. キャディのバイトで独協大と知り合った。

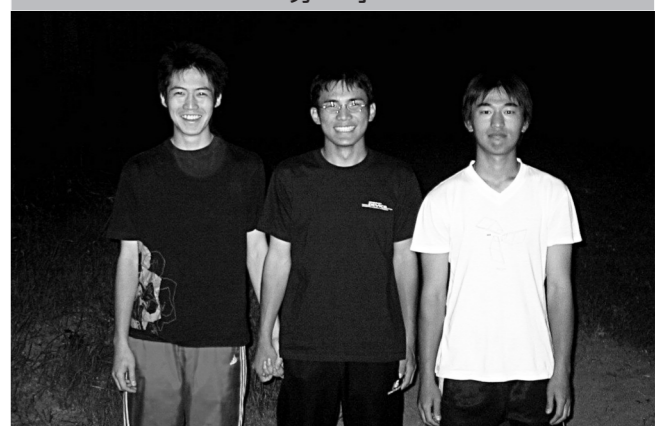
女 子

1. 3年春C-5位、秋C-7位
2. 新人合宿はグレンオックス。春夏の合宿は那須小川、グレンオックス、霞ヶ浦出島。合宿をすることで自己ベストが出たり、先輩から技術を教わったりできた。また、合同生活をする中で互いを知り合うことができ、先輩との距離も短くなって、楽しく充実したゴルフができた。
3. 合同練習は週2回で、迎賓館1周のランニングをした。朝練は水曜日。
4. 新千葉、グレンオックスでキャディのバイト。
5. たまり場はグランドハウス。
7. ・2年上のミカさんがエンターテイナー的存在で、女子部員の歩き方や口調をマネしているのがおもしろかった。
・ゴルフクラブの情報を趣味でフロッピーに打ち込んでいた2年上の乙幡先輩。
8. キャディのバイトをした新千葉で他大学のひとと、リーグ戦で同じドローになった人と仲よくなった。

9. ツアーステージ、テイラーメイド。女子はアイアンはゼファー、ノータスで、ドライバーはキャロウェイ。
- 10.丸山茂樹、伊沢利光。タイガー・ウッズ。東尾理子。カーリー・ウェブ。
- 11.マークII、ポルボ、ムーブ、ブルーバード。
- 12.追い出しコンペはセントラルJTコースで、4年生に多くのハンディをあたえて、チームごとの対抗戦をした。追い出しコンペは原宿の店で4年生の思い出などを話した。その他、新宿の「LIVING BAR」、四谷の「ラテンの食卓」「くうかんぼう」「949」などでコンペをし、カラオケに行った。
- 13.4号館が完成間近になっている。

現役3年

男 子



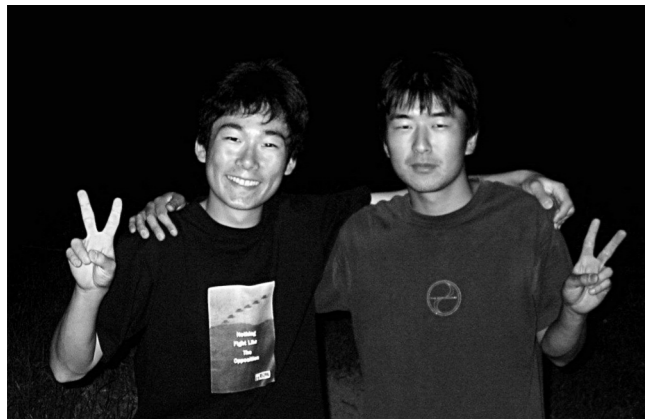
<男子>
岩村力 (主将)・今吉翔一 (主務)・中谷仁亮 (学連)・高尾和成・宮地清志

<女子>
なし

1. 2年春E-7位でFに降格 秋F-2位、
2. 新人合宿は新千葉。春夏の合宿は那須小川、ユーアイで。コースでは学校での練習通りにボールが打てない。
3. 合同練習は月・水・金曜で、打撃練習をメインに、迎賓館1周ランニングや坂ダッシュ。朝練はなし。
4. キャディのバイトは新千葉、グレンオックスで。
5. 部室・たまり場はグランドハウス。
6. テイラーメイドが主流。
7. 先輩にはアテストの重要性を教えてもらった。

- 9. クラブの主流はテイラーメイド。
- 10.伊沢利光。タイガー・ウッズ。
- 11.ムーブ。
- 12.追い出しコンペはセントラル、ヌーヴェルで、チームごとの対抗戦をおこなった。

現役2年



<男子>

津川智紀・藤巻忠俊



<女子>

黒石亜希（主将/チカ）・竹下織（主務/エリ）・河村彩子

男子

- 1. 1年春E-7位でFに降格 秋F-2位、
- 2. 新人合宿は新千葉。春夏の合宿は新千葉、矢板で。まだうまくないので、とにかく疲れた。
- 3. 合同練習は月・水・金曜で、安藤コーチのレッスン、打撃練習、坂ダッシュ。朝練はなし。
- 4. キャディのバイトは新千葉で。

- 5. 部室・たまり場はグラウンドハウス。
- 6. ナイキが主流。
- 7. 先輩にはラウンド中のマナーを教えられた。

女子 回答なし

- 9. クラブの主流はウィルソン。
- 10.谷口徹、タイガー・ウッズ。
- 11.ムーブ。

現役1年



<男子>

井上成暁・川瀬陽平・福田嵩大・川原弘朋・降旗昌伸・宇内克成

<女子>

なし

50年を経た
現在の練習場周辺です。



心臓破りの坂道から練習場を見る。
ネットは新しく張り替えられている。



現在の練習場のハウス。
50年前は「四谷ソフィアゴルフクラブ」のクラブハウスだったもの。



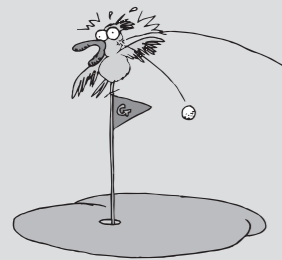
新しいネットが張られた打撃練習場。
バンカーも作りました。



われわれのランニングを見ていた土手の桜並木



グラウンドの練習場へ降りていく階段。なんと昇り降りしたことが。



ゴルフ部からうまれたカップル



上智大学ゴルフ部に在籍したことが縁で、
一生の縁をつむいだカップルが現在、
17組おられます。
みなさまにアンケートをお願いしたなかで、
回答をいただいた7組の
ご夫婦の暮らしぶりや思い出を
ご紹介します。

細川護熙(S38)・佳代子(S40)
高橋坦(S38)・豊子(S40)
益野力一(S42)・紀代子(S43)
三浦康裕(S43)・素子(S44)
久原直行(S44)・恵美子(S44)
勝俣宏一(S50)・一美(S52)
江副利隆(S51)・しげ子(S51)
勝俣正志(S53)・正子(S53)
福田愛二郎(S53)・和恵(S55)
安達正(S58)・直美(S59)
玉置一郎(S58)・充佳(S62)
中澤英雄(S63)・裕子(S63)
瓜生裕明(H4)・恵里子(H4)
平林昌樹(H4)・啓子(H6)
大木孝洋(H5)・芳恵(H5)
増田聡(H8)・真紀子(H9)
石黒純平(H10)・佳代子(H11)

アンケート質問事項

1. お付き合いのきっかけは？
2. 部内で付き合い合っていて良かったこと、苦労されたことは？
3. 当時二人でよく行った場所やお店は？
4. 新婚旅行でゴルフをされましたか。
5. 現在も二人でラウンドをしていますか。
6. これからの夢などあればお聞かせください。

細川護熙(S38)・佳代子(S40) 夫妻

1. おじさんくさく、ダサイので付き合いを断った。
5. 一年に一回あるかないかぐらい。



久原直行(S44)・恵美子(S44) 夫妻

1. 学校の行き帰りで一緒になる機会が多かったこと。
2. とくになし。
3. 杉田ゴルフ練習場や横浜プリンスホテルのシートコース。行きつけは銀座の風月堂。
4. グラムで、ゴルフをしました。
5. イエス。

江副利隆(S51)・しげ子(S51) 夫妻

1. どうして付き合い始めたのか記憶にありません。
4. 新婚旅行はお決まりのハワイ。もちろんあちらにいる友人とゴルフをしました。記念すべきスコアカードも残っています。

5. あっという間の25年。気がついたら娘・息子の家族四人でゴルフを楽しんでおりました。今は主人の腕前が程々ということもあり、良きライバルとして、結構ムキになって闘っています。
6. とにかく健康でゴルフを続けることができれば幸せです。リタイア後はふたりでセントアンドリュースやペブルビーチでラウンドしてみたいですネ。

勝俣正志(S53)・正子(S53) 夫妻

1. なんとなく。
2. ゴルフの調子が悪くなると彼女のせいになってしまいました。
3. 横浜地下街の喫茶店。
4. 新婚旅行はハワイで1ラウンドしました。
5. 現在妻はまったくゴルフをしていません。

福田愛二郎(S53)・和恵(S55) 夫妻

1. きっかけは同期の河村君と、当時新入生だった妻と三人で多摩動物公園に行ったこと。ただし妻曰く「1年先輩の杉山さんとあなたが似ていて、どっちがどっちかわからない状態だった」から、どっちでもよかったということか。
3. 一度しか行かなかったけど、「しの」のしゃぶしゃぶは高かった～！
4. 新婚旅行はハワイで、もちろんゴルフをしました。自由なプレーができてよかった。じつは2年先輩の小倉さんも同じ日に結婚し、ハワイに行かれたので、ハワイで会ったことを鮮烈に覚えています。
5. 結婚後、一緒にラウンドしたのは3回ほど。
6. ゴルフ部内結婚カップルのパーティの開催？

瓜生裕明(H4)・恵理子(H4) 夫妻

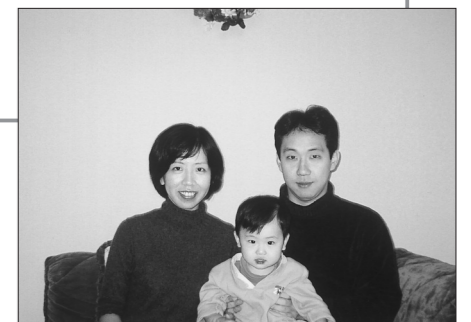
1. 練習場で、裕明が恵理子にゴルフを教えたのがきっかけで、二人とも学連担当だったので、月に一度学連会議と一緒に出かけっていました。
2. 良かったのは一緒にゴルフをできたこと。
3. 四谷のイタリア料理店「カブリチョーザ」や表参道のメキシコ料理店、渋谷など。マツダゴルフな

- どのゴルフショップにもよく行きました。
4. 新婚旅行はマレーシアのランカウイ島に行き、ダタイホテルのコースをまわりました。私たちの結婚式の1週間後に同期の平林夫妻の結婚式があったので、それに出席するため駆け足の旅行になりました。
5. 裕明がロスアンジェルスに駐在時は、訪問するたびにラウンドをしていましたが、最近は年に数回、両親などと一緒にラウンドする程度です。
6. 卒業してからあっという間に10年がたってしまいました。お互いに忙しい毎日ですが、これからも仲よく健康に過ごしていけたらと思っています。また、現在ペットを連れて病院、老人ホーム、学校などを訪問するボランティアをしています。忙しいなかでも少しでも社会の役に立てるような活動を二人でしていきたいと思っています。



大木孝洋(H5)・芳恵(H5) 夫妻

1. 付き合い始めたのは卒業後で、1997年の秋に同期で栃木県の喜連川カントリーでコンペをして再会したのがきっかけです。在学中はまさかこの人と結婚するとは思ってもみませんでした。
4. 新婚旅行はハワイの Maui 島で、2日ほどゴルフをしました。
5. 結婚当初はコースに行っていました。子供ができてからは行っていません。いずれ子供も一緒に、家族でラウンドがしたいです。
6. 年をとってからも、思い出深い新千葉カントリーにゴルフ部の仲間と集まり、ラウンドしたり、たわいもない昔話をして、お腹をかかえて笑いたいと思います。



ESSAY

エッセイで綴る、ゴルフ部の50年史

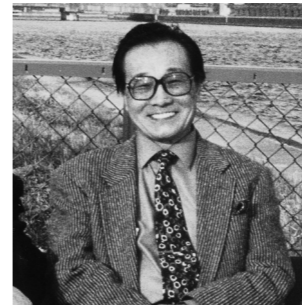
上智大学体育会ゴルフ部を巣立っていった元ゴルフ部員は、この50年間で約500名となりました。時代こそ違え、現役時代、同じ四谷のグラウンドで練習に励んだ若者たち……。今、それぞれの人生の中で、ゴルフ部時代の思い出、今考えていること、現在の生活、など思いつくまま寄稿していただきました。

執筆者

松下 正	S34年卒
中島 敏夫	S34年卒
小檜山 紀之	S38年卒
瀧川 好庸	S40年卒
山田 肇	S42年卒
北村 茂	S45年卒
長島 真弓	S45年卒
白石 俊明	S48年卒
西野 雅久子	S51年卒
中戸川 洋	S52年卒
佐渡 充高	S57年卒
稲垣 善雄	S58年卒
渡辺 孝	S58年卒
三徳 隆司	H3年卒
木村 卓爾	H3年卒
久我 高輝	H5年卒
川田 真之	H7年卒
川口 崇	H10年卒

ソフィアゴルフの思い出

松下 正 (S34年卒)



その頃、上智の運動場があるお堀端には弁慶橋から四谷駅方面へ向かうなだらかな坂に、都電のチンチン電車が走っていた。運動場では、野球部やラグビー部が使用しない時間帯になると300ヤード打ち放しのできる「四谷ソフィアゴルフクラブ」が営業をしていた。この練習場で大きなフックを打つと、時折電車に直撃することがあり、線路沿いに防護ネットがかなり高く幅広く張られるようになったが、まもなくして地下鉄丸の内線が開通すると、この路面電車は姿を消した。

都内のゴルフ練習場としては他に、赤坂溜池近くの大名屋敷跡に洒落たレストランを備えた「バーディクラブ」があった。銀座の裏通りにはインドアの「フェアウェイ」「同楽倶楽部」、公詢社ビルの室内や神田美土代町のYMCAの体育館にも練習場があった。後楽園球場や競輪場も試合のない日は打ち放しのゴルフ練習場に早変わりした。芝ゴルフの出現などまだまだずーっと後のことである。

ここで昭和20年代末からクラブを振っていた学生が、学生ゴルフ界のスターであったわれらが村田栄さんである。瘦身なのに「飛ばし屋」で、とくにアイアンショットが正確かつ華麗だった。持ち前のさっぱりとした気性で好かれていたが、ベツに強く、学生仲間では「強盗」の異名をとっていた。白いハンチングがよく似合っていた。村田さんを筆頭に、吉田勉さん、田中哲哉さん、伍堂光雄さん、古知朝彦さんらも、みな20年代末にゴルフを始めた先輩たちだ。彼らの活躍でソフィアのゴルフ部は颯爽としていた。汗臭くて、先輩後輩の序列にうるさく、新入部員に厳しいのが大学体育会の通り相場だが、上智のゴルフ部にはその一つとてなかった。センスのいい人たちが集まった、雰囲気の良いサークルだった。

ソフィアゴルフクラブの練習ボールは、木箱に24個入って50円のところ、学生は30円。たまり場の来々軒で一杯30円のラーメンを食べ、コーヒー代は節約して一箱でも多く打った。打ち放しができないときはアプローチショットやパットの練習で時間をつぶす。ここは私にとって一番居心地のいい場所だった。この練習場には一般客も来るので、

そういう時間帯は学生は遠慮した。ある日、オシリの大きな人が見事なアイアンショットをしているところに出くわした。2番・3番アイアンがくりだすその球筋は絶品だった。近寄ってみると巨人軍の大投手・藤本英雄さん（中日に移籍後、中上英雄に改名）、スライダーを投げて活躍していた頃だ。都内唯一の300ヤード打ち放しが名物のソフィアゴルフクラブには、東京でゴルフをしていた有名無名の人ほとんどが集まっていた。早稲田の学生だった息子にバッグを担がせて来ていた佐藤栄作さん（のちの首相）、常連の福田家（上智の隣の料亭）の主人、ダークダックスのお兄さんたち。役者の三木のり平さんがお忍びのつもりか、時折大きな白いマスクをしてやって来たが、かえって目立ってすぐにわかってしまう。勘定を忘れて帰ってしまったり、さすがはお笑いの大物だったが、ゴルフはひどいものだった。

その頃「関東学生ドライビングコンテスト」というイベントをこの練習場で毎年1回開催していた。一流の学生選手たちが上智のグラウンドを訪れ、参加した。持ち球3球で3回ドライバーショットをして、そのうち最長の飛距離で1位から3位までを競った。このユニークな行事も、打ち放しの練習場と環境を備えたソフィアならではのものだった。しかし、私たちが昭和34年に卒業したあと、なぜか開かれなまま消滅してしまった。

昭和32年の晩秋、わが国初めての国際的なゴルフ競技「カナダカップ日本大会」が埼玉県霞が関CC東コースに世界30か国の代表選手を集めておこなわれたことは、学生時代の思い出に深く刻まれている。日本最初のテレビ中継は日本テレビの担当でおこなわれることになり、日本テレビに勤務していた田中哲哉さんの発案で、スタッフにゴルフ部の学生を起用することになった。田中さんがもってきてくれたアルバイトの話にはもちろん二つ返事だった。開催まであと一か月、日本橋三越には各国選手の顔写真や戦歴を紹介したパネルやカナダカップの歴史、優勝カップなどの特設展示コーナーが設けられた。代表選手の名前と顔、戦績を覚えるために何度となく三越へ出向いては、暗記しなければならなかった。十日程前になって、各国選手が続々と羽田国際空港に降り立つようすや、霞が関CCでの練習ラウンドのようが報じられると、いやが上にも雰囲気は高まった。

練習日と競技の四日間は、連日、コースの近くにあるロッジ「山小屋」に泊り込み、あの不思議な熱気のなかに溶け込んでいった。大会中、私はアナウンサーと解説の浅見祿蔵さんらの助手に選ばれて、テレビ中継のブースでモニターに映し出される選手の名前を瞬時に見極めて知らせたり、プレー状況を伝える仕事をした。幸せな日々であった。米国代表サム・スニード、ジミー・ディマレー組はゴルフウェアといいプレー運びといい、どれ一つとっても一級品。

南アフリカ代表のゲーリー・プレーヤーは常識を変えたあの変な形のピンパターを持ち込んで来ていた。オーストラリアのピーター・トムソン、ウエールズのダイ・リース、欧州のベンホーガンとよばれたベルギーのフローリン・ヴァン・ドンクらは歩いているだけで絵になった。すべてがゴルフのカルチュアショックだった。テレビのゴルフ番組などまだなく、わずかにゴルフ写真の中の止まった一コマがスイングの教科書だった時代に、プロのスイングを目の当たりにできる——田中さんのお誘いがなかったら、こんな貴重な現場体験はできなかったとしみじみ感謝した。

団体戦・個人戦ともに初日からトップを走りつづけた日本代表の中村寅吉、小野光一が優勝をさらい、日本ゴルフ史に輝かしい一ページを残した。そして昭和30年代のゴルフ界に爆発的ブームをまきおこしていく。ゴルフ部をもつ大学も年々1校ふえ、2校ふえ、われわれの時代には14校になっていた。野球の6大学をまねて、慶応、早稲田、立教、明治、中央、上智が関東6大学ゴルフを組織して、春と秋に団体戦と個人戦をおこなったが、上智以外はみんなゴルフ同好会だった。そこに行くと、上智はれっきとした大学承認の体育会系のゴルフ部だ。米国からの宣教師が多かったせいもあるのだろう、さすがは先進のソフィアであった。他に先駆けて上智に体育会ゴルフ部を誕生させるきっかけをつくってくれた村田さんの功績も大きい。

当時毎年開かれていた朝日新聞社主催の信夫杯学生ゴルフ競技大会の事前打ち合わせに同期の主将・中島敏夫君が出席した。中島君は、同社企画部でゴルフの世話役だった二宮さんから「上智はゴルフ部の名門なんだから、もっと頑張れ」と激励を受けてきたと報告した。名門と名指しされたことにいささか興奮気味であったようだ。上智大学ゴルフ部が名門であることにいささかも間違いはなかった。

日記について

中島敏夫 (S34卒)



日本人は日記をつける民族という。私もその一人に違いない。中学の二年生の頃からこの年になるまで書き続けている。最近では以前ほどこまめに書くことはないけれど、それでも忘れたときは思い出しながら一週間くらい前までのものは書いてしまう。空白になっているのを見るよりは書き込まれているものを見るほうが心休まる気がする。

日記の効用は書きつくされている。私にとってのそれはやはり備忘録としての効用であろう。それが顕著に現れたのが今回のゴルフ部五十年誌発刊の話だ。待てよ、もしかするとあの頃の記録が残っているかもしれない。ごくごく個人的な、勝手な形での記録ではあるし、大変に偏った内容に違いないとは思われたけれど何かが残っているに違いないと思い、押入れの片隅に押しやられていた日記の山を引っ張り出した。ちょうど六冊ほどになる自分の日記帳を初めて紐解いてみた。なんともいえない強い感動を覚えた。読み返してみると、世相のこと、新聞を通じた世界のニュースや、始まったばかりの上智での生活、その頃読んでいた本のこと、音楽のこと、もちろん人と人とのやり取りなど、その時に一番心に残っていたことを書き留めていたのではないだろうか。何ページにもわたって書き込まれている日記帳は私の財産。金にはとても換算の出来ないもの。目的があって書かれたものではないので赤裸々な状況が何の遠慮もなく書かれていたのが分かる。家庭での、外へは絶対に知られたくないこと、兄弟姉妹六人が一緒に、時には別々に生活していたことで、その間の知られたくないやり取り、親に対する不服不満反抗的な意見など。

そんな中で、寮生活をしていた頃のことを思い出として書かれていた。柏にあったその高校は全寮制で一学年六十人ほどの全国から集まってきた生徒が、三年生を部屋の長にして二年一年と三代が五人ほどの単位で部屋に割り振られていた。先生もちろんその学園の敷地の中で共同の生活をした。そこで女子寮の先生が熱を出して寝込んでしまい、多分、自分で買って出たか頼まれたか、氷を買いに行くことになり、自転車で男子寮の黒パンとあだなを付けられていた先生と二人で暗い夜道をひた走りに走っ

た。途中その二人がはぐれてしまったこと、どぶに足を突っ込んで下駄の鼻緒を切ったこと、意気揚々と引き揚げてきたこと、そんなことがつづられていた。

この話のクライマックスはその後この先生から御礼をされることになったときに、きまり悪さと恥ずかしさで、その場を逃げ出したことであろう。なんとも頼りない高校生ではなかったかと、いまさらながらそんな自分を励ましてやりたい気分になる。

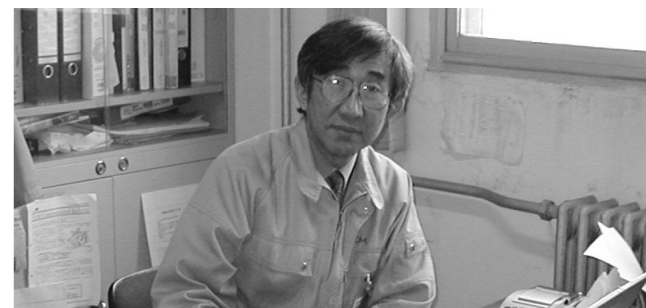
あれから五十年近くを経過して三月二日に東京で同窓会を開くことになった。その席に、あの女史が始めて出席されることになり、お目にかかる。この機会に私の記録を手渡すことにしようと思う。どんな感想をもたれるか。その記録をコピーしたものと、読みやすいようにワープロにしたものと。

活き活きと表現された日記帳は読み物としても楽しいもの。心の裏側を存分にぶちまけて夢の中を飛び回る。遠い山のかなたのまだ見ぬ世界を心に描いて、理想の姿を夢に見る。これからも書き続ける日記。来年あたり、仕事から解放されることがあったら、初めから整理をしてみたいと思っている。中には利害関係の絡む話もあるけれど、全てはもう時効になっていると思っていただろう。私の終生の仕事としてまとめてみたい。



北京生活

小檜山 紀之 (S38年卒)



卒業後、海外勤務が長く、1995年末より2003年初頭まで北京に単身駐在していました。

現在北京周辺には約13のゴルフ場があります。数年前までは数カ所しかなく、かつ費用も高かったため、ゴルフをするのは日本人、韓国人駐在員が中心でしたが、最近ではゴルフ場も増え、費用も安くなった事、さらに個人企業経営者・外資企業勤務幹部を中心に可処分所得が増えた結果か中国人のゴルファーも増えています。私はといえば、米国駐在時代は公私でゴルフの機会が多く、毎週のようにプレーした思い出がありますが、北京では慣れない工場経営で2001年まで駐在員1人という環境であったため休みが少なく、プレーする機会は年に2、3回でした。

ここ数年で中国は世界の生産基地となっており、改革開放が進む一方、ひろく全中国をみると、農村部と都市部、沿岸地域と内陸部などで、格差は拡大しています。わが社の周辺を例にとると、高級車が走る高速道路の近くでは毎日羊飼いが数十頭の羊をつれて散歩しています。社員の住居も格差が大きく、都市住民は3LDKのようなマンションに住んでいる人もいますが、農民戸籍の工具は、TVのおしんが子供の時代に住んでいたような家に住んでいる人が多いようです。



日本から来る人が一様に驚くのは交通事情です。一般道路では自動車・自転車・歩行者が入り乱れており、しかも皆譲る事はしないので、日本の旅行者は横断歩道を渡るの

に苦勞しています。地方からの出稼ぎ労働者が多く、柵を越えて高速道路を歩いて横断する人さえます。会社の運転手に歩行者優先だからとか、直進優先だから譲れと伝えた事がありますが、もし譲ったらいつまでも動けないと言っています。(実際その通り。)北京市は2008年のオリンピックを目標に交通道德の改善を目指しています。例えば、地下鉄では、下りる人が先、乗る人が後とか、エスカレーターでは左側は急ぐ人のために空ける、バスは停留所で待て、車道に出るな、などと放送しています。しかし、地下鉄はドアが開いたら脱兎の如く乗り込んで来る、バスの停留所では警察官がいなくなると大勢が車道に出るなど、現状はまだだ。ゴルフのマナーも想像いただけだと思います。

北京は、秋が9月中旬から11月はじめまでで、11月中旬には暖房が入り静電気に悩まされる冬の到来です。3月中旬になると、強風が吹き、黄砂が事務所内まで入ってきます。その後、迎春花という小さな黄色の花が咲き、順に花桃や桐など色々な花が咲き乱れ春が訪れます。5月から9月中旬までが夏。春秋が短く夏冬が長いのが北京の気候です。街路樹はアカシア・ポプラ・柳が多く、冬は枯れ木の山のように気持ちも暗くなりますが、春が来て綿埃のような種が飛び、葉が出ると気持ちが和みます。



中国の95%を占める漢民族と日本人とは顔がよく似ておりますが、思考は欧米的で個人主義。一方一旦仲間(幫)となれば徹底的に面倒をみるといった仲間意識が非常に強い民族です。些細な事ですが、社会環境・文化慣習の違いから誤解が生じる事があります。日本のベテランの技術指導員は「機械設備を綺麗にするように」と指示をします。工具は「解った」と答えます。1、2ヶ月後に再来して確認すると「もとのまま」。後で解ったのですが、「他社ではもっと汚いので自社の設備は汚いと思っていなかった」という事でした。「毎日終業時にどここの部分を布でふきなさい」と言ったようにマニュアル化する事で解決しました。

オリンピックに備えマンション・道路・地下鉄などの建設ラッシュですが、工事はとにかく早い。家が密集していた地域でも、数ヶ月後には片側3車線の道路が完成。冬でも出稼ぎ労働者は作業現場のテントに泊まり込みで工事は24時間休み無しです。土地が国有地であり、立ち退きは短期間で実現。北京・上海の繁栄とは別に、それを取り巻く広大な農村農民の現状を理解する事が、トータル中国を理解する上の鍵かと思えます。



40年4むかし

瀧川 好庸 (S40年卒)



外国語学部フランス語学科に入学し、ゴルフ部に入ったのが1961年だから、もう40年以上も前のことになる。40年前の話などいまさらと思うのだが、部の歴史の中に残せることもあるかなと思直し、筆を執ることにした。半世紀近くの前のことで記憶もあやふやだ。間違っているところもあるだろう。ご寛恕いただければ嬉しい。

ゴルフ部には高校の先輩に引張り込まれた。そんな状態での入部だったからあまりやる気がない。だから先輩によく叱られていた。入って早々に、今思えばブロック決定の試合だったのだろう、後に一大王国を築く日大との、浮間ゴルフリンクスでの試合の応援に連れて行かれた。この試合に負けて、上智はCブロックになったようだ。ABCの3ブロックしかなかったから、一番下というわけだ。

当時、関西の雄だった甲南大学ゴルフ部に従兄がいて、全日本学生選手権で武蔵カントリー笹井コースにやって来た。応援に行っていっぺんにゴルフの試合に魅せられてしまった。タバコを吸い、茶店で喉を潤し、相手のショットをほめる、この物静かな戦いにまいてしまったのだ。以後少しゴルフに身が入るようになった。

我々1年は6人ほどだったが、下の学年にはなぜだか大勢入部してきた。40人くらいいただろうか。その中にすでに我々より上手いのが3、4人いて、先輩としてはやりにくかった。3、4年生からは1年に負けるぞとしょっちゅういじめられていて、いつやめてやろうかと思っていた。

このころ女子の入部者も多くなっていた。それまで男女一つの部として練習をし合宿をしていて、野球部などに羨ましがられていたが、女子も独立できると判断し、女子だけで独自の練習をし合宿をするようになった。以来この伝統が続いている。

合宿の話がでてきたので、少しだけ触れておこう。書けばきりが無い。合宿は春にも夏にもあったが、だいたい一次、二次、三次とあって、一次は全員合宿で、たいがい太田というゴルフ場だった。ここは米軍の空港跡地に芝生を敷いてゴルフ場にしたところで、真っ平らで木など一本もなく、死ぬほど暑かった。いまでも夢に見る。二次、三次

はセミレギュラー、レギュラー合宿で、コースがよくなった。いまでは信じられないことだが、茨城、筑波、狭山、取手国際、大利根、日光、新軽井沢などだった。40年前だということを頭に置いておいてもらいたい。試合や合宿には制服の学生服着用だったから、行き帰りの電車やバス、タクシーなどでずいぶんいやな思いをしたのは私だけではなかっただろう。宅急便もないからキャディーバッグは自分でかついで行く。学生の方でゴルフなんて、というわけだ。

さて、3年の時、主将をしろと言われた。下手で恥ずかしかったが仕方がない。上級生の命令には逆らえない。それが当時の体育会だった。下手な主将といわれたくないばかりに、練習に励んだ。下級生とも張り合っていたが、別に仲が悪かった訳ではない。むしろ一緒によく遊んだ。飲む、打つ、買うだったが、三つ目のが一番少なかったのは、後輩の名誉のために書いておく。

3年の夏ころから部の雰囲気異常に熱気を帯びてきた。秋のリーグ戦は優勝しかないというのだ。しなかったら主将は坊主になれという。まわりからむりやり練習させられたといっいい。しかし一方で遊ぶのもやめていなかった。当時のCブロックのリーグ戦は1日2ラウンドで、5人出場の上位4人のトータルストロークだった。コースはほとんど取手国際で、平均160ストロークを出せばほぼ確実に優勝だった。これを目指して選手は頑張った。

午前中、私は46、44の90で、皆に申し訳ない思いでいっばいだった。応援に来てくれた後輩たちの目が、遊んでいたからだと言っていた。苦しい思いで午後をスタートして行った。開き直ったからだろうか、いまでもなぜだかわからないのだが、37、39の76という好スコアで回れた。166でほぼ当時の私の実力だった。4番目の男に滑り込み、成城大学に1ストローク差で勝ち、優勝。メンバーは西崎さん、山内、平井、大西、私だった。あのときの胸上げの感触は今でも覚えている。

Bブロックに上がったら一週間新軽井沢でマッチプレーだ。当時の上智は授業の出席が厳しかった。どうしようかなど冗談を言い浮かれていて、入れ替え戦のことを忘れていた。結果は当然のように青山学院に負けC残留になった。翌秋、平井主将を中心にまた優勝。成蹊大学との入れ替え戦に勝てず、また涙を呑んだ。

Bに昇格したのは、私が卒業してフランスにいたときだった。手紙をもらって嬉し泣きした。Bには1年いたのだろうか。益野会長はBでのリーグ戦を経験しているか、Bに上げただけかもしれない。その後私は上智に教員として戻ることになり、ゴルフ部の後輩たちの学生たちとも付き合い、合宿の邪魔をしに行ったこともある。女子の合宿が多かったが、理由は体力的にちょうどいいということにしていた。

50歳のころ、神戸の高等学校の経営を引き継がなければならなくなって、以後、東京－神戸半々の生活の後、いまではほとんど東京には戻らなくなっている。学園の経営を見、同時に滝川第二高校の校長もしているが、この学校は部活動に力を入れている。野球部は甲子園ベスト8、サッカーは国立競技場でベスト4、卓球は11年連続全国大会出場。吹奏楽部が今秋、全国マーチングフェスティバルで金賞を取った。そしてゴルフ部も強い。男女とも毎年全国選手権で那須野ヶ原と霞ヶ関に行く。去年、女子は団体が全国3位だった。軽く全員70台で回ってくるから、私など相手にしてくれない。男子も全国で今年10位だった。卒業生に一人プロがいる。上智大学ゴルフ部の後輩になってほしいのだが、勉強の面でかなりむりだ。

とにかく、私を育ててくれたのは上智大学ゴルフ部だ。いい青春時代だった。先輩・同僚・後輩に感謝している。部長の故山室先生にはずいぶんいろいろなことを教えてもらった。親しくしていただいた方で亡くなった方もおいでだ。ご冥福をお祈りする。上智大学ゴルフ部がますます栄えることを願って筆をおく。皆さんに多謝。

四ツ谷と上智&ME

山田 肇 (S42卒)



両親が教育熱心だったためだと思います、住まいが東中野であったにもかかわらず、私は越境入学で番町小、麴町中とトータル9年間電車通学をしました。当時これはエスカレーターに乗るといって東大への最短コースとしてもてはやされました。私の小学校のクラスでは55名のうち5人が東大へ行き、残りの50名はピラミッドの底辺をそれぞれを持ち場で支えた仲間達です。わがゴルフ部の中にも同期の秋葉さん、一つ下の金子迪子さん、今政界で活躍中の斉藤斗志二さんも同じエスカレーターに乗っていました。

このように四ツ谷周辺は思い出深いなじみの場所です。近所に友達が作れない越境者の“勉強ほどほど組”にとって、上智の土手、雙葉側の土手から線路までの原っぱ、今は迎賓館となっている昔の国立図書館等はかっこうの遊び場で、毎日寄り道をした本当に懐かしい界限です。高校は四ツ谷を離れ目黒へ。高三のある時地下鉄四ツ谷駅ホームから見た上智のグラウンド、学び舎、土手の景色、スポーツをしている学生達、なんとも懐かしくそして新鮮でまた羨ましくドキドキしてしまい“これだ”と上智への進学を決意しました。

忘れもしない私の受験番号は3番、合格発表の日とはとても寒い日で、イグナチオ教会横の道は凍結しており、なんと見事に転び“滑った”と不吉な予感をもったにもかかわらず合格。この3番を見つけた瞬間の喜びは今でも忘れられません。

さて入学が決まりあの憧れのグラウンドでどんなスポーツをすればよいのか情報収集をしました。子供の頃から野球、バスケ、テニス、ラグビーと色々チャレンジし、体型に多少の問題があるものの運動神経には自信がありました。サッカー部の滝先輩いわく、体育会系は高校から或いはジュニアからやっている人達ばかりで入っても長続きしない、しいていえばゴルフ部かなあ。テニス部の松尾先輩いわく結構練習がきつい、留年する人が多いよ。あの地下鉄から見た憧れは理想であり現実との違いが鮮明に…。38年卒の鈴木先輩は姉同士が同級生で入学前に学校を案内していた

だけることになり四ツ谷駅で待ち合わせました。この時の先輩は練習用のクラブバッグを肩に髪をなびかせ颯爽と現れ、その格好のよさはとても良い印象でした。まだゴルフ部に入るとは夢にも思っていませんでしたが。

入学式の日には応援団と柔道部に熱心に勧誘され特に柔道部には部室に連れて行かれ牛乳を御馳走になってしまいました。一方大学生活はクラス分け、オリエンテーション授業と楽しく始まり、勉強よりも人間形成を目指す類が友を呼びグループができ行動をともにするようになりましたが、宮崎さんが大好きな自動車部に、島田さんが何の迷いもなく水泳部に、竹沢さん、長沼さんがいとも簡単にゴルフ部にと、仲間が次々に決断してゆきました。私は根性を鍛えるには柔道部がいいかな、牛乳をご馳走になったことだし、テニスは地下鉄駅から見てもらえるかもしれない、応援団は親に怒られそうだしと思案が長引いておりました。とはいえ鈴木先輩の颯爽感、気の合った竹沢さんの決断、諸先輩方の助言、親の賛成もありゴルフ部に決定しました。練習場へ行き津田先輩からゴルフ部がどういうところが懇切丁寧に指導頂き入部しました。この時の津田さんが几帳面で優しく、信頼できる方だと思ったことが心に残っております。

スキーシーズンが終わったからとゴルフ部に入ってきた本間さん、ボーリング部と掛け持ちだった小林さんと多種多様の42年組が勢揃い、内訳は益野、本間、山室、岩本といった派手な暁星組、三田、西村と地味な理工組、小島、秋葉といった真面目な経済組、竹沢、山田のパンカラ組そして忘れてはいけない、当時とても可愛いければ気も強かった永井、小林、二井、平岡の女性軍。42年組はこうして41年組を密かにやっつけようとする軍団として誕生しました。これが私とゴルフ部の出会いです。

一年の時の練習は手のひらが豆、皮剥けだらけ、苦手なマラソン、夏のアルバイト、強化練習、太田の一次合宿、強化練習、姉ヶ崎の新人合宿と忙しい夏休みでしたが、いっこうにゴルフは上達しませんでした。ただ一つ良かった事は81キロあった体重が68キロになりジーンズがはけるようになった事です。

12月の月例でハンディ36ならではの初優勝、納会の時山室先生(当時ゴルフ部部長)に「おめでとう、いくつで回ったの」と聞かれ215(2ラウンド)と誇らしげに答えましたがコメントなし、何の数字だかお解りいただけなかったのだと思います。今も親友として家族付き合いをしている瀬古さんとの出会いも印象的でした。山室さんと練習場でブラブラしている所へ大きな学生服姿の彼がぬっと現れ生意気な感じで入部を希望、ゴルフが上手そうで、我々にとって初めての後輩という事もあり、少々いじめようと山室さんと誓いました。がスポーツは実力の世界、逆に彼の存在で負けられないと練習に励んだものです。夏の太田の合

宿、名門霞ヶ関、箱根での合宿、日大、立教、東洋大との定期戦、現在プロになった新井さん、城島さん、西田さん、沼沢さん、山田(健一)さんらとのマッチプレー、ゴルフ部での思い出は尽きません。お陰様で、同期、先輩、後輩と多くの人と出会い、そして世間の方々よりゴルフが幾分上手いこと、人に教える事ができること、社会に出てこれを大いに利用する事ができました。卒業後ロスに駐在した時が生涯で最も上手な時でした。人に教える喜び、教える事によって自分も向上する発見、手を抜くと必ずしっぺ返しがかかる事実、まさにゴルフは人生の縮図です。

2年後は60歳の還暦を迎えます。あのゴルフ部との出会い、先輩、同輩、後輩に出会った時に戻り、初々しいゴルフへ出直そうと決心しました。

私と一緒に還暦を迎える同期の皆さん、先輩、“Why don't you join me?”

ゴルフと良き仲間達

北村 茂 (S45卒)



筆者は左、46年卒長谷川 均さんと

ゴルフ部の五十年誌ですから、当然ゴルフに関して書かねばならないわけですが、現在私は一年半ほどクラブを握っていません。理由は簡単で、アプローチでのランニングが出来なくなり、スコアメイクどころではなくなってしまったからです。

学生時代の私のゴルフを御存知の方はおわかりでしょうが、私はロングショットは苦手で、アプローチとパターが命のゴルフをしていました。現役中は、家に芝生の庭があり、暇があればピッチエンドランの練習を暗くなるまで飽きずにやっていました。当時はまだゲーリー・プレーヤーが元気で、プレーヤー自身の練習をまねて、三回打って全てノーズロ（チップインのこと。その昔、白木屋の火事で女子店員がノーズローズでシェルターを使って避難したことが語源なのを知っている今の現役は、いないと思います）で終らないと、その日の練習はやめませんでした。

そして卒業してから武蔵野GCに入会し、当時はよく月例にも出ていましたし、仕事も営業をしていた関係でよくプレーをし、しかもゴルフを楽しんでいました。

それがある時、魔法のサンドウェッジを手にしてから悲劇が始まりました。ピッチショットをすれば、いつでもピタッとピンそばに寄るそのクラブは、もう手元から離すことが出来なくなり、知らず知らずランニングショットが打てなくなり、それをカバーするために、無理にテキサスウェッジを多用し、しまいには一番得意なパッティングまでおかしくしてしまったのです。そうなるスコアはまともならず、プレーすることが苦痛に感じるようになってしまいました。長々とゴルフから離れた言い訳を書いて申しわけありません。最近では昔プレーしたテニスをカミさんと楽しんでおりますが、いずれ気楽な気持ちでゴルフをしたいと考えています。さて気を取り直して楽しかった現役時代の思い出を書かせて頂きます。

○ゴルフ部に入ったキッカケは、二年生の時、当時まだあったカマボコ校舎の前で福岡先輩に強引に勧誘されました。

○初めての合宿は、あの太田GCでした。プレー前夜にフ

トンの中で、スコアカードを片手に翌日の作戦を練っており、後日その熱心さに同室だった横田にからかわれました。○取手国際の合宿では、同組の小倉先輩が6～7番手でホールインワンをしたっけ。ティーグラウンドからホールへ向かう時の、小倉さんの歩くというより、チョウチョのように跳びはねていた姿は、今でも頭に焼きついております。

○個人練習で佐藤のコロナで多摩川へ行き、その帰りは神楽坂の料亭で（実は佐藤の家でした）徹マンを白田、横田、鈴木（元紀）、仙波とよくやりました。

○真夏に草津カントリーでアルバイトをしたこと。休憩所でお客さんから頂いた冷たいジュースのおいしかったこと。そしてプレー終了後は、そのおじさんから「御苦労だったね」とねぎらってもらい爽快な気分になったこと。

○今はない新宿ゴールデン街の「V」で元紀のギターでフォークソングを皆でよく歌いました。主将の興語はいつも「思い出の渚」ばかり。

○学連委員をやって得したこと。当時高校（暁星）同期の小林が日大の学連委員長で、千葉カントリーで日大と学習院の合同合宿があり、それに呼ばれて興語と佐藤とで参加し、当時常勝の日大の面々（片山康もいたと思う）とプレーが出来ました。

○2ラウンドハーフやりキャディーマスターに睨まれたこと。ある夏、後輩の長谷川、佐藤の両君と新袖ヶ浦へ行き、朝一番にセルフカートでスタートし、最後の最後にあがってきた次第。それにしても当時はタフでありました。

○仲間と麴町の自宅でよくコンパをしました。同期の仲間や後輩の長谷川、菊地、アミ、カトケン、ヤマ、アコ、ハマ達を呼んで場所代なしの飲み会をよくやりました。それにしても一番ヒドイのは長谷川君で、昼飯代、飲み代がなくなると、決って、「北村先輩…」と言って家にころがりこんできました。

○創部40周年記念コンペに細川首相夫人が参加。とにかく盛大なコンペでした。そしてアミとカトケンとラウンドし、久し振りに旧交を暖めました。アミちゃん（丹羽あともさん）とはその後、彼女の個展を毎回見に行かせてもらっていますが、とてもインプレッシブな画風なので、興味のある方は、足を運んであげてください。

いずれにしても、ゴルフ部に在席して、沢山の良い仲間と出会え、しかも現在も付き合えることに感謝している次第です。



「オニマメ」が生まれたワケ

長島 真弓 (S45年卒)



筆者は右、48年卒永井恵子さんと

この度は創部50周年、誠にありがとうございます。ひと口に50年と申しましても、自らの年を考えますと、これは大変な歴史であり、その中の一員として、4年間という時間を先輩や仲間と共に過ごせましたことをとても感謝しております。

いろいろ振り返ってみますと、土手下のゴルフ練習場での思い出は、もちろん懐かしいものばかりです。例えば、型のあるゴルフボールを探して打つのはとてもむずかしくて大変だったことなど、数えれば切りがありません。

1年生の頃の愉快な思い出の一つに、当時仏語科にコワイ先生だったリーチ氏がおられました。1年生で新米だった私は、ある時、4年生のユミ、3年生のマーチャン、2年生のモコとノリでクラブを担いでトレパン姿で練習場から意気揚々と学校へもどってきたところ、バツリとそのリーチ先生とハチ合わせ！ 特にユミとモコは仏語科で、リーチ先生から「ゴルフなんて！」と言った感じで睨まれているという話を聞かされていたものですから、その瞬間、皆フリーズ状態?と思いきや、ユミとモコはまるで忍者の如く、あっという間に隠れてしまいました。残された我々は顔を引きつらせながら先生にご挨拶したのですが、返ってきたのはやはりニコリともしないコワイ顔でした。それ以来、仏語科と関係ない私も、先生を見かけると、サッと身を隠す術を身につけることが出来たという訳です。

さて、ある年の春合宿は箱根ですることになりました。当時、女子ゴルフはまだまだめずらしく、学生の試合、例えば全日本、関東学生、団体戦などでも、とても由緒ある古いゴルフクラブでやらせて頂くことが出来て本当に恵まれていたといえるでしょう。練習も含め、霞ヶ関カントリー、筑波カントリー、桑名や和倉と懐かしく思い出されませう。ところでその春の箱根での出来事。その日は朝から霧と雨。なかなか止みそうもないので当時のキャプテンだったマーチャンが決断を下し、「今日は練習なし」に。ところが、元気な女子達の事、雨空を見上げて、「つまらないなー」ということでレコードをかけ、聴くだけでなくゴ

ーゴードダンスで大いに盛り上がり、大騒動になりました。後で反省しきりでしたが、本当に楽しい一時でした。

その後、二人しか居なかった3年生のノリと私は、当然どうしてもどちらかが「キャプテン」にならざるを得ず、その器でなかった私にゆだねられる事になり悩んでしまいました。ところが、当時付き合っていた、現在の主人に相談したところ、なんと、「絶対に歯を見せるな」と申すではありませんか！ それからが大変。どうやったら歯を見せずにコワイ顔になるか鏡で研究。そのかいあって(?)「オニマメ」が生まれた訳ですが、後輩の方々には迷惑な話で、気の毒なことをしたと思っていますし、穴があったら入りたい心境です。ちなみに主人にその話をすると、「オレそんな事言ったかな？」と申すではありませんか！ 年はとりたくない、自分の事を棚に上げて思う昨今です。

【編集室追記】

長島さんは上智には珍しいジュニア出身のゴルファー。中学1年のとき父の仕事の関係でブラジルのリオデジャネイロ市、アングロアメリカノ中学に入学。高校1年のとき「イタニアン・ゴルフクラブ」のメンバーであった父親からゴルフを伝授される。彼女は、サンパウロ時代の西田升平（現在プロゴルファー）に会っているそう。西田は当時16歳でハンデ6。<ゴルフの神童>としてサンパウロ市内ではすでに有名であったとか…。昭和38年に帰国、41年に上智大入学。1年のときから主力メンバー。43年の関東女子学生選手権（霞ヶ関CC）で6位、44年には全日本女子学生選手権（城陽CC）で4位（262ストローク）に入賞した。

（昭和45年刊行『ゴルフ春秋』・「学生ゴルフの伝統を探る／第17回・上智大学ゴルフ部の巻」より抜粋）

先輩同輩後輩に感謝

白石 俊明氏 (S48年卒)



ゴルフ部創部50周年おめでとうございます。ちょうど30年前、The 19th HOLE 20周年記念号を昭和48年卒業の一員として作成しました。あれから30年の時が過ぎ、団塊の世代の私も50代の半ばに近づいて、時々自分の来た道を振り返ってみたりする歳になりました。

今、手許にその薄緑色の表紙の20周年記念号があります。読み返してみればその当時、なんていい時代を過ごすことが出来たのかと感慨深く思い出されます。今になってそんな時代を過ごすことの出来たことを素直に感謝しています。親はもちろん、大学そのものも。中でもゴルフ部の先輩方や同輩後輩に。

昨年9月に2年先輩の長谷川さんや菊池さん、三木さん、浅野さんと48年卒とで水海道でゴルフをしました。先輩方は学生時代と同様あるいはそれ以上に円熟した(枯れた?)ゴルフでした。その点、大学時代からヘタな私は散々な成績でしたが、いつか学生時代に戻って何か大事なものに触れることが出来たような気がしました。

その後大阪へ転勤となり、なかなかお会いする機会もなくなりましたが、たまにメールを交換させていただいています。同期の方も東京勤務の頃は板倉氏が幹事役で時々会って一杯やる機会もありましたが、大阪に来てからはめったに会う機会もなく一年余りが過ぎました。ところがつい先日、その板倉氏の呼び掛けで大阪で白根氏と三人で久しぶりに会うことが出来ました。昔に戻って曽根崎あたり一杯飲み屋で酒を酌み交わし、昔話に花を咲かせて楽しいひとときを過ごしました。

肝心のゴルフの方はあい変わらずの腕で、ハンディキャップも25のままです。恥ずかしいかぎりですが、こうして卒業後30年も経って学生時代の先輩、同輩、後輩にお会い出来ることはほんとうに有り難いことだと感謝をしている今日この頃です。

ゴルフと私

西野 雅久子 (S51年卒)



私は最近、ゴルフをプレーするのが大好きになってしまった。ゴルフ部OGとして、またゴルフ場経営者としてこのような言い方はとても変に聞こえるかもしれないが事実だから仕方がない。ゴルフを始めたのは15歳の昭和39年、亡父が沼津の地、愛鷹山の麓にゴルフ場をオープンした年である。丁度、東名高速道路が開通した年の6月。「貴方もゴルフしなさい」と父がワンセット買い揃えてくれたの半ば強制的スタートであった。以来35年ゴルフと関わってきたわけである。しかし、以前はゴルフがあまり好きになれなかった、特にゴルフ部4年間は。ゴルフがどうしても上手くなりたくて入部したのだが、部活を続けていくうちに情熱が無くなってしまい苦痛になってしまったことが、逆に私がゴルフに反発した理由だ。健康を害した事、人間関係等いろいろあったが、今思うと総て自分が引き起こしたことで私自身の責任である。ともかくその時は総てを他人のせいにし、現実から逃避しようとしていた。そのような状況下でゴルフなど愛する気持ちにもなれず、卒業した時はこれでゴルフとおさらばとホッとした思いであった。よくも途中で投げ出さなかったと思うし、また投げ出さなくて良かったとつくづく思っている。これはいろいろな意味で私を支えてくれた同僚のお蔭と心から感謝している。そうでなかったら、現在同級生は勿論、諸先輩の方々と垣根なくお付き合いさせていただき、愉快的人間関係を築くことも絶対にありえなかったであろう。

では、なぜこんな私がゴルフを愛するようになったか。平成4年11月に父が急逝し、会社を引き継ぐことになって、当然のことながらゴルフ場経営者としてプレーする機会が増えた。私たちグループ会社は件の愛鷹カントリー、茨城のセントラルゴルフクラブ、JTコース、そして栃木の関東国際カントリーと全99ホールズのゴルフ場経営、中南米を主とする貿易業務、船舶関係の仕事に従事しているが、総売上半分以上がゴルフ場で、ゴルフが我々の基幹産業である。まさに生活の糧である。父亡き後、西野グループのオーナー兼代表者としての責任ある立場からゴルフと真摯に向き合うことがとても重要になった。日本の厳しい経

済環境の中ゴルフ場は大変難しい経営を強いられている。特にうちのように都心から比較的遠距離にあるゴルフ場は客単価の低下、来場者の減少で利益を上げることがとても難しい。加えて、預託金の変換問題が経営を圧迫し法的整理に再生の道を見出す経営者が増加している。そのような状況下、私も経営者の一人として生き残りに懸命になっている。メンバーから愛されるクラブ運営、プレーヤーから認められる上質なコース管理は絶対に維持しなくてはならないプライオリティーである。経営を引き継いで10年、このことを第一にしつつ今日の時代のニーズにあったゴルフ場運営を心がけ経営の合理化を実行してきた。レジャーの多様化による若年層のゴルフ離れ、プロのトーナメントの減少等、ゴルフを取り巻く環境は厳しさを増す一方であるが、ボーリングの様に衰退の一途をたどることは絶対にありえないと思っている。

デフレ経済の影響を真っ向から受けている今このときを、ゴルフ関係者は真の国民的スポーツとして発展させる絶好の機会にするべきである。ゴルフ場事業者はじめ、日本プロゴルフ協会、プロトーナメント協会、日本ゴルフ協会、そして用品協会等関係団体が一丸となって、この素晴らしいスポーツであるゴルフを一人でも多くの人に楽しんでもらうためにはどうしたら良いかを真剣に議論すべきではないか。ゴルフ場利用税の撤廃運動が盛んに行われているが、財政が枯渇する中、地方自治にとっては貴重な財源を簡単に手放すとは思えない。であるならば、積極的に行政を巻き込んでのゴルフ活性化計画なるものを考えたらどうか。ありのままを受け入れる自己責任のスポーツであるゴルフの素晴らしさをもっと学校教育の場に活かすべきだと思う。実践の場としてゴルフ場を生徒に無料で提供し、そのみかえりとして生徒はコースの清掃、草むしり等の労働奉仕をする。レッスンはプロ協会のインストラクターにお願いしても良い。クラブは用品業界の協力で格安に譲ってもらおうか、メンバーの使用しなくなったお古をいただくか。ゴルフ場は将来のメンバー、ビジターを養成でき、生徒たちはゴルフを通して自己責任を徹底的に学ぶ。また、ゴルフ場メンテナンスの大変さを労働をすることにより理解する。コースを大事にする行為は自然を尊ぶ心を養う。ゴルフは教育をもってこいのスポーツと思う。

地元の自治体が倒産したゴルフ場を買収しても良いのではないか。運営は民間にアウトソーシングすればよい。あるいは、ごみの焼却灰の管理場所としてコースの地下部分を利用したらどうであろうか。コース上には建造物は建たないし、灰をゴムシート等で密閉し空気に触れさせないようにすれば汚染物質が漏れいするの防げる。将来、処理方法が確立された時には簡単に掘り起こすことが出来る。地方自治体は焼却灰の処理に四苦八苦しているのだから。因みに、セントラルゴルフコース、東7番ホールティーグ

ランド横で、茨城県、セントラルが立地する麻生町の協力を得てコンポスト工場を展開している。ゴルフ場内はもとより県内で排出される刈草、切り枝、落ち葉、切り株等の産業廃棄物を処理し堆肥を生産している。これは地元自治体の既存の処理施設の負担を軽くすること、また肥料を地元農家に安価で提供でき、地域社会に多少なりとも貢献できると考えている。このように広大な土地を有するゴルフ場はあらゆる可能性を秘めている。本来は、メンバーから集めたお金はゴルフ場建設に投下されているのだから永久債である。にも拘らず預託金制度を認めた行政の免罪符として民事再生法を奨励し、外資のマネーゲームの餌食となるのを指をくわえて眺めているのではなく、教育制度、そして深刻化するごみ問題を含む環境事業にゴルフを、そしてゴルフ場を有効に利用したらどうだろう。メンバーだけが損をし、外資が得する現在の状況より遥かに発展的で有意義である。

こうして私は今ゴルフにどっぷり浸かっている。この厳しい難局のなかでより良い結果を出すため毎日が戦争である。私も含めてゴルフ場事業者を表現するならば、若い時は筋肉肉質であったが、暴飲暴食と運動不足ですっかり筋肉が落ち、体力も衰えてしまった中高年がもう一度鍛えなおして筋肉質な体格に作り直さなければ将来はない、と言ったところだろうか。落ちてしまった筋肉をもう一度つけなおしてアスリートになることは、至難の業だ。私の場合、選択肢がないのだからやるしかない。どうせやるなら明るく笑ってやろうじゃないのと開き直っている。諸行無常、世の中のあらゆる事は移り変わって行くもの。「あの時あんな大変な時もあったね」といって笑い話に出来るようあらゆる可能性を考え最善を尽くしている。このようなスリリングな時代に仕事出来るなんて最高の幸せと自分に言い聞かせ鼓舞している今日この頃だ。仕事はいつかは辞めるが、私人としては生涯ゴルフを友に楽しみたいと思っている、勿論ゴルフ部の皆さんと一緒に。

「山室イズム」を後輩に

中戸川 洋 (S52年卒)



冒頭から私事で恐縮ですが、昨年は大学より銀祝を賜り、重ねて本年はゴルフ部の創立50周年、卒業後お会いすることが出来なかった方々と親しく旧交を温める機会を頂き、私にとって、昭和52年卒の同期にとって喜ばしい年が過ぎました。上智大学、特にゴルフ部に在籍できたことにあらためて感謝です。50周年事業にご尽力頂きました、益野会長はじめOB会役員の皆様、実行委員の皆様にご心より敬意を表します。

私は、縁ありまして、昭和60年より足掛け10年、監督を努めさせて頂きましたが、仕事の合間に小田原からということもあり、年に数回顔を出すだけの、まさに名ばかりの監督であったと、当時の現役諸君には申し訳なく思います。そんな頼りない監督であった私が、現役に何よりも伝えたかったことは、上智大学ゴルフ部の伝統です。50年前にゴルフ部の歴史が始まったその時から、山室先生は「エチケットとマナー」のお話を繰り返し繰り返しされていたことでしょう。私が入部した30年前も、新入生歓迎コンパや納会、追い出しコンパなどセレモニーでのご挨拶は必ず「エチケットとマナー」でした。

しかし、私自身、現役時代はグッドマナーを実践していたとはとても言えません。どうしてもスコアのことに頭が行ってしまったのでしょう。そんな折、卒業前後に山室先生をはじめ、大先輩諸兄と度々プレーする機会に恵まれ、一日を共にする中で、プレー態度はもちろんのこと、他人へのおもいやり、コースへの愛情、ハウスの利用にいたるまで、ゴルフというスポーツをあらためて学び、自分なりに山室先生の教えを理解できた思いでした。それは、卒業してからの長い人生で必ず役に立つ、そして、身につけなければならない「エチケットとマナー」をゴルフというスポーツを通して学びなさい、ということです。私は、山室先生の「エチケットとマナー」の教えこそ、上智大学ゴルフ部の伝統だと確信し、当時日経に連載されていた、金田武明さんの「ぐりーんざろん」から引用させて頂いたりしながら、監督時代現役にことあるごとに伝えてきたつもりです。

OB、OGの皆様も一人一人それぞれに、山室先生の教えについての思いがあることと思います。50周年を機に今は亡き山室先生の教えを、あらためて上智大学ゴルフ部の伝統として現役に伝えていきたいと思っています。

[編集室付記]

中戸川さんは監督在任中、何度となく現役の合宿に参加、指導してくださいました。昭和62年の秋に女子がCブロックに降格、翌年春のリーグ戦から黒磯CCで闘うことになりました。長年Bブロックだった上智は「夏は那須小川・春は矢板」が定番でしたので、「黒磯って、どこ？」という感じで、一から戦略を練らねばなりません。そのときに試合の激励とコース戦略指導のため、中戸川さんは遠く黒磯まで足を運んでくださったのです。

黒磯CCは箱庭のような狭さ、スキー場のようなアップダウン、100ヤード以下のショートもある距離の短さ、すべてが驚きのコースで、40も出れば60も叩く、そんな不思議なコースでした。厳寒の2月、中戸川さんは女子と飛距離を合わせるためにキャディバッグのなかに6番以下のアイアンだけを入れ、OBと闘いながらラウンドし、パッティングやアプローチを丁寧に教えてくださいました。その頼りがいのある大きなお身体は、いまま脳裏に焼き付いています。

春のリーグ戦は雪で2日目が無くなるというめずらしい試合となり、結果は4位でしたが、女子一同、感謝しております。(H3年卒渡利)

Enjoy the Game & Life

佐渡 充高 (S57年卒)



創部50周年という伝統を誇る上智大学ゴルフ部のOBであることを心から誇りに思います。諸先輩方には卒業後もサポートをいただき心から感謝しております。

僕は16歳からゴルフをはじめ、大学に入学した際には授業のオリエンテーションより先にゴルフ部へ入部を申し込みました。在学中の4年間はゴルフ漬け。履歴書に「ゴルフ部卒業」と書かねばならないほどでした。ゴルフ部の毎日があまりに楽しすぎたため、ゴルフから離れた生活が考えられず、卒業後もゴルフ関係の仕事に携わるようになりました。

特に海外ゴルフへの興味と憧れを強くしたのは在学中にしたキャディでした。“上智の学生は英語ができる”という誤解(?)があったのか、太平洋クラブマスターズで当時、今のタイガー・ウッズ級の人気と実力だったトム・ワトソン(2位タイ)やギル・モーガン(優勝)のキャディをする機会に恵まれ、間近に接するスーパースターのプレイはもちろん、その人柄にも魅了されました。ワトソンは「ハワイアンオープンを見においで」と航空券まで用意してくれました。85年に渡米し再会した時は二人とも「やっぱり来たか」と笑って歓迎してくれました。昨年、ある日突然ワトソンから「親愛なる前キャディへ」と添え書きされた写真が届きました。今もあの頃の事を懐かしんでいるようです。

渡米し取材をするうちに選手はもちろん、実に多くの人たちに出会いました。ゴルフは政界財界をはじめ、芸能人、文化人、スポーツ選手などが一同に集うことのできる唯一のコンタクトスポーツです。アカデミー賞でもグラミー賞でも、ここまでの著名人を一度に集めることは難しい、というほどの豪華で稀にみる組み合わせなのです。プロアマ戦ではフォード、ブッシュSr.、クリントンの歴代大統領のゴルフも見ました。特にブッシュSr.の大きくスライスした打球はワンバウンドして僕の膝に命中。あまりの痛さと危険を感じてすぐにコースを後にしました。(笑)

古くは試合のホストをしていたサミー・デービスJr.、ボブ・ホープ、ジャック・レモン。昨今はビル・ゲイツ、マ

イケル・ジョーダン、NYヤンキースのジョー・トレ監督、クリント・イーストウッド、ケニーG、アリス・クーパー、イヴァン・レンドル、ジミー・コナーズ、ダンサーのミハイル・バリシニコフなどありとあらゆる著名人の「ゴルファー」の姿を見てきました。それぞれスウィングにもゴルフにも個性が出ていて楽しいですが、揃いに揃ってあまりのゴルフ好きにいつも驚きます。

高齢で滅多に会えないはずの名匠ロバート・トレント・ジョーンズには94年のUSオープンの際にホテルのロビーで偶然出会いました。走りよって挨拶をすると、歩行機から右手を離し握手を求めてくれました。フレンドリーで優しさにあふれ、彼が創り出す雄大なコースそのものの人柄でした。

ジーン・サラゼンは93年サウスカロライナ州のヒルトンヘッド会ったのが最後となりました。記者会見にはトレードマークのニッカーズスタイルで現れ、前週に開催されたマスターズでのチップ・ベックについて質問が飛び、(優勝争いをしてきたベックは15番パー5の2打目でグリーンを狙わず3オン。ドイツのベルンハルト・ランガーが優勝。ベックの選択にマスコミは「卑怯者」「臆病」などと書きたてた)サラゼンは「勝利の女神はむやみに実力以上を求める者より、自分の実力をどう生かすかを考える者に微笑むものだ」と悠然と答えました。僕はその言葉も声も今もはっきり憶えています。そのサラゼンの言葉に対しベックは「彼は単なるメジャーチャンピオンではない。人生を教えるチャンピオンでもある」と述べました。

特にPGAツアーは選手がクローズアップされてしましますが、試合にかかわる様々な人たち、選手を含め、みんな大きな家族、というか仲間という一体感があります。

記者という立場であっても「ツアーの仲間」として助けられ励まされてきました。旅先ではハブニングはつきもので、選手や関係者の豪邸からキャディの相部屋のソファまでいろんな所に泊めてもらったり、移動に困っている時にボランティアで来ていた人に遠方にもかかわらず車に乗せてもらったり。選手のみならずカーティス・ストレンジの母親と義父には会う度にアイスクリームを、マーク・オメーラの父親には必ず「一杯いこう」と酒をご馳走にもなります。移動の飛行機で一緒になると夫人から選手の愚痴を聞かされたり、買い物頼まれたりも。

というわけで、僕は今も上智大学ゴルフ部の延長線上でゴルフを楽しむ学ぶ毎日を送っております。

もう一花咲かせたい

稲垣 善雄 (S58年卒)



1993年1月17日、この日USPGAツアーで一人の男が頂点に立った。その名は、ハワード・トゥイッティである。場所は、1983年に青木功が最終日の18番ホールで大逆転のイーグルで優勝したワイアラエカントリークラブ、つまり、ハワイアンオープンでの出来事である。この優勝は、私にとって一生忘れられないものとなってしまったのです。

私が大学4年生（1982年）の時、最初で最後のトーナメントキャディーを務めたのがトゥイッティ氏です。場所は、当時大挙して出かけた『太平洋クラブマスターズ』で知られる太平洋クラブ御殿場コース（Bogey News Vol.4で紹介された加藤君と同じ場所）で、前評判としては192cmの長身から繰り出すパワーと、小技とパッティングのうまさで急成長の一人ということでもかなり期待していましたが、結果の方は40位くらいだったと記憶しています。しかし、1日目・2日目とジャンボ尾崎（小学校5年の時から豪快なショットで大変魅力を感じていて熱烈なファンでした）と同じ組で回れたことの方が良き思い出となっています。その後活躍の噂は聞こえてこなかったのですが、大学を卒業して10年たった頃何気なくつけたBS放送で、トゥイッティ氏の名前が上位にあるではありませんか！ それも優勝争いをしているではありませんか！ あのときの胸の高鳴りは今でも忘れません。結局、2~3（？）打差をつけて優勝を手にしたのです。トゥイッティ氏には、1979年と1980年にUSPGAツアーで優勝経験がありますが、もう一度優勝カップを手にした！もう一花咲かせたい！という思いがあったのだと思います。トゥイッティ氏にとって、優勝するまでには辛い事や苦しい事が数多くあったと思うのですが、幾多の困難を乗り越え“優勝”という夢に向かってボールを打ち続けたことでしょうか。再び優勝カップを手にする事を夢見て…。

私はアマチュアゴルファーとして神奈川県の大大会（準決勝に進出したことが2回だけで、決勝には進出していません。1989年卒業の森君も参加しているようです）や横浜市の大会（決勝に進出したことが2回ほどあります）に参加しています。今は、ゴルフ熱が冷めてきたこととパソコン

にのめり込んでいることと仕事と子育てに忙しいものから練習もろくにできないですが、50歳や60歳でもドライバーで280ヤード以上がながん飛ばしている人（冗談でなく本当にいるのです！ 平均して40~50ヤードもおいていかれたことがあるのです。こちらは250ヤード位飛んでいると思うのですが…）もいるくらいですから、5年後、10年後にはますますパワーアップしてゴルフでもう一花咲かせるぞ！ 優勝カップを手にするぞ！ 夢を現実に変えてやる！ いつまでも、いつまでも、夢を追いかけて行くこと。それが“青春”だと信じます！



現役時代の仲間

憧れのまとなれ

渡辺 孝 (S58年卒)



年間100ラウンドは、当たり前だった現役時代。就職して、それが10分の1になっていた。都内の私立女子校（武蔵野中学・高等学校）で、社会科の教師になり、時々仲間とゴルフをしながら、「体力、有りあまってるんだけどなあ」と、ぼやいていたものだった。就職3年目のある日、理事長でもある校長に、ひとつ頼みがあると呼び出された。「タカシ、お前、うちの中高にゴルフ部を創らないか？ お嬢さん学校ってイメージに、ちょっと体育会系の味をつけたいんだ。」

校長はオフィシャルハンディ6の腕前だ。「あの、僕確かに体育会ゴルフ部でしたが上智ですよ。」「分かって言ってるんだ。ちょうどいいじゃないか。強くしてくれと言ってるんじゃない。皆が憧れるような人気部活で、しかも、挨拶がしっかりできるようならそれでいい。」後で振り返ると、この言葉でゴルフ部の基本方針ができあがっていた。エチケットがもっとも重要。次にルール。審判は自分自身である。ゴルフを通して学んで欲しいこと、それは人の生き方そのものだった。

中1から高3生まで、1人1人手を取って教えた。上手に打てなくても、そんなに悔しがらなくていい、また明日教えてあげるよ。今回は、きちんと挨拶できた、それでいい。創部から7年間、部員の中には80台でラウンドできる者もちらほら出てきた。このころバブル花盛りのこともあって、ゴルフ部には600人を越える入部希望者がいた。まさに、皆が憧れる人気部活になっていたのだ。しかしゴルフ部のスタイルは少しも変わっていなかった。変わったことは、先輩が後輩を面倒みるシステムができあがったことだった。

そんなある日、中1からゴルフを始めて、もうすぐ中学を卒業する生徒が相談に来た。「先生、武蔵野も高ゴ連（全国高等学校ゴルフ連盟）に入って団体戦に出場しませんか？」

今までも個人戦参加は奨励していたが、高ゴ連に入会しての団体戦には積極的になれない理由があった。これは僕の個人的な見解だが、高ゴ連に限らず政治的な臭いの組織や特権をもつ団体には近づきたくなかった。優秀な選手を

もつチームの監督には、必ずといっていいほどスポンサーが出現する。そしてこれは本当に気づかぬ間に、皆が皆初心をどこかに忘れて来てしまうものらしい。

「今年どこまでやれるか分らないけど、君が高3になるまでに、武蔵野を強くしよう。ただし、僕は監督登録しないぞ。組織に縛られたくないんだ。皆が憧れるチームを創ろう。」

その子が高1に進級し、団体戦によいよ参戦することになった。選手5人のうち、上位4人の合計スコアで競う団体戦は、関東大会を突破して、全国大会（みどりの甲子園）に駒を進めた。もちろん上位には入れなかったが、チームを一層結束させた。

女子高生とはいえ（女子中学生も同じ）、合宿となると2泊3日で、5ラウンドし、しかも最終日は目土をして帰る、かなりハードな内容だった。夏休み中は、試合の合間に、4クルールの合宿をし、試合会場となるゴルフ場については選手がそれぞれ練習ラウンドの際にデータを集めた。

そして3年後、彼女は高3。チームの主将になっていた。チームを強くしようと思ってから、約束の3年目だった。関東大会を順調に突破し、全国大会。最終的な戦力分析を全員でした。もちろんチームのメンバーである。選手は5人、登録は6人。そして採用スコアは上位4人分の合計。武蔵野には80を切る実力をもつ7人の優秀な選手がいた。その中から、高校1年生3名、2年生1名、3年生2名を登録メンバーに選んだ。調子のいい者から4人のスコア。目標は平均77に決めた。試合は2日間。初日のスコアはまさにその77平均だった。2日目もチームベストの戦いだった。結果は全国2位、準優勝だった。

まさか、ここまでやれると思わなかった。大会期間中、もっとも明るく、もっとも尊敬されたチームだった。そして皆が憧れるチームになっていた。

主将、西川みさと、副将、西川藍、2人は姉妹でも親類でもないが、尊敬し合う先輩と後輩である。昨年、そろって女子プロゴルファーの仲間入りをした。勝負は時の運。勝つことよりも、皆が憧れる選手になって欲しい。そうして、エチケットが一番。次にルール。審判は自分自身であることを、忘れないでいて欲しい。



転勤族のゴルフ事情

三徳 隆司、木村 卓爾 (H3年卒)



年明け早々の一本の電話。

三徳：「キムちゃん、助けてよ〜。」

木村：「三徳…？久しぶりだな〜。しかし相変わらずだな。50周年の原稿のことか？」

三徳：「ウン、書いたことは書いたんだけど50周年の趣旨とは違うものしか書けないよ。感動させる話も書けないし、上手く書けない。正月気分も吹っ飛んでるよ。おかげでイノキボンバイエも熱中できなかつたし…。とりあえず出してみるけどキムちゃんなんとかして、というよりキムちゃん書いてえん、矢板の時、昼飯ごちそうするから。」

木村：「は？『皆様、50周年おめでとうございます。この度は記念すべき〜』とか適当に書けばいいんじゃないの？題はなんだっけ？」

三徳：「確か『転勤族のゴルフ事情・海外コースでのプレイとかサラリーマンゴルファーとしてよかったこと、体験談など』だと思ったけど…。」

木村：「なんだ、お前にぴったりじゃん。お前、確か今まで名古屋、京都、高知、東京、仙台と転勤したよな？どんなコース回ってたんだよ？」

三徳：「名古屋は“和合”“三好”。京都はあんまり記憶なくて、高知は“土佐”“黒潮”。東京はゴルフなんか忙しくてできなかった。今の仙台は“東蔵王”“表蔵王”“レインボーヒルズ”あたりをよく廻ってる。でも一番良かったのはやっぱり“土佐”だね。来年、日本オープンやる“黒潮”なんかは海を見ながらティーショットが打てるし、距離もたっぷりあるから、めっちゃお勧めだよ。高知でラウンドするなら絶対“黒潮”だね。しかも高知は1年中暖かいし、酒も魚もうまい。ついでにカーリー・ウエップ似の僕の奥さんも高知出身だし…。キムちゃんは何？」

木村：「お前、人も羨むいいコースばっかりじゃん。ちなみに奥さんのことは別に聞いてねえヨ。俺は大阪、成田、アムステルダム、名古屋、東京と転勤してきたけど大阪、成田時代は試験を受けなければならなかったし仕事を覚えるのに必死でゴルフ1、2回しかやってないな。どこかも覚えてないよ。アムステルダムに行ったらは多少余裕出

てきたからオランダ内はもちろんイギリスやフランス、スペイン遠くはオーストラリアまで遠征したな。でもヨーロッパはハンディキャップ証明出せとか結構うるさかったよ。北の方は冬は地面がグチャグチャになるからまず満足にプレーできないし、それ用にスパイク付きの長靴なんか売ってるんだよ。珍しいから買ってこようと思ったけど日本じゃ使い道無いから止めたよ。

でも一番傑作だったのはセントアンドリュースだな。ここはくじ引きに当たらないとラウンドできないんだけど、これが厳しい。まず一般の一見さんは当たらないらしい。結局、自分達も案の定くじに全部外れて『ニューコース回れ』なんて言われてふてくされてさあ、記念にとコース横のゴルフ用品店でガンガンお土産買ってただけど、父親がその親爺と意気投合して、なんかわからんけど急に回れることになって結局2日間ラウンドできちゃった。最初のホールは人が道横切ってるしマイクで『ティアアップブリーズ』なんていわれてがちがちになってひっかけてOBだよ。1日目は天気が良くて、これがあのセントアンドリュース？意外に簡単？なんて思ってたんだけど、2日目は大雨で風がびゅんびゅん吹いて前の日9番で届いた距離が4番で打っても届かないんだよ。打ったボールが本当に90度近く急上昇するのを初めて見たよ。正に風の壁だよ。凄いよ。それと海外のコースはどれもそうだったけどラフに入ったらずボール見つからないし、あってもまず1打じゃ出ないよ。ほんとに。ターンペーリーとかロイヤルトルーンなんて俺にとってはただの荒野原にしか見えなかつたぐらいだもん。それを考えるとプロっていうのはやっぱり神様だね。その後、異動した名古屋は今から考えると本当にゴルフ天国だったな。“三好”とかは本当にいいコースだよ。上司のピンチヒッターで東海クラシックのプロアマに一回出さしてもらったけどグリーンが鏡のようで大変だったよ。」

三徳：「何！キムちゃんだっていいところ行ってるやん。でも、そう考えると、やっぱりゴルフを含めて東京は最低だね。僕も本社時代は最悪だったよ。だって去年の今ごろ自分がまさか仙台に行くとは思ってもみなかったもん。通常うちの会社の異動は、3〜4年弱が普通で、2年で異動は何か特別な事情がないと有り得ないからさア。だから今年の3月に、本社からたった2年足らずでクビ同然で異動となった時はあまりのショックで、1ヶ月位落ち込んでた。ショックから立ち上がったのは仕事じゃなくゴルフがきっかけだったよ。異動して暫くして、雪解けと共にゴルフ場がオープンとなったんだけど、異動した店が支店長以下全員“ゴルフバカ”の集団であることがわかってさ、ちなみに“ゴルフバカ”って言うのは、毎週『週刊ゴルフダイジェスト』を読み、休みはゴルフ、しかも調子悪いと翌日日曜もラウンド、道具はほぼ最新、ラウンドは1ハーフ、年の

暮れ雪が降ってもラウンドする人達のことをうちの社内というんだ。もちろん社員旅行も翌日はコンベだよ。僕はゴルフ部出身というんで、『人が足りない』『ちょっと見てよ』と毎週土日ラウンドに誘われる様になって、そのうち調子も上がってきて異動のショックが癒されたって訳。不思議なもので、30台が出始めると、後ろ向きだった仕事も、もう一度やるぞという気になって来たんだよ。上司もそういった事情を察しているのか、『次の一打をどう打つか考えて行動しろ』『ゴルフのバットと同じでもっと慎重にやれよ』なんて冗談のように指導してくれて、最近『いい環境に恵まれているなあ』と思えるようになって来たんだよ。本社で毎日午前様で信用取引・先物取引の契約書や証券六法と格闘しながら、支店へ制度改正などの連絡に明け暮れた毎日に比べれば、健康的でいいと最近心から思えるよ。ゴルフをやってて本当によかったな。」

木村：「なんか、ゴルフにまつわるいい話って感じだな〜。俺は今、多い時は月の半分位出張でさあ、忙しくて全然ゴルフやる気力なんかなくて、この前も海外に出張行ってたんだけど、周りに最高のゴルフ場が沢山あったにも拘らず休みはホテルで寝てた。俺も頑張ってるゴルフまたやろうかな？倒さなくちゃ行けない敵も多いし…。三徳みたいに生活していく上でゴルフが活力になれば最高だよ。よし明日から練習場行くぞ！でも東京の練習場は狭い、高い、混んでるの三拍子だからやっぱりメゲそ…。ところで三徳、原稿早く出せよ。」

三徳：「キムちゃん！それはないよ〜。どうすればいいの？何を書けばいいか教えて〜。」

木村：「これから練習行くから知らん。自分で考えろ！」

ゴルフ天国？南米コロンビア・ゴルフ裏事情

久我 高輝 (H5年卒)



筆者は右、友人夫妻と

創部50周年、おめでとうございます。ゴルフというスポーツを介して様々な世代を超え交流出来るということは本当に素晴らしいことだと思います。今後ゴルフ部OB会が益々発展されることを祈念致します。

今般50周年の記念誌にエッセイを寄稿して欲しいとの依頼を頂きました。たまたま現在南米コロンビアの現地企業に務めており、大変僥越ではありますが、なかなか触れる機会の無い、当地の事情を紹介する意味でも書かせて頂きました。

最初に「何故コロンビアの現地企業で働いているのか？」と思われる方がいらっしゃると思うので、自分の経歴を簡単に説明させて頂きます。卒業後三井物産に入社し北中南米の自動車関連事業を担当していましたが、数年前に海外勤務地として赴任を命ぜられたコロンビアに滞在。その間、ふとした経緯から現在勤めている会社と縁ができ、スカウトされたのがキッカケとなりました。最終的に三井物産を02年3月末で退社し現在に至っている次第です。日本人が現地企業に就職するというのは、「多分初めてのケースではないか」とビザを発給してくれたコロンビア領事も言っていましたので、非常に稀なのでしょう。色々な意味で毎日エキサイティングな生活を送っています。

コロンビアという国のイメージとしては「麻薬、ゲリラ、誘拐」等が一般的ですが、逆に良いものはあるのでしょうか？ 敢えて挙げるとすれば、

- ・ コーヒー（缶コーヒー、スターバックスでお馴染み）
- ・ 美人の産地（ミス大会常連？）
- ・ エメラルド（知っている方はかなり通です）

といったところでしょうか。しかし、今回、ここには是非とも加えなければいけないものがあります。コロンビア駐在経験者、出張者ほとんどの人が一様にして挙げること、それは「ゴルフ天国」であることです。意外に聞こえるかもしれませんが、今回は知る人ぞ知る(?)「南米コロンビア＝ゴルフ天国・裏事情」をお伝えしたいと思います。

ここで、簡単にコロンビアという国をおさらいするとし

ましよう。南米大陸の北部に位置し、日本と比較した場合、面積は3倍、人口は4000万人弱と逆に1/3程度。経済面からみますとGNPは日本の1/58（南米では5番目）、一人当たりの平均年間所得も1900ドル（日本は25000ドル）と非常に低く、国民の半分以上がいわゆる貧困層に属すとの統計がある一方で、全人口の数%の高所得者層、つまり一握りの人達がこの国を動かしている、とも言われます（因みに、物価は大まかな印象で日本の1/4といったところでしょうか）。首都はボゴタ（人口800万人）。標高2600mという山間の高地に位置してほほとんどの邦人駐在者が集まっています。

それでは「何故コロンビアがゴルフするには最高な場所なのか？」その理由を幾つか挙げることにします。“それはオカシイ”と感じる方もいらっしゃるかもしれませんが、独断と偏見に基づいていますのでご容赦の程を。

1) ゴルフ場が高地にある＝空気が薄い分飛距離が出る！
→ 確実にドライバーの飛距離が伸び、アイアンの番手も一つは違います。しかし、これには欠点もあります。例えば低地のゴルフ場でプレーした場合、距離感の調整が難しくなり、加えて今まで「もっと飛んだはずなのに」と、勝手な勘違いなのに悩みます。また慢性的ですが、急に走ったりするとやはり息苦しくなります。

2) ゴルフ場が高地にある＝一年中爽やか、陽射しが強い時でも汗がほとんど出ない！
→ 普通にラウンドする限りでは汗をかきません。従って、ラウンド後はそのまま自宅に帰り（大体車で30分以内の範囲にある為）自宅で風呂に入ることになります。服も傷みづらくGOOD。

3) 四季が無い（乾季と雨季のみ）＝スギ花粉が無い、蚊が居ない、等々
→ 個人的には四季がある方が好きですが、花粉症に悩まなくて良いのは大きいです。衣替えるする必要もありません。因みに雨季といっても亜熱帯地域の雨季とは異なりシトシト降る雨です。

4) 物価が安い＝プレーヤーが安い！（勿論その後の飲み代も）
→ なんととっても魅力です。会員である場合は月の会費（平均28000円位）を払えばラウンドはタダ。ゲストで回っても、1ラウンド2500～5000円です。これに、専属キャディをつけて（プレーヤー毎に担いで一緒に回ります）500～900円。これに昼食・軽くお酒をつけた場合1500円位でしょうか。毎週末、日に2ラウンド回りたくなる人がいるのも当然の成り行き？

5) ゴルフ場自体が素晴らしい＝世界のベストホール百選にボゴタのコースも2、3！？

→ 日本からは川奈CCも選ばれた中に意外や意外、当地のコースも複数入ったことがあるとのこと。コースは確か

に綺麗です。加えて、サウナ、屋内プール、テニスコート、乗馬場等の施設・設備が充実していて、家族で過ごすにはもってこい！

「これだけ好条件が揃っていてゴルフが上達しなければオカシイ！」と言われるのも当然です。実際にほとんどの駐在員が腕を上げて日本に戻られます。一方で単なる趣味の範囲に止めないように意識して活動しているゴルフ仲間もいます。現実として「ゴルフ＝お金がかかるスポーツ」として当地では経済的な理由からごく限られた一部の人達の趣味・娯楽であるのも確かです。そのような環境の中、現地の人と一緒にラウンドしたりコンペを開催したり、ゴルフが懸け橋となりお互い交流を深めています。様々な意味でゴルフは役に立つものだと、最近強く感じています。

肝心な本人の腕前は？やはり例外ではないみたいです。何より、学生時代とは違い「しぶとい」ゴルフをするようになったのは気のせいでしょうか。近い将来、このエッセイを読まれて興味を持たれた方達と当地でゴルフ部OB会コンペを開催出来るのを夢見つつ…。



テレビ局のスポーツを通じて

川田 真之 (H7年卒)



現役時代、筆者は左

「スポーツ番組を希望する君が、今まで見た中で一番いい企画は？」

日本テレビ入社試験では最大の難関である局長面接でそんな質問が飛んできた。私が答えたのはテレビ東京で見た、「小田和正が青木功のキャディにつき、トーナメントを共に戦う」という企画。ゴルフは好きだが、トーナメントの仕組みも知らない歌手の小田和正が、青木に怒られながらキャディの仕事をおぼえる。二人の距離が近くなるに連れ、青木の順位が上がっていくというストーリーだった。「あれはよかったよ！」誰も見ていないような企画がこの面接で大好評。合格を決定付けた。

しかし、配属先は営業。しかも電通担当。激しい飲み会と果てしない残業に追われ、自分を見失った時期もあった。ところが、そこで出会ったのは当時電通の営業にいらっしやった遠田先輩。上智ゴルフ部の先輩である遠田さんに電通社内の色々な人を紹介してもらい、ゴルフ好きが集まる「電通マスターズ」に出場。幸い、まだ新入社員で腕の衰えていなかった私はなんと準優勝。「日本テレビ川田」の名がその業界で一気に広まった。人脈が出来た私はお得意さんや代理店の人を相手にゴルフレッスンを開き、貴重な情報を入手。仕事も順調に進んだ。このままの仕事をしていれば楽だ。売り上げでフジテレビも抜いたし、結婚もしたし、いいや。そんな生活が6年間続いた。

ところが去年、こんな情報が舞い込んだ。「タイガー・ウッズ、日本で行われるEMCワールドカップに出場決定！」

招待料だけで何千万もかける日本ツアーと違い、今度の世界ツアーは本気だ。どうしてもウッズを取材したい。そう思った私は一応新入社員から出し続けていた、スポーツ職場への異動を強烈に志願。上司にわがままを通してもらうと、スーツからGパンに着替え、新たな職場へと向かった。しかし、現実は厳しい。29歳ともなるとAD業務と徹夜続きで休みは月4日。これはさすがに堪えた。今までの仕事のリセットされてしまい、いつのまにか「仕事の出来

ない人間」に戻っていた。やはり自分は営業に向いているのか？

異動から5ヶ月。あまりの忙しさに、今日が何曜日から分からなくなっていた去年の10月、シフト表をふと見るとこう書いてあった。

「川田…EMCワールドカップ4日間取材（太平洋クラブ御殿場コース）」

プロデューサーが忘れかけていたウッズの取材につけてくれていた。新千葉の従業員食堂で夜中にテレビで見たマスターズを思い出した。ウッズに会える、喜んで御殿場へ向かった。

最終日の18ホールのPAR5。日本のゴルフトーナメントでは考えられない数のギャラリーが遠くからやってくる。そして、しばらくすると最強コンビ、ウッズ・デュバル組がペアルックでやってきた。前半出遅れながらも、驚異の追い上げでトップと2打差につけたアメリカチーム。グリーン右からウッズの第3打。その瞬間、時間が止まった。しばらくしてから、「イエー！」という、USPGAツアーカーリグ戦の第1打でしか聞けないアノ歓声が上がった。2打差で迎えた最終日の最終ホールでプレーオフに持ち込む奇跡のチップインイーグル。こんな芸当が出来る人間は世界に1人しかいない。プレーオフで敗れたウッズにどうしても聞きたい事があって、たどたどしい英語で質問した。「今日は何でデュバルと同じ服を着ているの？」ウッズはデュバルと顔を見合わせてこう言った。「朝起きたらたまたま同じ服だっただけさ。」

けたたましいプロペラ音がゴルフ場中に響き渡ると、ウッズは感動だけを残して自家用ヘリコプターで帰っていった。やはり、この仕事を希望して間違いじゃなかった。そう思った私はウッズの企画を作った後も、担当する「スポーツうるぐす」や「スポーツMAX」でカーリ・ウェブ、中島常幸、日大の故竹田監督と湯原信光、ほかにゴルフに限らず色々な企画を作ってきた。いずれは上智大学ゴルフ部の企画を作りたい、そう思う今日このごろです。



「人に伝える」仕事

川口 崇 (H10年卒)



上智大学体育会ゴルフ部、創部50周年おめでとうございます。学生時代、大学の東門から歩いて10秒の好位置に住んでいたの、グラハウ（グランドハウス）にはよく通いました。ジャージ姿で語学の授業を受けて直行するのが日課でした。雪の日のネット下ろしはとにかく焦りました。幹部になっても「積もってネットが破れたら、坊主だ」と練習場のネットよりペナルティのことばかり心配していたのが昨日のようです。わが庭のように使わせてもらったグラハウと、半世紀も続く伝統ある部に所属できたことに感謝の意を込めて、今回は書かせていただきます。

大学卒業後、ゴルフ雑誌の出版社「ゴルフダイジェスト」に入社しました。漠然としています、もともと「人に言葉で伝える」仕事でした。活字・写真媒体を選びました。それは今も変わりません。その後、週刊編集部配属になりました。レッスンページやクラブページの担当になり、ツアープロが活躍するトーナメント会場でプロを捕まえては取材と写真撮影をお願いする日々。トーナメントは木曜日からなので、練習日の火曜日からプロアマ戦の水曜日に取材をするのが常です。写真撮影が多く「晴れるように」天に祈る気持ちでやっていました。

思い出の取材はハワイで開催された2000年の米ツアー開幕戦でしょうか。アーニー・エルスとのプレーオフを制したタイガー・ウッズは見事に出場試合6連勝を飾りました。そのとき練習場のタイガーに密着して、ラウンド前後の練習内容をそのままページに仕上げたことが印象に残っています。日本でのオフは新春ジャンボ合宿に飛び入り参加して軍団の選手達と仲良く（怒られながら）1年の抱負を聞いたりもしました。

ただ、雑誌作りは取材がメインではなく、ページを作ることがメインなので取材から帰ってきてからが（本当は取材に行く前が）勝負です。ページ構成、ラフスケッチ、見出しつけ、図版・イラストの発注まで、推敲しながら作ります。それでもデスクからダメ出しの連発。これがないと独り善がりになり、ページが面白くできません（でも、締め切りギリギリまでチェックしてもらわないで、やりたい

ようにページを作る裏技もよく使っていました)。これからがさらに勝負。デザイナーとページ構成の打ち合わせをしたら、文字数に合わせて、ライターに原稿執筆を依頼。自分で取材した企画は自分で書きます。取材不足は電話での再取材や直接会って話を聞きました。米ツアーの企画では佐渡充高先輩にも原稿をお願いしました。最後に念入りに校正して担当ページの完成です。

これを毎週繰り返していましたが、疑問がありました。「読者が必要な情報が何かを掴んでいないし提供していないのでは？」と。もっと受け手と個別に直接的に対話できる伝え手になりたい。3~4年で雑誌の編集職人を究められるわけではないし、ゴルフや雑誌作りが嫌いになったわけではなかったのですが、より情報を必要とする人と現場で仕事をしたくて転職を決意しました。そこで探し当てたのが昨年9月から働いている在宅医療のクリニックです。

雑誌の編集という異業種からの転職に不安はありました。意味不明な多くの医学用語や福祉用語を前に、多くの宇宙人と話をしている感覚で日々を送り続けています。ただ不思議なもので、毎日の電話対応や医師と同行して患者様宅を訪問するうちに、メスを持たなくてもできることに気がきました。答えは単純でしたが、医療ではまだまだの分野です。「患者さんやご家族が何を求めて在宅を選ぶのか知ろう。それからその現場で得た生の情報をクリニックや地域に伝えよう。もし診療情報の中で患者さんが知りたいことがあれば分かりやすく伝える役割を担おう」と考えました。世の中では情報公開法や保護法が整備される中、医療従事者と患者さん側の情報量を考えたとき圧倒的に医療側が多量です。この情報量のギャップを少しでも埋めて、もっとスムーズにコミュニケーションがとれる媒体になれば、患者さんの選択肢、理解度、医療サービスの満足度に貢献できるのでは？というのが医療を選んだひとつの理由でもあります。

在宅は患者さんの意志を明確にしやすい場所です。訪問する時間、医療処置も病院と違い限られますが、それだけに患者さんの選択権・自己決定権が強く求められます。こちら情報提供する分、消費者（患者さん）が自分のことを自分で判断しなければなりません。一般サービス業ではごく普通のこと、医療でも当たり前になるかもしれません。臨床現場ではどんな声が聞かれるか寄せ集め、毎月発刊の通信を作り「人に伝える」仕事も続けています。終わりはありませんが、少しでも役に立てればと思います。

最後になりますが、今回記念誌への寄稿の機会を賜りまして本当にありがとうございました。上智大学体育会ゴルフ部が創部60周年、70周年と迎えられることを祈りまして筆をおかせていただきます。

(注：筆者は現在医療系出版物の作成に携わっています。)

現在の四谷近辺

半世紀のうちに、変わったもの、変わらないもの…

50年前とはすっかり変わった四谷見附の橋。現在は地下鉄南北線も通っている。



新装されたイグナチオ教会と7号館

上智大学の土手側の門。右手の1号館は昔の趣を伝えているが、左手には新2号館（仮称）を建設中。



上智会館1階食堂（学食）の奥左手が、ゴルフ部の指定席だった。



しんみち通り。角の来々軒やBAMBI、ルノアールは今も健在だ。

細川護熙・佳代子夫妻に聞く

「ゴルフ部時代とその後、そして今」

昭和38年卒業のわれらがOBにして日本政界のトップに昇りつめたひと、さらに夫人もOGという意味では、羨望的であり異色の才能である細川護熙さん。政界をしりぞかれた現在は湯河原で畑と陶芸三昧の日々を送っておられます。今年7月、その湯河原のご自宅「不東庵」にうかがって、夫妻のお話をうかがいました。



—まず、細川さんがゴルフ部に入られたきっかけからおうかがいしたいのですが。

細川 たまたま上智の運動場が当時都内でもめずらしい打ち直し練習場で、そこだとただいくらでもボールが打てると聞いて、それならやってみようかなと。それで練習場へ行ってみたら、野村(征二)さん(36年卒)がひとり練習していて、なんだか寂しくてちょっと田舎っぽい雰囲気クラブでしたね。道具は父のお古を一式もらいました。クラブはウォーターヘーゲンでしたね。

—日本ゴルフ協会の会長だった父・細川護貞氏も、祖父・護立氏も、東京ゴルフ倶楽部でハンディキャップ4と12という名手でした。細川さんもすでにゴルフをやっていたんですか。

細川 やってません。テニス、スキー、山登り、乗馬とかいろいろやりましたが、ゴルフには全然関心がありませんでした。父は子供のころからゴルフをしてましたからね。関東アマのベスト4くらいまでいってるんじゃないかな。軽井沢や東京倶楽部のクラチャン(クラブチャンピオン)にもなっています。祖父はハンディ9とかいってましたけど、あんな細身の人ですからほんとかなと思いましたがね。母方の祖母(近衛千代子)とは何回かプレーしましたが、いちばんよかったのは伯父の近衛文隆(文磨の息子)。プリンストン大学のゴルフ部のキャプテンで、当時ハンディプラス2だった。軽井沢の10番の、250ヤードほどのところにあるクリークにドライバーで打つと入っちゃうので、アイアンでティーショットしていたというほどの飛ばし屋で、ウォーターヘーゲンとラジオマッチ—当時テレビはなかったですから—をしたり。

話はそれますが、ぼくは大学なんかいかずに植木屋になりました。ところがこの伯父が、ぼくが高校2年のときにシベリアで亡くなってしまった。日本の将来を担う政治家として囑望されていたから毒殺されたんですね。「異国の丘」という劇団四季のミュージカルの主人公ですけど。それで植木屋をあきらめて政治のほうへいく決心をしたんです。

—当時のゴルフ部の練習のようすは？

細川 当時はレッスンプロといっても職人さん気質で、体系だってスイングを教えるなんてやらなかった。プロも先輩もいっしょになってクラブハウスで「こいこい」なんかやっていた(笑)。坂口(弘征)さん(36年卒)はまじめに練習してましたけど。グラウンドに向けてのドライビングレンジはすでに使用時間がかなり制限されていて、ソフィア



ゴルフクラブが新しく建てたインドアの鳥かごの練習場が中心でした。こっちはグラウンドを背にしてニューオータニ側に向かって打つんです。

—試合はどういう所で？

細川 浮間とか東雲でやりました。立教や学習院とのフレンドリーマッチが中心で、個人戦とかはあまりなかったですね。練習場のゲージでしょっちゅう昼飯代を賭けてアプローチやバンカーの練習をしたから、スコアはわりにまとまって、学生時代のハンディは7か8くらいかな。それ以来、何十年とスコアカードを提出してないのでよくわからないんだけど、いまは東京倶楽部も軽井沢もハンディ10になってるんじゃないかな。

—合宿はおもにどちらで？

細川 太田ゴルフ場ですね。暑い盛りに2ラウンド以上まわるんだが、アイスキャンディー売りのおじさんがコースの外の田舎道を自転車で、チリンチリンと鈴を鳴らしながらやってくる。それをつかまえるのが最大の楽しみでした。もう一つの思い出は上州名物の雷。太田は飛行場跡で避難小屋はおろか木一本ないから、雷がなるとみんなスパイク脱いだり時計やら金めのものを捨てて大騒動してクラブハウスまで走って逃げたんですよ。ズボンのベルトを外して逃げて、あとでズボンにチャックがついていることに気がついて、なんだばかばかしいって大笑いしたり(笑)。ほかに軽井沢にも行きましたが、これは遊びで合宿ではなかったと思う。合宿は男女いっしょでした。女子は人数が少なかったからね。ぼくが入ったころは女子の部員はまだ数人しかいなかったと思う。少したってから日比(桜井)さん、上岡さん、小倉(蔵本)さん、柳田さん、岡村さんとか5名くらい入ってこられて。佳代子たちのころから女子が多くなった。

—奥様はどうしてゴルフ部に入られたのですか。

佳代子 湘南白百合学園はスポーツなんて何もさせていただけのお嬢様学校でした。だからプライベートに波乗りとか泳ぐこと、スキーとかはしたけれど、部活動をしたことがなかったの。それで、大学で一から始めても高校からしている人には絶対にたちうちできないから新しいスポーツがいいなと思って。たまたま父と兄とがゴルフをしております、そのころ江ノ島の片瀬山という所にゴルフ場があって、いまは住宅地になってますけど、家から車で10分くらいだったので、兄はしょっちゅう行ってました。もう一つ合気道もやりたかったの、合気道のクラブにも顔を出して両方やろうと思ったら、両方は無理だといわれて、あちらは女性が一人もいなかったのゴルフに決めました。

—それは細川さんが3年のときですね…。

佳代子 私たちが入ったときのキャプテンは高橋(坦)さんだったの。高橋さんは女子にはすごくやさしくて、それはていねいに教えてくださったから、みんな憧れちゃって。とくにタコ(田中豊子さん)がもう大変な熱をあげて、そのまま結婚しちゃったけど(笑)。それくらい親切に教えてくださった。新入生のころはまだ男子の合宿に連れていっていただいたり、甘かったわよね。ところが1年の秋になったら女子のキャプテンが日比さんから上岡さんに変わって、練習も厳しくなった。上岡さんは松山高校の短距離走の選手で国体にも出たくらい足が早くて、男性でも叱りとばすような元気のいいスポーツウーマンでしたから。男子のほうもいつの間にかキャプテンが高橋さんから細川に変わっちゃったわけね。そしたら何も教えてくれなくて知らん顔でしょ。あまり話す機会もなかったわね。

—細川キャプテン時代はランニングとか、いわゆる合同練習はあったのですか。

細川 ありませんでしたね。

佳代子 うそですよ、みんなは走ってましたよ。みんな朝の強化練習したり走ったりするときでも細川の姿はみえない。一人だけしないんですよ。

細川 そういえば、ちょっとは赤坂御所のまわりをランニングしたりなんかしたかな。でも、あまり記憶がありませんね。

佳代子 やっぱり殿様だった。みんなといっしょにわいわい騒いでいるけど、ちょっと違ったわね。年も同期と五歳離れてますよね。本人はちっとも変わってないと思ってるけど、われわれからみたら、すごく変わってる(笑)。

—私たちの時代は、合宿はキャディバッグを背負って、ボールからボールまで走る、先輩がショットをしたらドンマイかナイスショットと大声でいうのが義務でしたが。

細川 ゴルフ場で走るの？ そんなことしなかったよ。変なキャプテンがいて、そうなったんだな、それは。

佳代子 私たちはボールからボールまで走らされました。ゴルフ場でも練習でも、年がら年中走ってましたよ。

—奥様は2年で女子のキャプテンになっておられますね。

佳代子 上岡キャプテンのあと、3年生は二人だけであまり活動をなさらないから、5人入ってきた1年生から不満が出て、女子は独立してほしいという要望があったんです。そしたら、3年のキャプテンが「私にはとてもできないから、あなたやって」といわれたので、私が2年でキャプテンになったの。それで厳しくしたら、半年くらいして「これじゃ厳しすぎて、とても学業と両立できない」って5人ともやめちゃった。一生懸命練習したわりには技術が伸びないという悩みもあったんだと思いますけど。だからOB会名簿は私たち40年卒の前後は、女子の名前がないんです。

—「バーブ」というニックネームは？

佳代子 私は生まれたときから「バーブ」。佳代子といえなくて自分でつけたニックネームなの。だから親戚はもちろん、湘南白百合の校長先生から全校生の間でバーブで通っていて、本名を知ってる人がいないくらい。だから上智に来て上田さんといわれると、ピンと来なかったわね。たまたまゴルフ部の2年先輩の小倉さんが白百合の先輩で、バーブ、バーブと呼んでくださったので、ゴルフ部でもバーブになった。だからゴルフ部女子のニックネームの伝統には私のバーブが影響したんじゃないかしら。最後まで5人でがんばった同期生の伊藤(曾田)園子にはソソコ、田中(高橋)豊子はタコ、小穴(藤井)桂子にはオア、堤(岡本)智佐子は合宿中ホームシックで夜中にずっと泣いていたのでアカちゃんと私がニックネームをつけました。

—細川さんと奥様は、ゴルフ部時代におつきあいされてたんですか。(ここから細川氏、中座)

佳代子 ちょっとおつきあいしてくれといわれたんだけど、おつきあいてどういう意味かわかんなくて、「ワンノブゼムならいいですけど」といったら、「たまにお茶でも飲ましましょう」といわれて3回くらい二人だけでお茶を飲んだかな。でも先輩後輩でいたほうがいいと思ったので、



やきものの窯がある工房

それきり二人だけで逢うことはしなかった。でも、私が試合に出る前は電話がかかってきて「がんばれよ」といわれたり、そんな感じでした。

細川が卒業して朝日新聞社に入り、鹿児島支局勤務がきまって出かける前日によびだされて「こんど鹿児島へ行くけど、ほくは将来政治家になる。ほくは君を有望株として買っているから」なんて、へんてこなプロポーズをされたわけ。失礼しちゃうわよね、株だって(笑)。でも私はまだ二十歳だし、夢がいっぱいあったから、今は考えられないといってお断りしたの。

その後、私はゴルフは卒業して好きな歴史を勉強しようと思って留年したの。大学に入ったときにすでに自立宣言をして、お小遣いは全部キャディとかのアルバイトでまかなってただけど、その年にアルバイトに行った会社で正式社員になってくれ、少し英語を勉強したあとはヨーロッパに出したいといわれ、そこに就職しました。英文科といっても英語なんてろくにしゃべれなかったけど、行きたい一心で。その会社は、手であけるビールの王冠やら、立体写真を凸版印刷と共同開発して特許をとって、観光地で絵葉書にして売ったり、ポスターにしたりといったアイデア商品をつくっている小さな会社で、ヨーロッパにエージェントをつくってその駐在員として派遣しようとしたわけ。当時、女性を駐在員として海外に出すなんて前例のないことだったけれど、社長が変わったひとでしたからね。

ところが最初の駐在所が急にハンブルグになったので、現地であわててドイツ語を勉強してるうちに、ジュネーブに変わってフランス語になっちゃった。それからパリに1年。そのうちの半分以上が出張で、凸版の技術者といっしょに観光地をまわった。最後は王冠の仕事でスウェーデン

に半年。とにかくたいへんな3年間でした。最後の5か月間だけ英国の語学学校に行って勉強して、そのまま親戚がやってたテレビ放映用にマカロニウエスタンとかヨーロッパ映画を買い付ける仕事を手伝うためにイギリスに残ったの。そんなときにローマで彼とぼったり出会ったのが、こんなふうになるきっかけです。

—ほんとに偶然なんですか？

佳代子 そう。彼は最初の衆議院議員選挙に落選して浪人中で、朝日新聞や雑誌の取材の仕事ももらって初めて海外に出た。で、モロッコで書いた取材記事を当地から送るのが心配だからってローマに出しに来ていた。ちょうど私もローマで映画会社を買い付けにまわっていて、そろそろロンドンに帰ろうと思って私用で日本大使館に寄った。そのとき大使館のすぐ先の角でみかけたわけ。私が先に気がついて「あれ、細川さんじゃないかな」と思って、向こうが気づくの待ってたらタクシーに乗って行っちゃった。で、大使館の受付の人にたずねて細川さんと確認して、宿泊先を教えてもらって、よしおどかしてやろうと思ってね。私の宿泊していたペンションに戻って、イタリア人のお兄さんに日本語を教えて「あなたを知ってる日本人の女性があなたに逢いたいと待ってるので来て下さい」と電話でしゃべってもらった。でも待てど暮らせど来ない。で、もう一度自分で電話したの、受話器にハンカチ巻いてね。「名前はいえませんか」といったら「どこの誰かもわからない人に逢いに行けません」といわれちゃった。「それではこちらから逢いに行きます」といって、行ったらホテルの玄関のところで待っていて…私をみてびっくりしたようよ。喜劇よ、喜劇(笑)。

で、話を聞いてみると、家族は一切選挙の応援や援助をしなかったの勘当同然で、経済的にもたいへんで、絶望的な状況だった。そのときに「いま自分に必要なのはお金でも何でもない、君の明るさと元気だ」といわれて、うーんそうか…、という感じ。恋愛感情というより、手をさしのべねばという使命感にちかいか。一人前の議員になって目的を達していたらそれで終わってたかもしれない。じつは選挙に落選したことはロンドンで語学学校に行ってる時に聞いていて、そのときに初めて「残念だったけど、がんばってください」という葉書を書いたの。それがきっかけだったのね。だからローマで偶然再会して、やっぱりこういう運命なのか。気がついたら私も28だったし、このへんで結婚するのもいいのかなと自然に思った。それで1年後に結婚しました。



右手は自宅とつながる工房、左手が窯場

—ところで、現在の細川さんの暮らしぶりをうかがいたいのですが、ふだんはこの湯河原にお住まいなのですか。

細川 そうです。この家は母方の祖父(近衛文麿)と祖母が昭和の始めに建てたもので、98年5月に政治家をやめたあと住み始めました。基本的には晴耕雨読の暮しがしたいということで、以前はこの前の庭が畑だったんだけど、やきものの工房と窯場をひろげちゃったんで、畑はここから7、8分の所に借りています。ほんとうは知事をやめたときに、晴耕雨読の生活をするつもりだった。あれは54歳だった？

佳代子 45で知事になったから53歳。

細川 だから当時の県庁の記者クラブの連中から鋤やら鎌やら麦わら帽子までもらって。ところが行革審に引っ張りだされて、そのうち日本新党だって話になっちゃったからね。その鎌や鋤は今ここで使ってますけど(笑)。だけでも断固として60歳くらいになって区切りがついたら、と思ってましたからね。幸いに民主党を立ち上げることができたので、それを区切りに、ここでひかしてもらおうと思ったわけです。

—陶芸を始められたのはいつごろ？

細川 99年の4月8日、お釈迦様の日。奈良の山奥に窯をもっている陶芸家の辻村史朗さんを訪ねて、そこで初めてろくろをまわしました。それまでやきものには全く興味がなかったんだけど、たまたま亡くなった評論家の白洲正子さんの娘婿の牧山さんの個展をみにいったら、なかなか楽しそうなので、じゃあやってみようかと思ったんですよ。例えば絵とか別のものに出会っていたら、そっちへ行っていたかもしれない。

—抹茶茶碗を中心に焼いてらっしゃるのは、子供のころから茶道具をみておられたからですか。

細川 それが全然みたことないんです、最近まで。もちろん600年前からの先祖伝来の名碗といわれるようなものは、細川家の美術品を収蔵している永青文庫にいっぱいあるんですよ。それに祖父も父も蒐集家でしたから日本画・洋画、中国の古陶磁いろんなものを集めていた。私は祖父と暮らしている時間が長かったんですが、祖父は毎晩夕食がすむと絵を掛け換えるのが習いで、梅原さんの絵を安井さんの絵に掛け換えるとかそういうことは毎日してた。でも祖父も父も茶陶(茶道具)にあまり関心がなかった。だから2年前に出雲で細川家の茶道具展が開かれて、そのとき初めて家に伝わる茶陶をみたんですよ。

抹茶茶碗を焼くようになったのは、信長・秀吉の時代か



らお茶碗が一国一城に匹敵する価値のものとされてきましたから、やるならその核心にズバリいこうと思っているうちにそうしちゃった。いまは七割がお茶碗で、そのほか水指とか花入とか茶入とか、お皿なんかも焼いています。

—ずいぶん各地でやきものの展覧会を開いておられますね。

細川 7月も15日から札幌の三越で展覧会があるので、昨日350点くらい作品を送りました。今年はそのあとパリと京都で予定がはいっています。陶芸は数寄者としてやるだけでプロになる気はないんだけど、個展を開けば無茶苦茶お客さんが来られるものだから、どのデパートも集客のためにやってくれて頼みにこられるので、最近個展においまくられて、これではいかんと思っています。

これが商売だったら大変だと思うけど、好き勝手にやるから、何とかできるのかな。でもプロの陶芸家の方々からみると、4年かそこいらで展覧会を開いてこんなに売れるなんて「とんでもない」と思っておられると思いますよ。

—ここでの日々の暮らしは？

細川 家内は十日に一度くらいしかここにこないから、基本的にはいっしょにやきものをやっている息子と二人暮らしです。息子は大学をやめて植木屋でアルバイトしていたのですが、ちょうどぼくと同じ時期に偶然やきものを始めた。朝はまず8時半までにゴミ出し。その前の8時くらいから宅急便が来るから、そのころにはもう稼働態勢。陶芸の材料を届ける宅急便が一日に最低でも5回は来ますからね。9時にもう一人やきものを手伝ってくれている人がくると、三人で作業を始めます。やきものの仕事って、土こねや削りや天日干しなど、ろくろをまわす以外に下仕事がいっぱいあるんですよ。それに三つ窯があってひっきりなしに焚いているから、忙しい。その間にお客様がこられ

るでしょ。夜は夜で、個展のための「書」も書かなければならない。それが結構たいへん。

とにかく来客が多いんですよ。最近、お茶室ができたからその取材もふえて。この工房も窯場もお茶室もぜんぶ、東大の藤森照信さんをはじめとする縄文建築団の方々ボランティアで建ててくれたんです。茶室のほうは、3月にシラクさんが来るというのに間に合わなくなったから、俳優座の大道具さんたちをお願いして一晩で仕上げた、だから「一夜亭」。たまたまシラクさんがイラク問題で来なくなったからよかったんだけど。だから7月からはお客さんや取材を週1回に制限しようと思っています。

—炊事・洗濯は？

細川 料理は家内が一週間分まとめて作って、パックに二人分にかけて冷凍庫に入れていってくれるのをチンして食べてます。窯焚きのときはお手伝いさんに来てもらいますけど。掃除、洗濯、もちろん自分たちでやりますよ。

佳代子 今日は突然夕方の方で東京へ帰らなくてはならなくなったので、大急ぎで料理を仕込みました。

—いまは月にどのくらいゴルフ場に行ってるいらっしゃいますか？

細川 月に2回くらい、この近くのゴルフ場でお誘いを受けたときですね。東京倶楽部なんか30年間で行ったのが3回か4回くらいかな。ここから東京をこえて埼玉や千葉へ行くのはちょっとつらいんですね。前の日から泊まりがけで行くほど熱心じゃないもんで。

—50周年記念コンペは神奈川県相模カンツリー倶楽部で開きます。スペシャルオリックス日本のチャリティー募金も考えておりますので、ぜひご夫婦で参加してください。本日はありがとうございました。



今年完成した茶室「一夜亭」



上智大学体育会ゴルフ部 OB 会のあゆみ

上智大学体育会ゴルフ部 OB 会は、卒業後も時間の許す限り現役の合宿に参加して後進を指導してくださった村田栄氏 (S31 卒)、吉田勉氏 (S32 卒) らの志からスタートしたとって過言ではないでしょう。こうした OB と現役学生との交歓ゴルフコンペもおこなわれるようになる一方、OB 仲間とコンペをしようという声も高まり、昭和 42 年 1 月、千葉カントリーで OB12 名がゴルフコンペを開催、以降、毎年 2 回 OB 会のゴルフコンペが開催されるようになりました。

しかし、OB 会といっても当時はまだ会費も定められておらず、村田氏が会長、吉田氏が会長補佐、瀬川幸一氏 (S41 卒) が会計および現役学生窓口となって、なかば独断的に運営し、会費不足になれば三人が補いながら現役の援助金として役立てるといった状況でした。

昭和 43 年、ゴルフ部は創立 15 周年を迎えます。6 月に柏ゴルフコースで創立 15 周年ならびに山室部長還暦祝コンペ、10 月 19 日には東京プリンスホテルで記念ダンスパーティーを開催 (ちなみにパーティー券は 1 枚 600 円)。その時に「The 19th hole」という記念誌が創刊され (編集長は平沢富吉氏、S44 卒)、OB 90 名の名簿が付けられました。これは現役学生が OB とのつながりを持つために編集した小冊子で、45 年には白田福秋氏 (S45 卒) を編集長に第 2 号が編まれています。この頃には年 1 回 OB 総会が上智会館でおこなわれ、新入生歓迎コンパ、現役 OB 交歓コンペ、納会、追い出しコンペ・コンパなどの諸行事には、山室宗忠先生や村田会長はじめ数名の OB が必ず参加し、交流をはかっていました。現役にも OB・OG 係があって、当時母校上智大学で教鞭をとられていた滝川好庸 (S40 卒)・瀬川幸一両先生の指導で、定期的に行事の連絡、戦績報告、会費納入のお願いなどを郵送していました。

昭和 47 年には創部 20 周年記念コンペが久邇カントリークラブでおこなわれ、翌春「The 19th hole 第 3 号」が出されています (編集長は白石俊明氏、S48 卒)。

25 周年となる昭和 52 年には、ゴルフ部が主催して第 1 回ピタウ学長杯ソフィアンズゴルフコンペを大宮ゴルフコースで開催。第 2 回ソフィアンズゴルフコンペは現役ゴルフ部と OB 会の共催で福島県グリーンアカデミーで開かれました。このコンペはその後、経済学部出身者による経済学部 OB 会 (伍堂光雄会長、S32 卒) が、その発足記念事業として引き継ぐことになりましたが、現在はソフィア会

主催、体育会ゴルフ部 OB 会が後援する形で「ソフィアンズカップゴルフ大会」として続けられています。

昭和 60 年 4 月 12 日、山室宗忠先生の喜寿のお祝コンペが相模原ゴルフクラブにておこなわれました。その夜、横浜大飯店で開かれた祝賀パーティーの席で、主催者の林北辰氏 (S32 卒・故人) から、村田会長の永年の功労をたたえるとともに、坂口弘征氏 (S36 卒) にバトンタッチしてはとの提案があり、出席者全員賛成で、新会長が決定。またその年の OB 総会で、坂口会長の指名により、中戸川洋氏 (S52 卒) がゴルフ部の監督に就任することになりました。技術以上に、山室先生直伝の「エチケットとマナー」を現役に伝えるべく、昭和 40 年代には村田氏が、昭和 50 年頃より吉田氏が瀬川氏を助手に頼んでつとめてこられた重責が、若手に引き継がれたのです。

しかしながら、その後坂口会長は大阪へ転勤となり、東京への出張や帰省を利用して会長職をこなしていただきましたが、滝川氏・瀬川氏も大学の公務が忙しくなったため、OB 会の運営が総務の藤岡三樹臣氏 (S35 卒) と中戸川氏の双肩にかかる状況がつづきました。坂口会長からも度々交代の申し出があったので、平成 4 年 12 月 4 日の OB 総会で吉田勉氏に会長が引き継がれ、吉田新会長のもと、翌年にひかえる 40 周年記念行事を目標に、OB 会の組織化がはかられることとなりました。

これに先立つ平成元年、昭和 50 年卒で個人事業経営者の松田茂氏、高橋紀雄氏、51 年卒の林裕美子氏の三人の雑談の中から、ゴルフ部諸先輩の人脈と智恵を集めるべく、現役当時の名簿をたよりに、近い年代の先輩に声をかけて OB コンペを開催することになりました。こうしたコンペは続けることにこそ意義があるということで、林氏のメンバーコースである大根カントリークラブで年 2 回、懇親ゴルフコンペを持つことを決め、「四ッ谷会」と命名。第 1 回四ッ谷会は平成 2 年 2 月に、前夜からの降雪ももろともせず 27 名が参加しておこなわれました。この四ッ谷会は吉田氏が新会長となって以降、第 7 回より OB 会主催の懇親ゴルフコンペとして位置づけられることになり、平成 15 年には 30 回を数えました。また、OB 会員名簿の必要性を痛感した林氏らは、新組織に移行するにあたり、平成 4 年 9 月に会則、役員、幹事の氏名を付記した初めての名簿を発行し、全 OB に送りました。さらに 10 月には OB 会や現役の活動案内と報告を林氏がワープロに打って作成

した OB 会誌を郵送。年に 4 回発行、全 24 回までつづけられました。個人的に OB 会と現役とのパイプ役をつとめた林裕美子さんの情熱と努力に負うところは大きいと思われます。

平成 5 年、11 月 15 日には水海道 GC において、国連難民救済チャリティー「上智大学体育会ゴルフ部創部 40 周年記念ゴルフ大会」を行いました。当日はゴルフ部 OB 87 名、他大学ゴルフ部 OB 49 名、上智大学関係者 33 名が出席。時おりしも昭和 38 年卒の細川護熙氏が率いる日本新党に追風が吹き、平成 5 年 8 月には内閣総理大臣に就任されたので、首相在任中に 40 周年記念ゴルフコンペが開催されたわけです。当日は台風一過の快晴に恵まれ、さすがに細川氏はご多忙のため出席できませんでしたが、夫人の細川佳代子さん (S40 卒) が代理で出席、18 ホールストロークプレーの後、表彰式・パーティーではスピーチもされ大いに盛り上がったものです。優勝は楠義紹氏 (S41 卒) で賞品のマグレガーのゴルフクラブフルセットを獲得されました。

以降、四ッ谷会、OB 総会その他年 2 回位の懇親会、そして全会員に送られる OB 会誌の発行が続けられ、少しずつ OB 会活動への参加者が増えてきました。

平成 11 年 1 月からは、会計、総務、広報、渉外、指導、幹事会というように役割も具体化し、現在皆さんのお手元に届く「BOGEY NEWS」を 11 年 6 月 15 日に創刊、現在年 3 回のペースで発行されているのはご存じのとおりです。ゴルフのプレーは、四ッ谷会、ソフィアンズカップゴルフ大会、現役・OB 対抗戦のほか、関東八大学 (早稲田、慶応、立教、明治、学習院、中央、法政、上智) ゴルフ部親睦ゴルフ大会への参加など。ゴルフをされていない方もビアパーティやクリスマスパーティなどの懇親会で旧交を温めています。

活性化した OB 会の会長職は平成 13 年に益野力一氏 (S42 卒) に引き継がれ、新役員が中心となって今年の創立 50 周年記念行事の準備をおこないました。



< OB 会活動メンバーの変遷 >

■ 昭和 42 年頃～
村田栄 (31 卒・会長)・吉田勉 (32 卒・会長補佐)
瀬川幸一 (41 卒・会計及び現役学生窓口)

■ 昭和 60 年頃～
坂口弘征 (36 卒・会長) 藤岡三樹臣 (35 卒・総務)
中戸川洋 (52 卒・監督)

■ 平成 4 年 12 月 OB 総会～
会長 吉田勉 (32 卒)
副会長 益野力一 (42 卒) / 林裕美子 (51 卒)
監督 中戸川洋 (52 卒) 総務 藤岡三樹臣 (35 卒)
総務補佐 松田茂 (50 卒) / 高島勝広 (51 卒)
会計 浅野義夫 (46 卒)
会計補佐 深澤雅子 (52 卒) / 望月明美 (52 卒)
幹事長 古知朝彦 (32 卒)

■ 平成 6 年 12 月 OB 総会～
会長 吉田勉 (32 卒)
副会長 平井康征 (41 卒) / 林裕美子 (51 卒)
総監督 滝川好庸 (40 卒)
男子監督 磯正光 (62 卒) 女子監督 林裕美子 (51 卒)
総務 吉田麻耶 (49 卒)
総務補佐 鈴木重美 (57 卒) / 星野政仁 (61 卒)
会計 浅野義夫 (46 卒) 会計監査 望月明美 (52 卒)
幹事長 蓋孝 (50 卒) 副幹事長 浅田将之 (51 卒)

■ 平成 8 年 12 月 OB 総会～
会長 吉田勉 (32 卒)
副会長 平井康征 (41 卒) / 林裕美子 (51 卒)
総監督 益野力一 (42 卒)
男子監督 藤田宗 (59 卒) 女子監督 林裕美子 (51 卒)
総務 吉田麻耶 (49 卒)
総務補佐 鈴木重美 (57 卒) / 星野政仁 (61 卒)
会計 浅野義夫 (46 卒) 会計監査 望月明美 (52 卒)
幹事長 浅田将之 (51 卒) 副幹事長 鈴木悌介 (54 卒)

■ 平成 10 年 12 月 OB 総会～
会長 吉田勉 (32 卒)
副会長 (総務担当) 楠義紹 (41 卒) 総務補佐 吉田麻耶 (49 卒)
副会長 (会計担当) 吉原重喬 (41 卒) 会計補佐 高島勝広 (51 卒)
副会長 (広報担当) 林裕美子 (51 卒) 広報補佐 板倉広忠 (48 卒)
副会長 (渉外担当) 益野力一 (42 卒) 渉外補佐 高橋紀雄 (50 卒)
総監督 高橋坦 (38 卒)
男子監督 藤田宗 (59 卒) 女子監督 鈴木重美 (57 卒)
幹事長 浅田将之 (51 卒) 副幹事長 鈴木悌介 (54 卒)

■ 平成 13 年 2 月 OB 総会～
会長 益野力一 (42 卒)
副会長 板倉広忠 (48 卒) / 吉田麻耶 (49 卒)
総務 林裕美子 (51 卒) 会計 高島勝広 (51 卒)
広報 松田茂 (50 卒) 渉外 高橋紀雄 (50 卒)
総監督 藤田宗 (59 卒)
男子監督 尾作謙一 (H3 卒) 女子監督 鈴木重美 (57 卒)
幹事長 楠義紹 (41 卒)

■ 平成 15 年 2 月 OB 総会～
会長 益野力一 (42 卒)
副会長 板倉広忠 (48 卒) / 吉田麻耶 (49 卒)
総務 林裕美子 (51 卒) 会計 高島勝広 (51 卒)
広報 松田茂 (50 卒) 渉外 高橋紀雄 (50 卒)
総監督兼女子監督 栗原晃 (41 卒) 男子監督 藤田宗 (59 卒)
幹事長 楠義紹 (41 卒)



Tracing **50** yearsh
of
Sophia Golf Club
記念誌寄付金協力者一覧

- 古知 朝彦 (S32)
- 吉田 勉 (S32)
- 中野 弘敏 (S33)
- 藤岡三樹臣 (S35)
- 大内田 康 (S36)
- 小檜山紀之 (S38)
- 高橋 鉄郎 (S39)
- 高橋 豊子 (S40)
- 清水 威男 (S41)
- 平井 康征 (S41)
- 益野 力一 (S42)
- 秋葉 哲 (S42)
- 勝俣 宏一 (S50)
- 松田 茂 (S50)
- 野本 真理 (S50)
- 藤田 宗 (S59)
- 谷口 達也 (S61)
- 小山 幸世 (S63)
- 大木 孝洋 (H 5)

林 李愛珠(故林北辰氏夫人)
石橋ファミリー

(2003年10月25日現在)

編集室より ～編集をおえて～

約1年半をかけてゴルフ部50周年記念誌を刊行することができました。創立時の大先輩方の座談会と、その後50年にわたる活動の記録を柱にすえ、多くのOBの声を反映させることをめざしました。後者のアンケートについては、予想外の数と量の回答を得たことから、当初の予定の2倍近いページ数のボリュームのある記念誌となりました。

「ゴルフ部創立事情」では、驚きの歴史を知ることになったOBも多いのではないのでしょうか。挿図の写真からは、たかが50年、されど50年ともいうべき時の流れがひしひしと伝わってきます。

「アンケートによる50年のあゆみ」については、ご自身の前後の学年だけではなく、ぜひ、大先輩たちのアンケート回答も読んでみてください。自分たちと同じこと、違うこと、さまざまわかって、とにかくおもしろい。ただし、リーグ戦の成績については、学連に戦績表の資料が残されていないことから、アンケート回答者の記憶に拠っていますので、ご了解ください。同じような事情から、個人戦の戦績を掲載することができなかったのは、残念です。

「カップルアンケート」については、予想通りの回答率でした。先輩方はやはり、語るのが恥ずかしいようです。それでも、17組のカップルが誕生していたことを確認できたのは収穫でした。福田夫妻の呼び掛け通り、カップルコンペが実現することを期待しています。

細川夫妻の湯河原のご自宅は、冷夏のあおりで氷雨降る7月6日、益野会長をドライバーに、永井恵子、林裕美子、滝井真智子の4人で訪問しました。ランチはもちろん小田原「鈴廣」のレストランで(経営者であるS54卒・鈴木悌介さんにお会いできなかったのは残念でしたが)。ご夫妻の写真を頂戴する時に、下着シャツ姿の細川氏にいちおう「そのお召し物でよろしいですか」とお尋ねしたのですが、「これがユニフォームだから、いいでしょう」との仰せで、シャツとスーツのツーショットとなりました。細川さんのインタビューの中に登場する、尊敬する伯父・近衛文隆氏については、劇団四季のミュージカル「異国の丘」になっていますが、その元本が『夢顔さんによろしく——最後の貴公子・近衛文隆の生涯』(西木正明著/文藝春秋刊)。プリンストン大学でのゴルフの話、美女にのめりこむ一途な青年の姿などがくつき

りと描かれている好著で、文庫本(上下2冊)にもなっていますので、ご一読をお勧めします。

最後に、編集委員のご紹介を。

委員長林裕美子は、OB会のあゆみでもふれたように、OB会や広報誌「ボギーニュース」の実質的な牽引者です。各OBとの交渉役を一手に引き受けました。

永井恵子は、日本語より得意な英語と、愛用のデジカメを駆使して(?)、おもに写真班を任じました。

松田茂は、プリンティングサービス業という自身の業務を最大限に利用して、デザイン・編集・印刷を担当しました。

滝井真智子は、出版社での編集の仕事の延長上で、全般に関わりました。

渡利由子と長谷川陽子は、平成年代のOBとの連絡役と、学連の資料調査にあたりました。

編集委員一同、この記念誌編集にあたって、数々のご協力をいただきましたOB諸氏にあつく御礼を申し上げますとともに、この記念誌がきっかけとなって、いま一度、自分がゴルフ部の部員であった良き時代に思いを馳せ、同期や先輩後輩との縁がより一層深まることを祈願いたします。

